2023年度　卒業時アンケート集計結果
家政学部

目次

1.家政学部　児童学科……2
2.家政学部　食物学科　食物学専攻……13
3.家政学部　食物学科　管理栄養士専攻……22
4.家政学部　住居学科　居住環境デザイン専攻……31
5.家政学部　住居学科　建築デザイン専攻……40
6.家政学部　被服学科……49
7.家政学部　家政経済学科……57

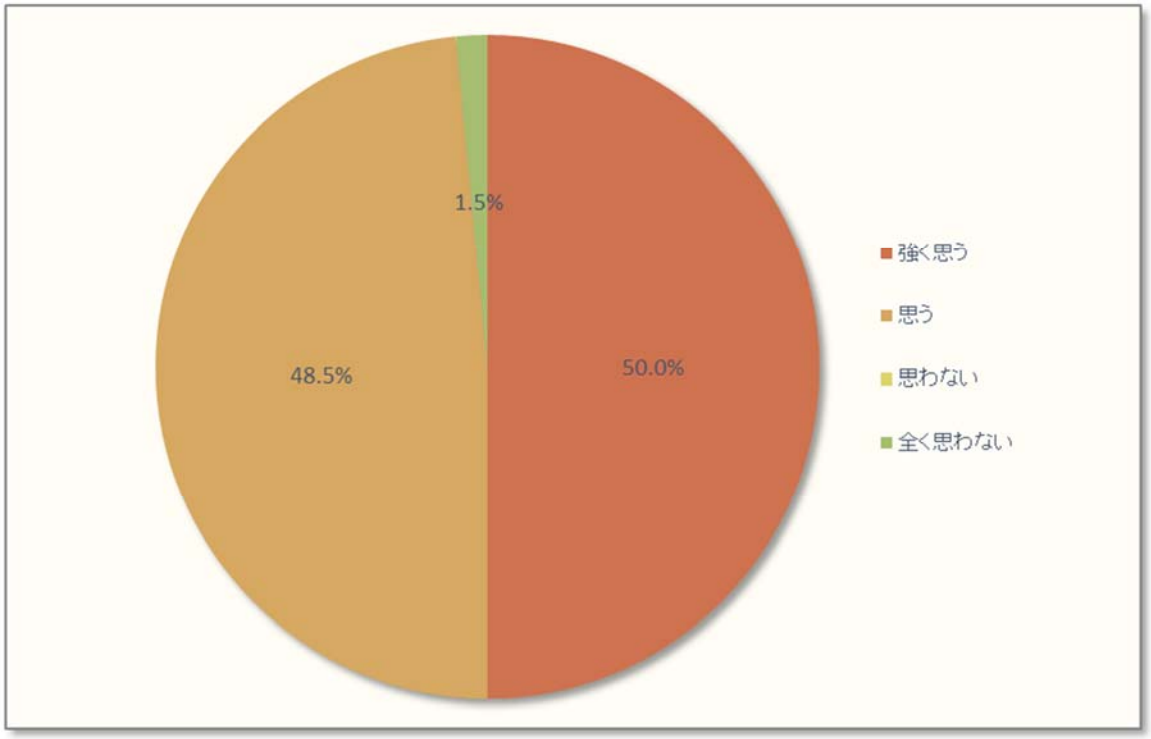
＜2023 年度回答率＞　アンケート実施期間：2024 年 2 月 1 日(木) 00:00 ～2024 年 2 月 15 日(木) 23:59
（児童学科・家政経済学科は別途期間に実施）

学部	学科	専攻	2023年5月1日 4年次在籍者数	回答数	回答率
家政	児童		96	66	68.8%
	食物	食物学	38	19	50.0%
		管理栄養士	60	35	58.3%
	住居	居住環境デザイン	59	8	13.6%
		建築デザイン	39	1	2.6%
	被服		92	18	19.6%
	家政経済		94	93	98.9%
	計		478	240	50.2%
文	日本文		146	37	25.3%
	英文		152	35	23.0%
	史		97	45	46.4%
	計		395	117	29.6%
人間社会	現代社会		110	11	10.0%
	社会福祉		100	18	18.0%
	教育		104	53	51.0%
	心理		77	47	61.0%
	文化		137	40	29.2%
	計		528	169	32.0%
理	数物情報科		92	43	46.7%
	化学生命科		96	80	83.3%
	計		188	123	65.4%
学部合計（通学課程全体）			1589	649	40.8%

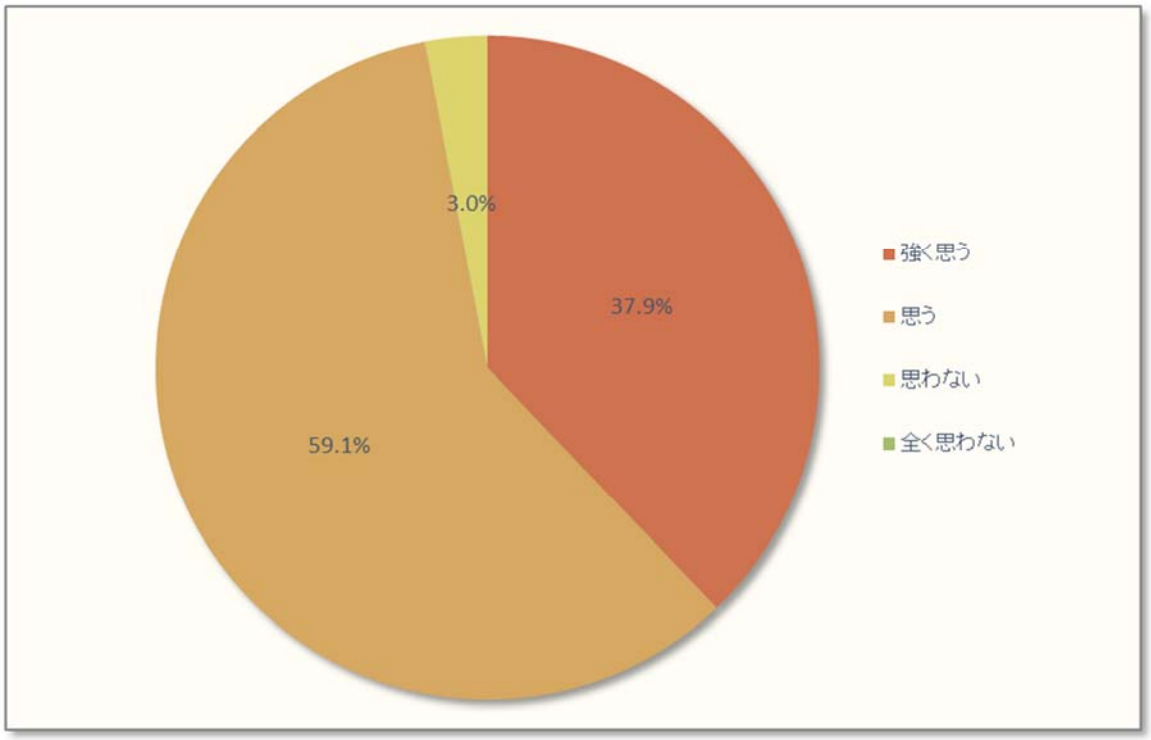
児童学科

児童学科の学生として以下のことが身についたと思いますか？[児童学科DP]

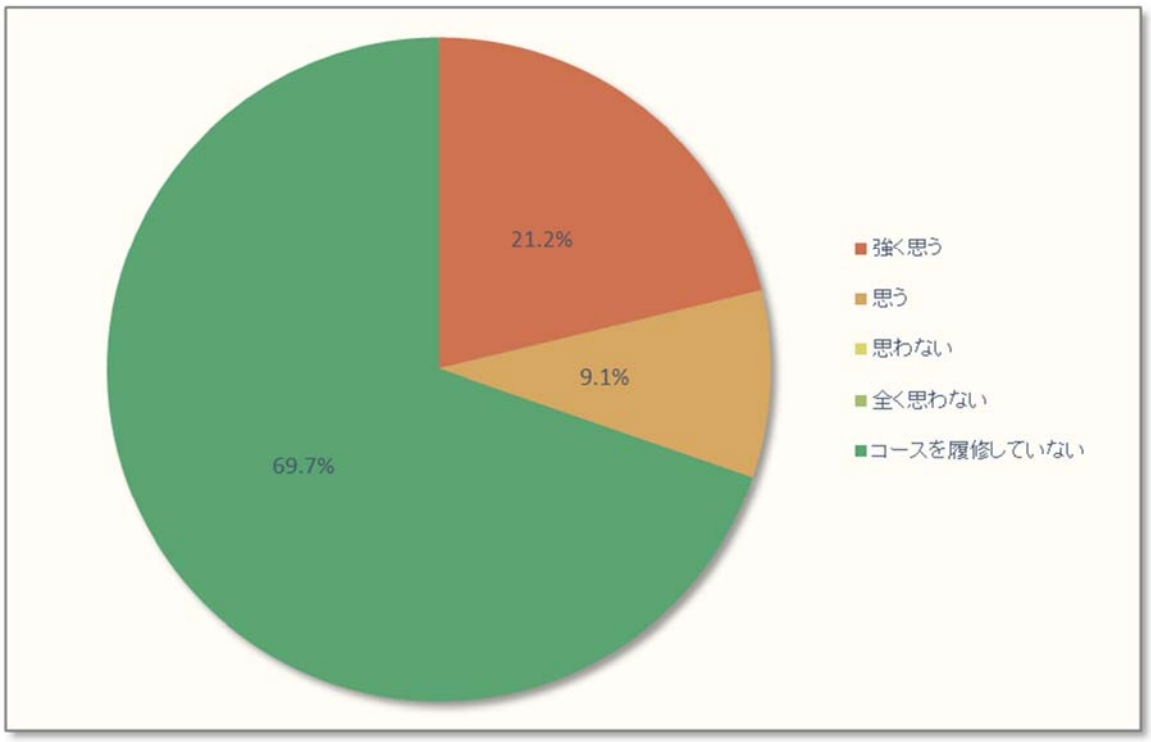
1. 児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。



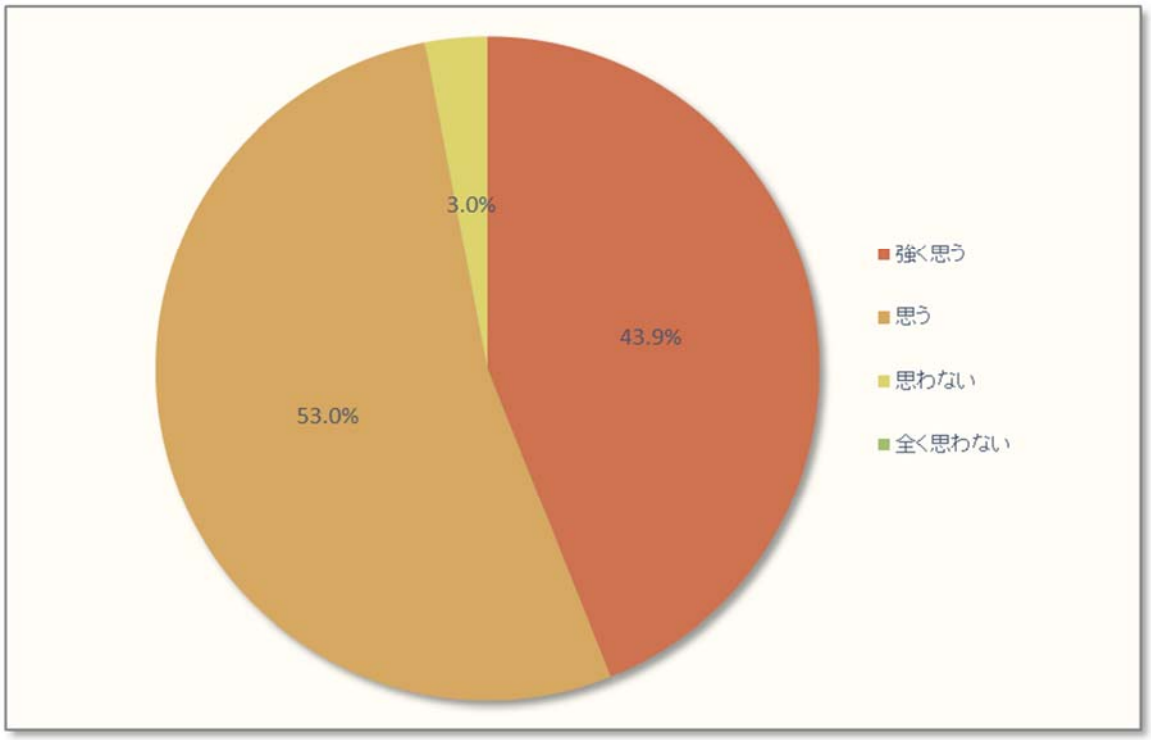
2. 「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の 3 領域から学ぶ専門的な知識を持って、18 歳未満の子どもを総合的に理解することができる。



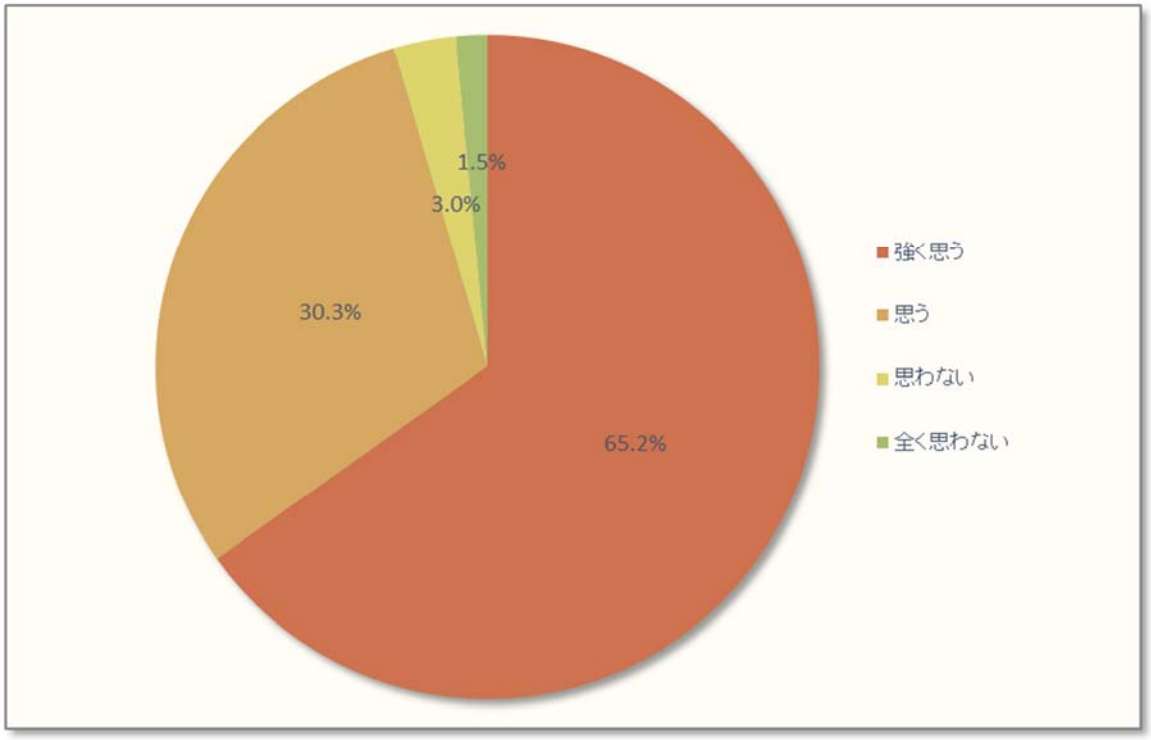
3. 保育者養成コースでは、幼児教育や保育に関する専門的知識を修得し、子どもを総合的に理解することができる。



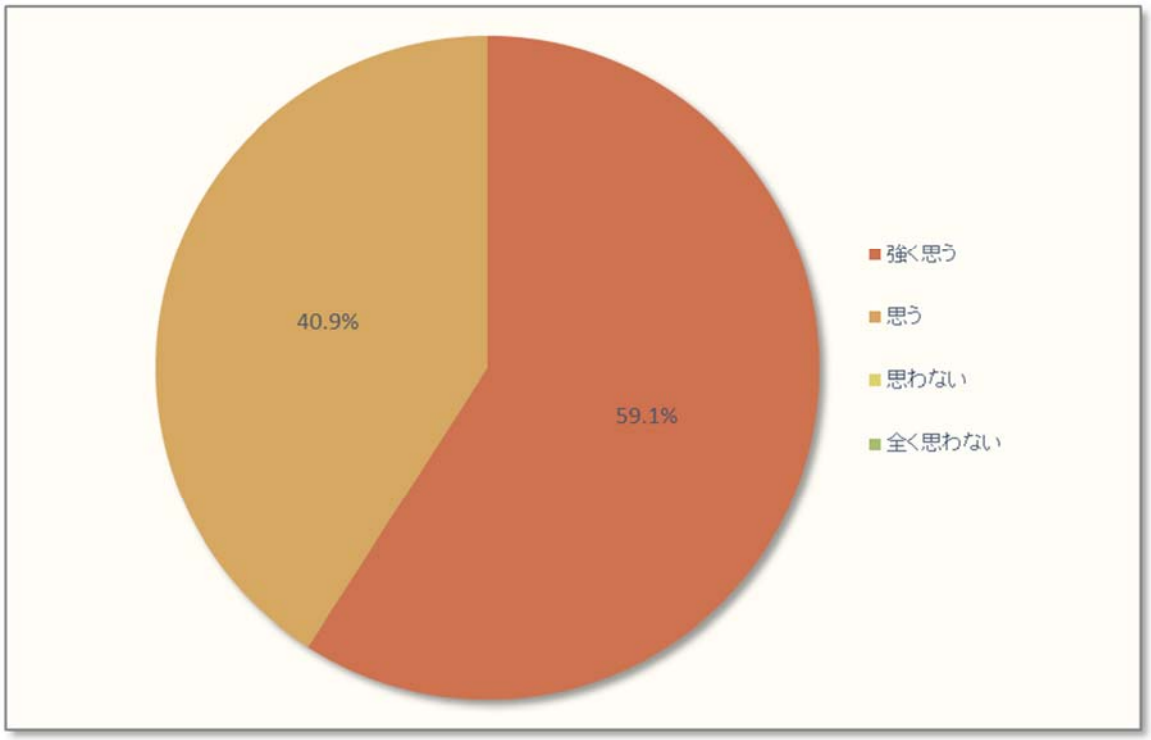
4. 子どもに関する専門的知識を用いて、多角的な視点から子どもや環境を的確に洞察し分析することができる。



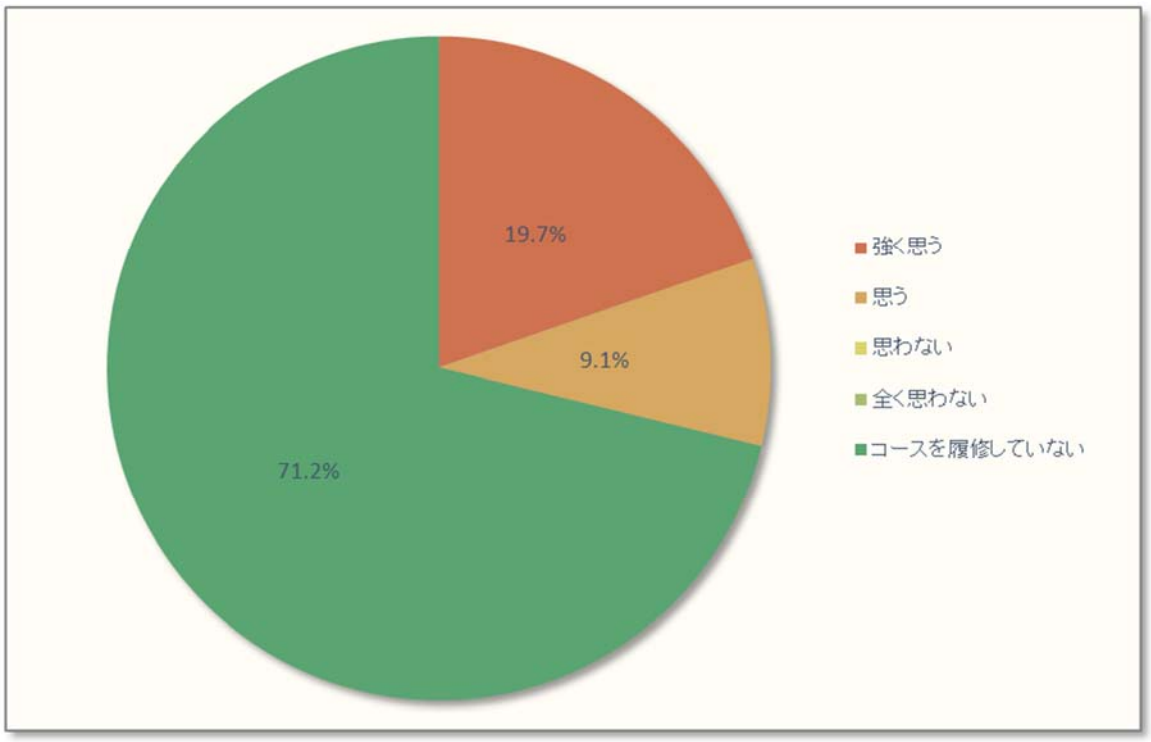
5. 子どもに関する社会的ニーズに常に注意を払い、子どもの最善の利益に寄与したいという姿勢や意欲を有している。



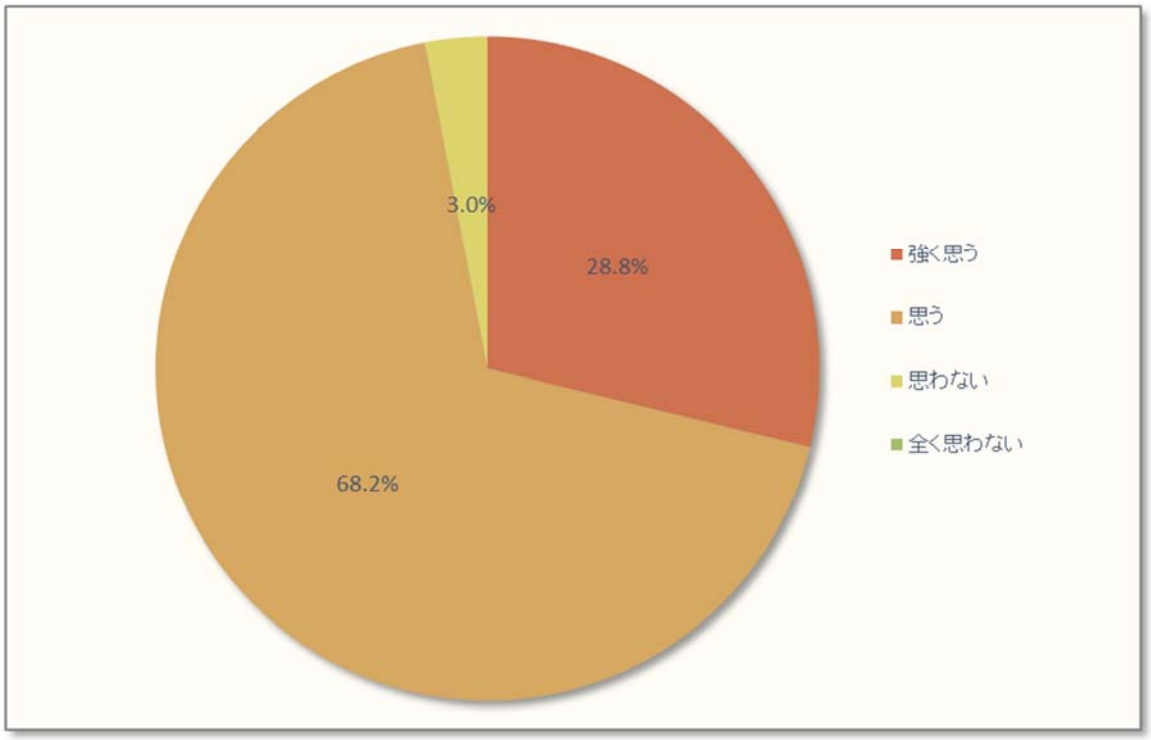
6. 子どもを、「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の専門領域から眺め、理解しようとする姿勢を常に持つことができる。



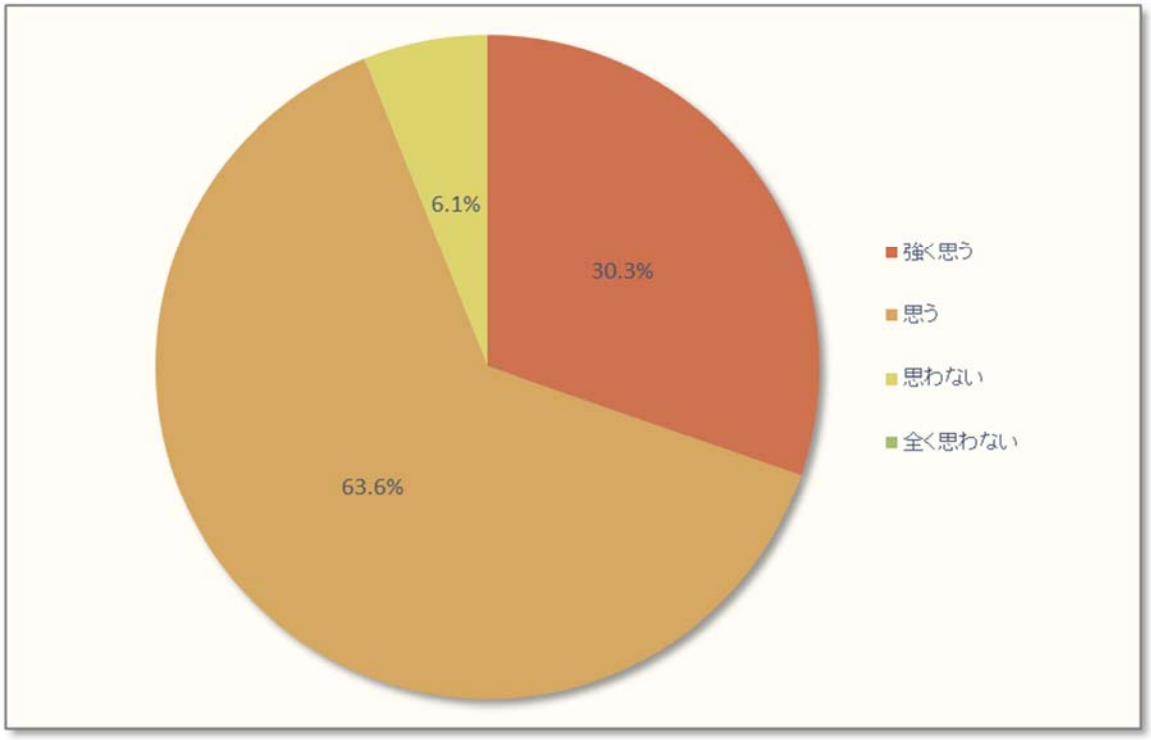
7. 保育者養成コースでは、幼児教育や保育及び保護者に関する適切な指導を行いうる専門的職業人となるための自覚と姿勢を有している。



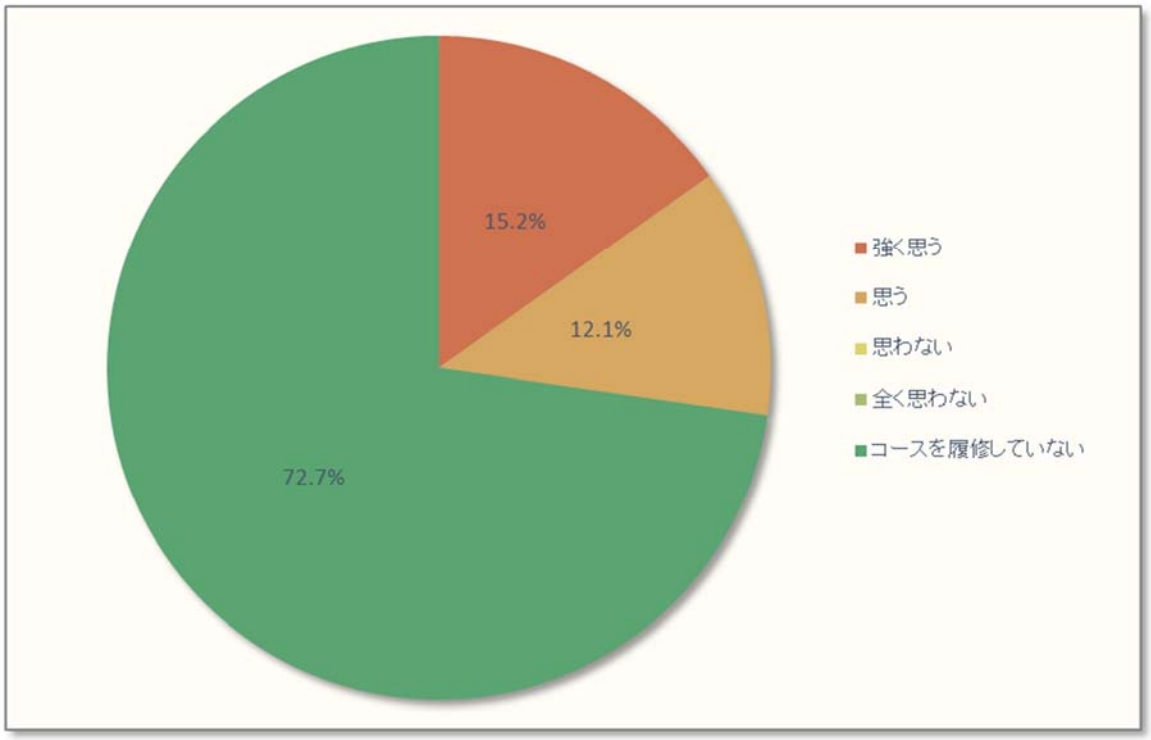
8. 子どもに関する総合的な知識や洞察を持って、子どもや子どもの置かれている状況を論理的に記述し、言語的・非言語的手段を用いて多様な表現を行うことができる。



9. 「発達」、「創造・文化」、「社会・臨床」の専門領域の視点から子どもや子どもが置かれている状況について、自らの見解を的確及び平易に伝えることができる。

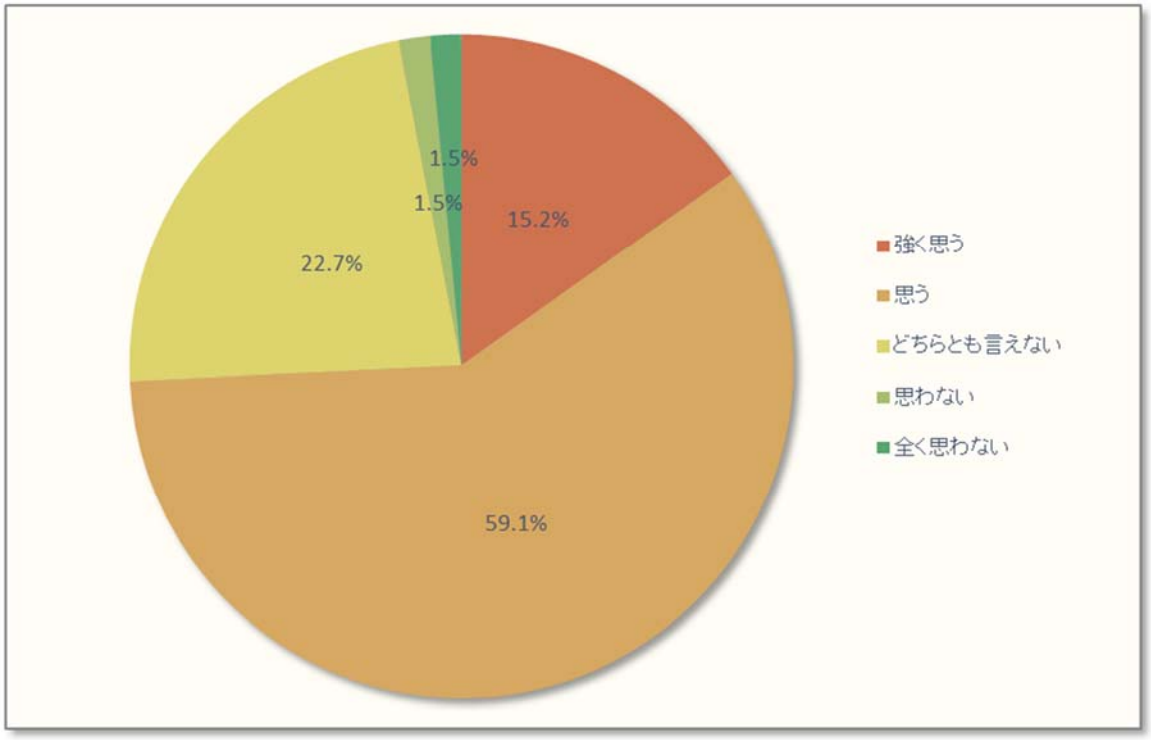


10. 保育者養成コースでは、幼児教育や保育の場面において、専門的知識に基づいた的確な指導あるいは援助を行うことができる。

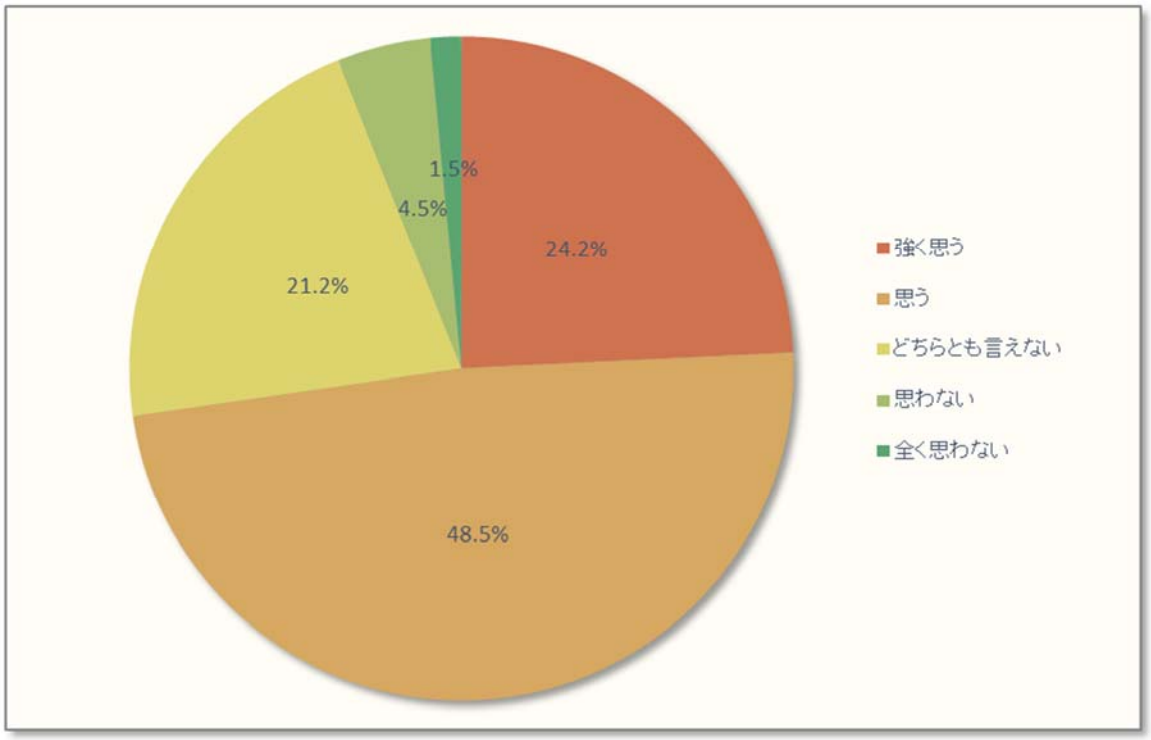


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

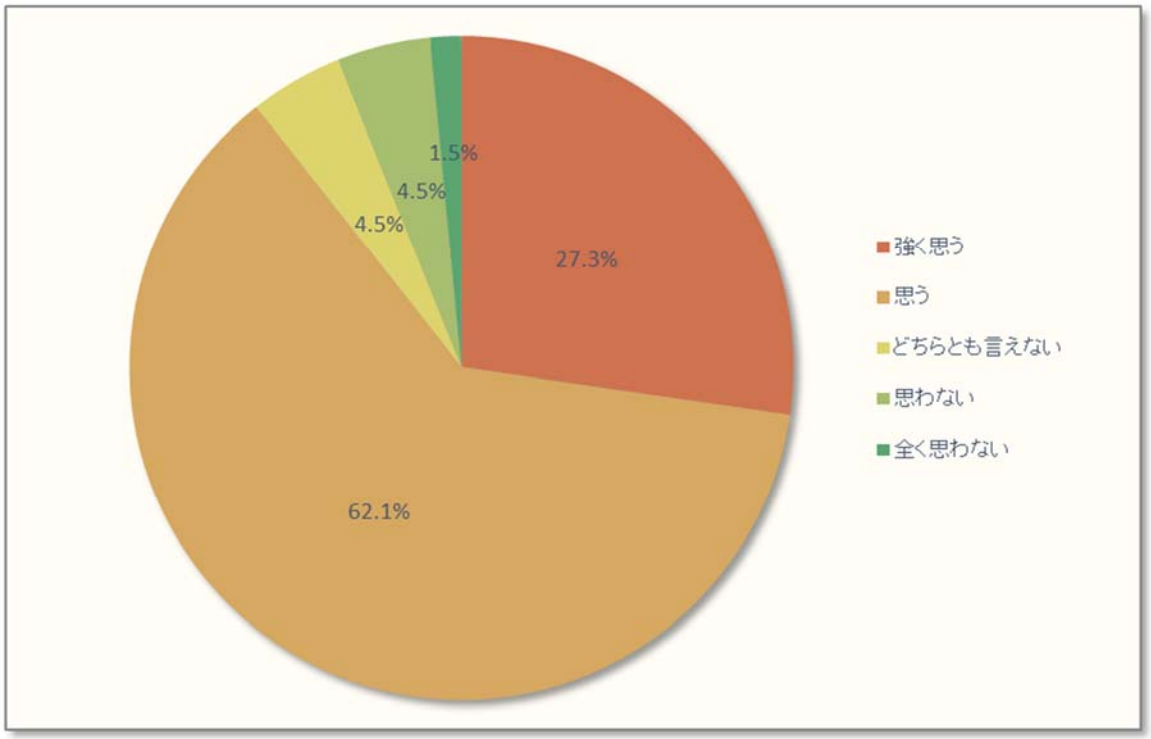
11. 人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



12. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

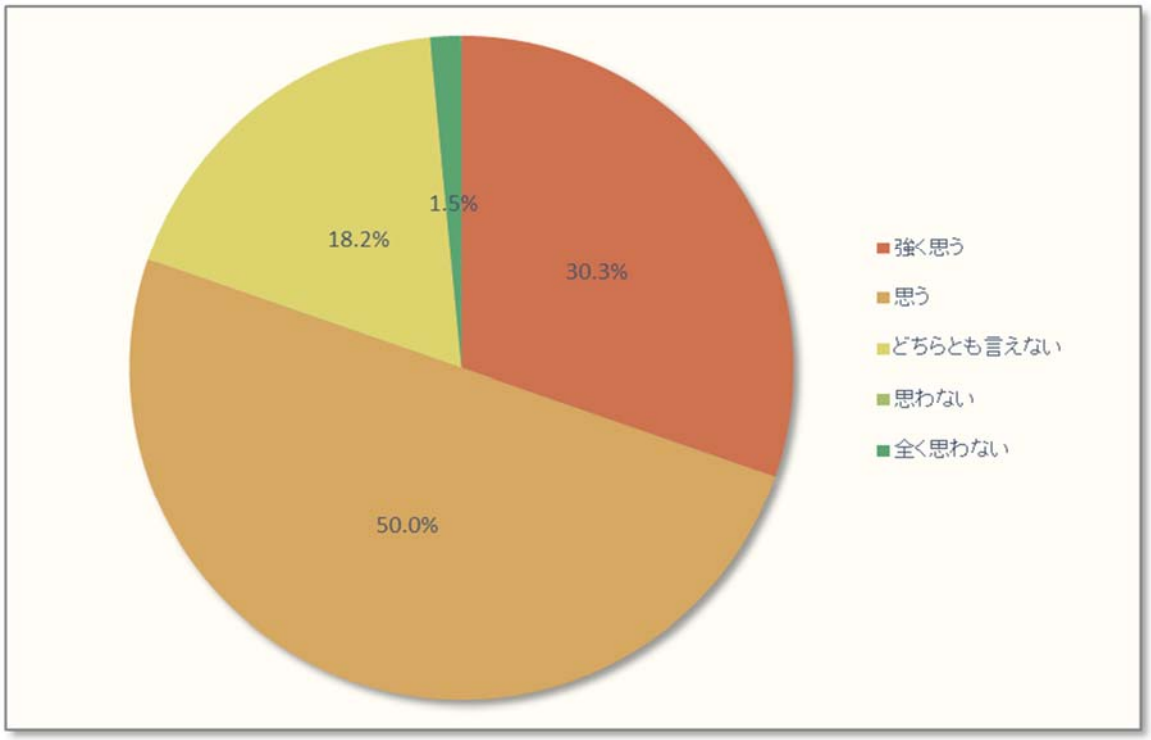


13. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

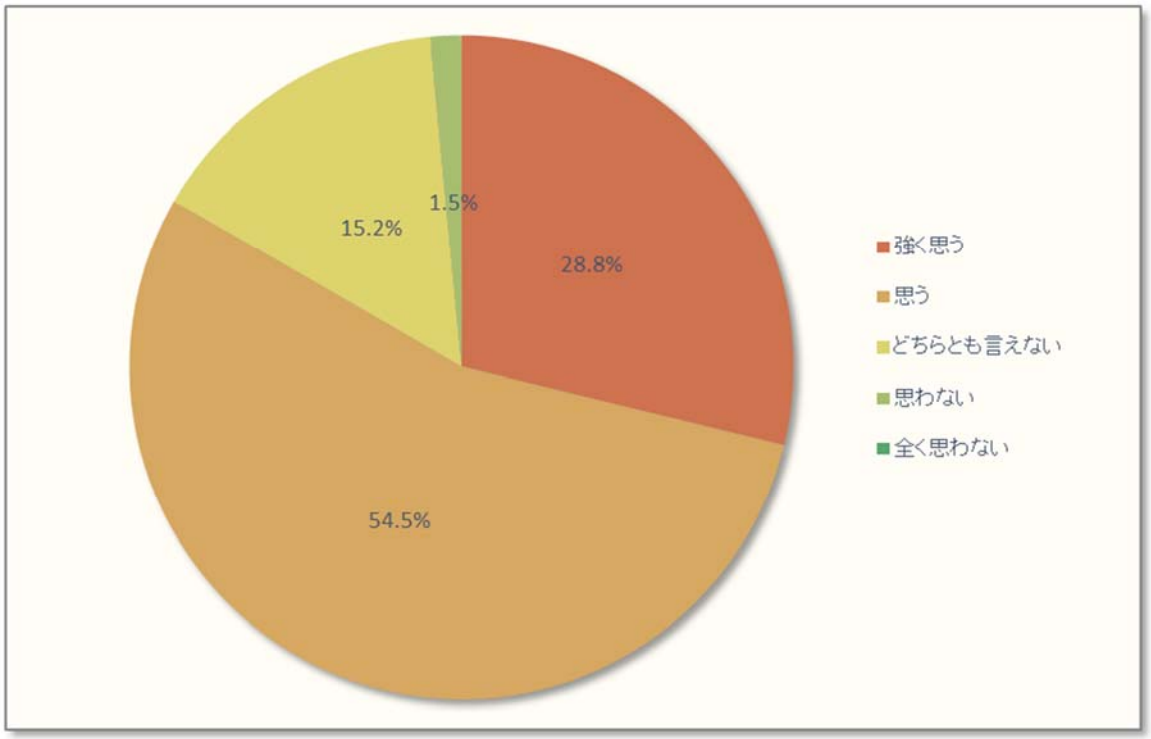


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

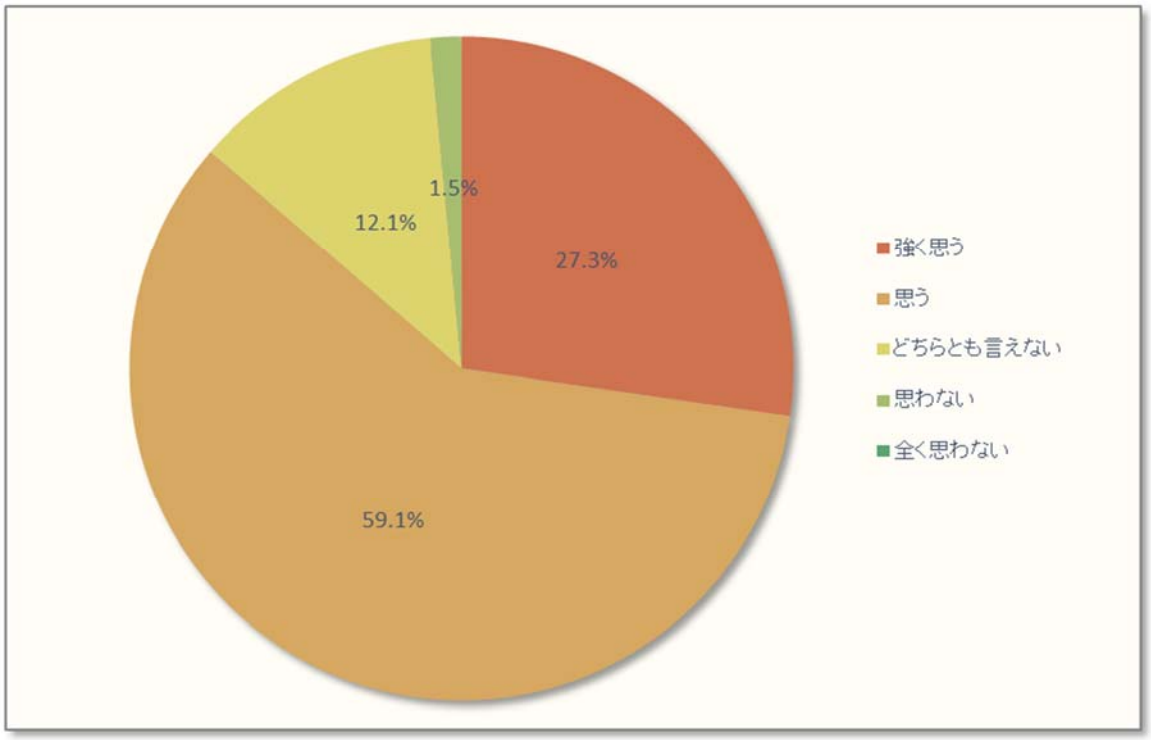
14. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



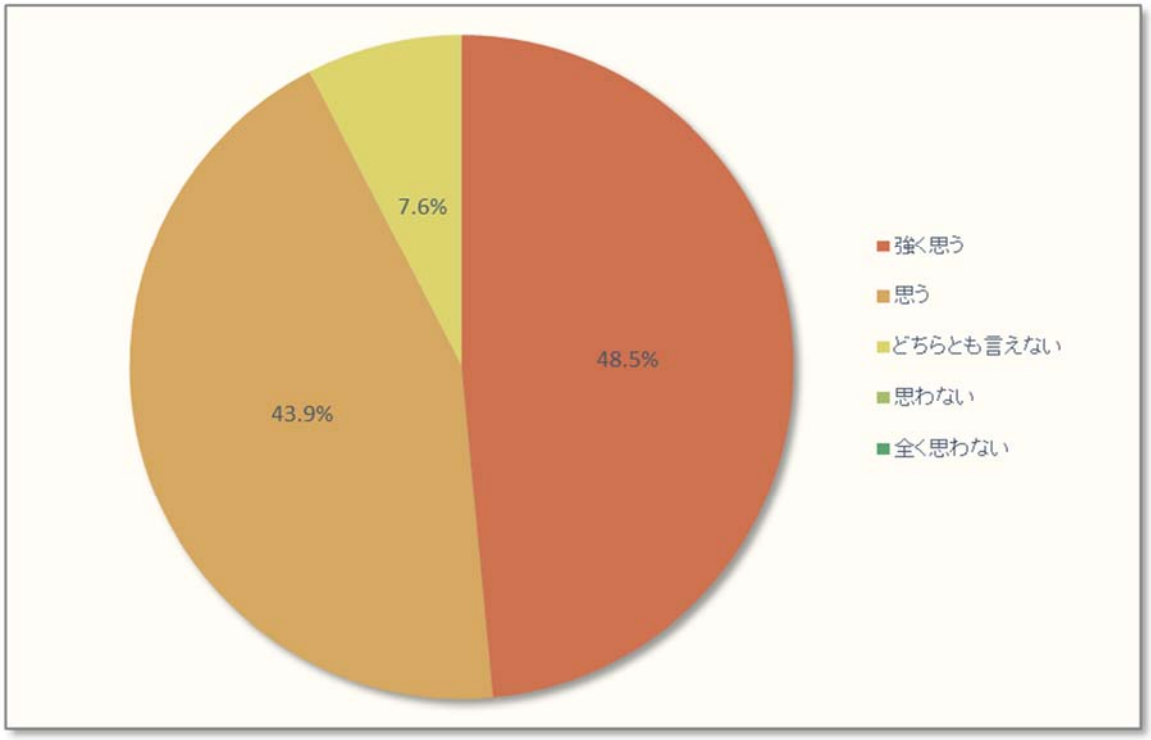
15. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



16. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

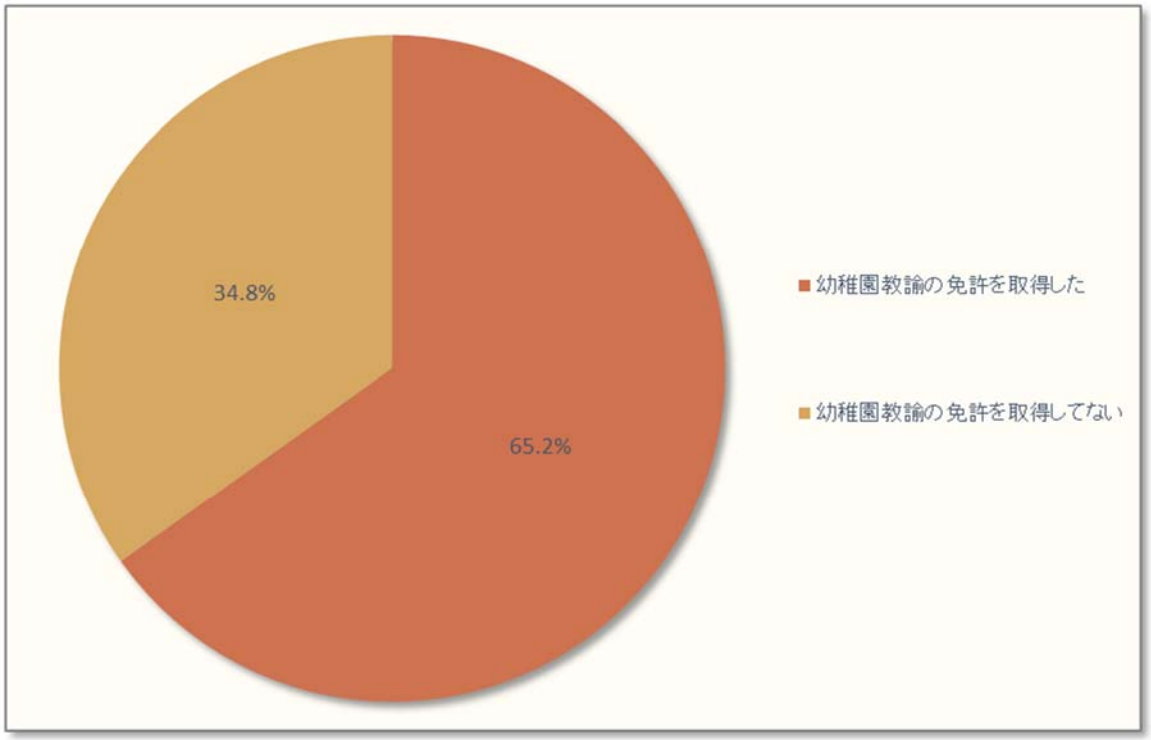


17. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。



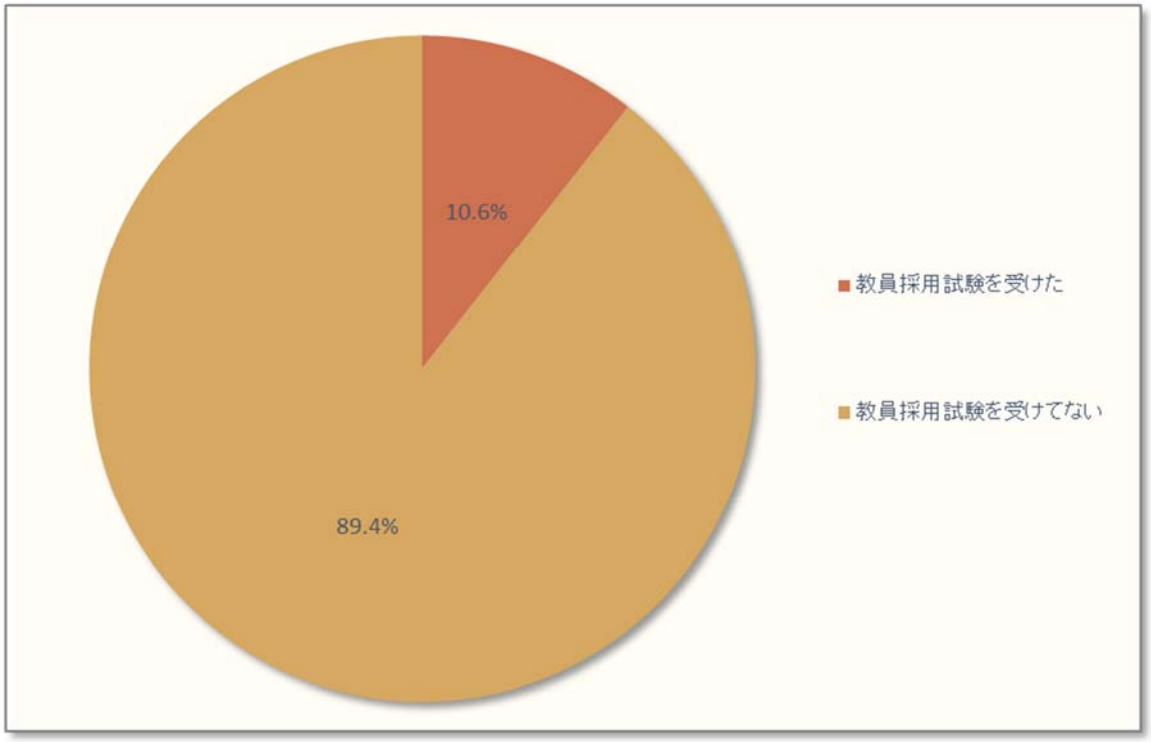
学科独自の調査項目（1）

18. 幼稚園教諭の免許を取得ましたか。



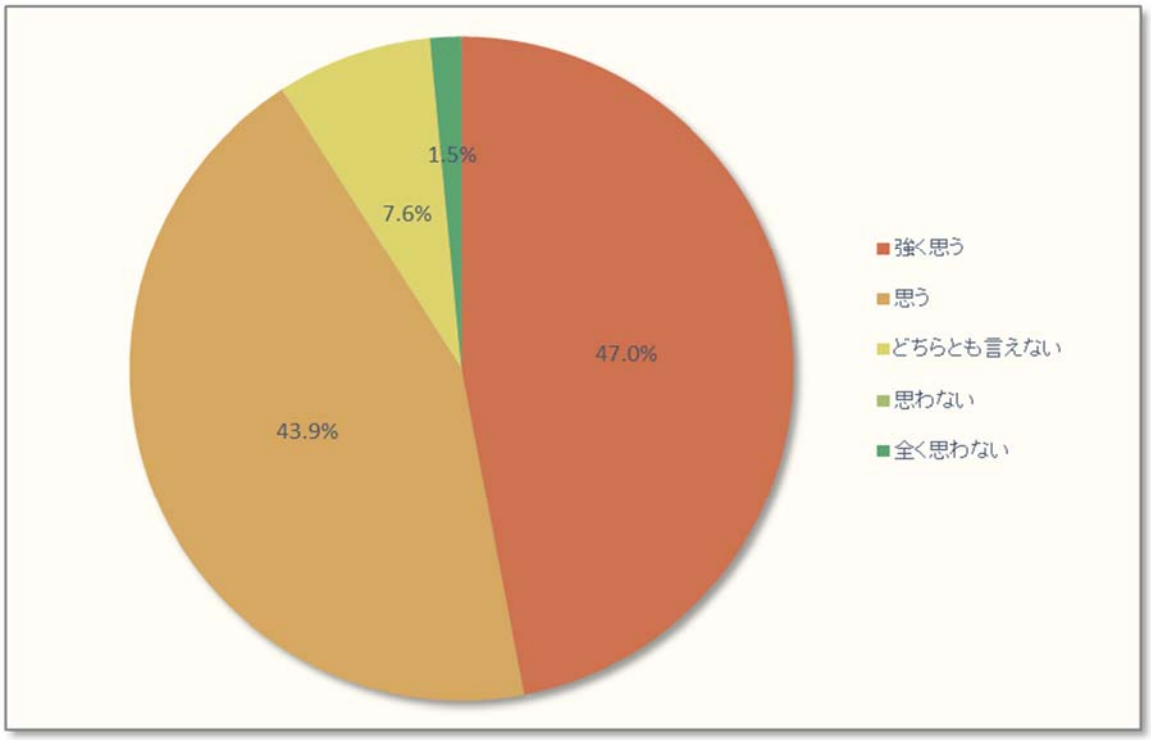
学科独自の調査項目（2）

20. 教員採用試験（公立・私立）を受けましたか？

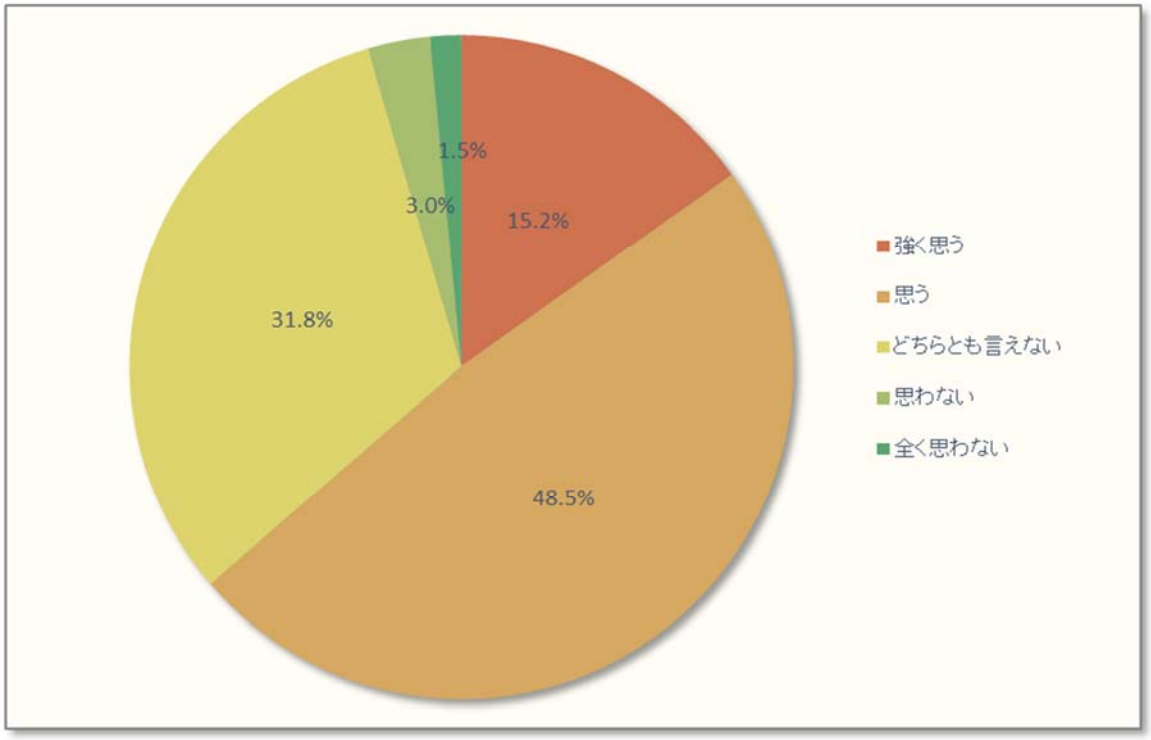


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

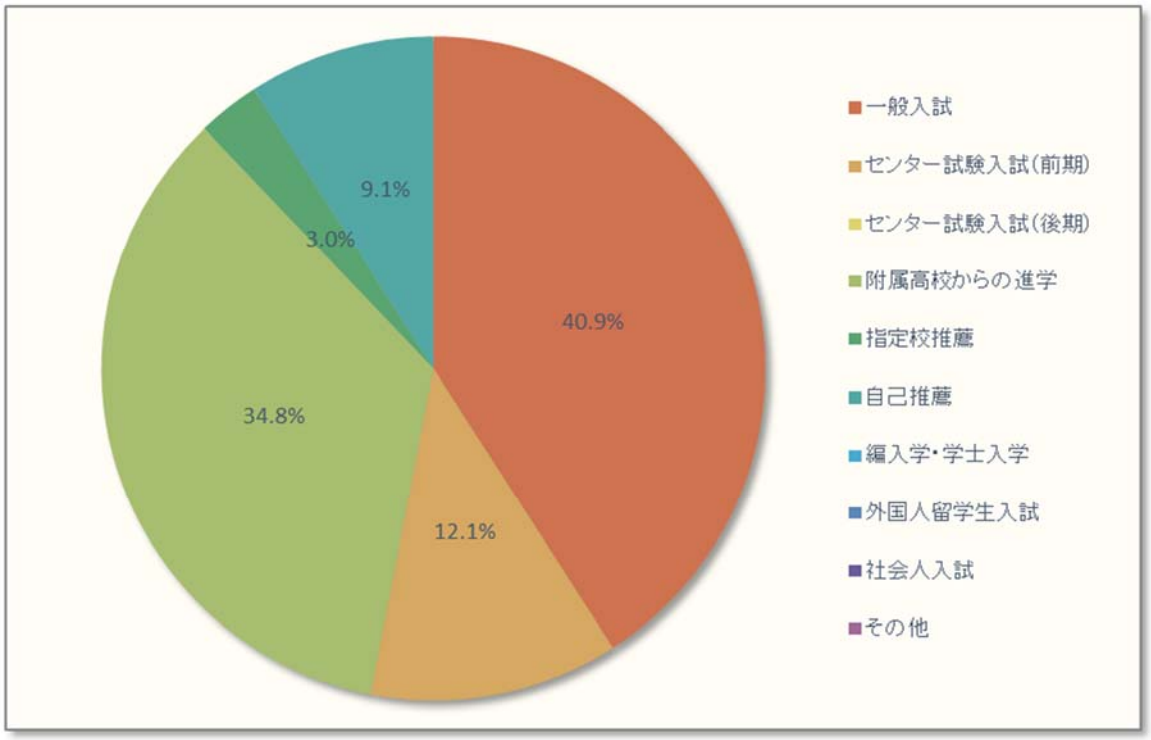
21. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



22. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



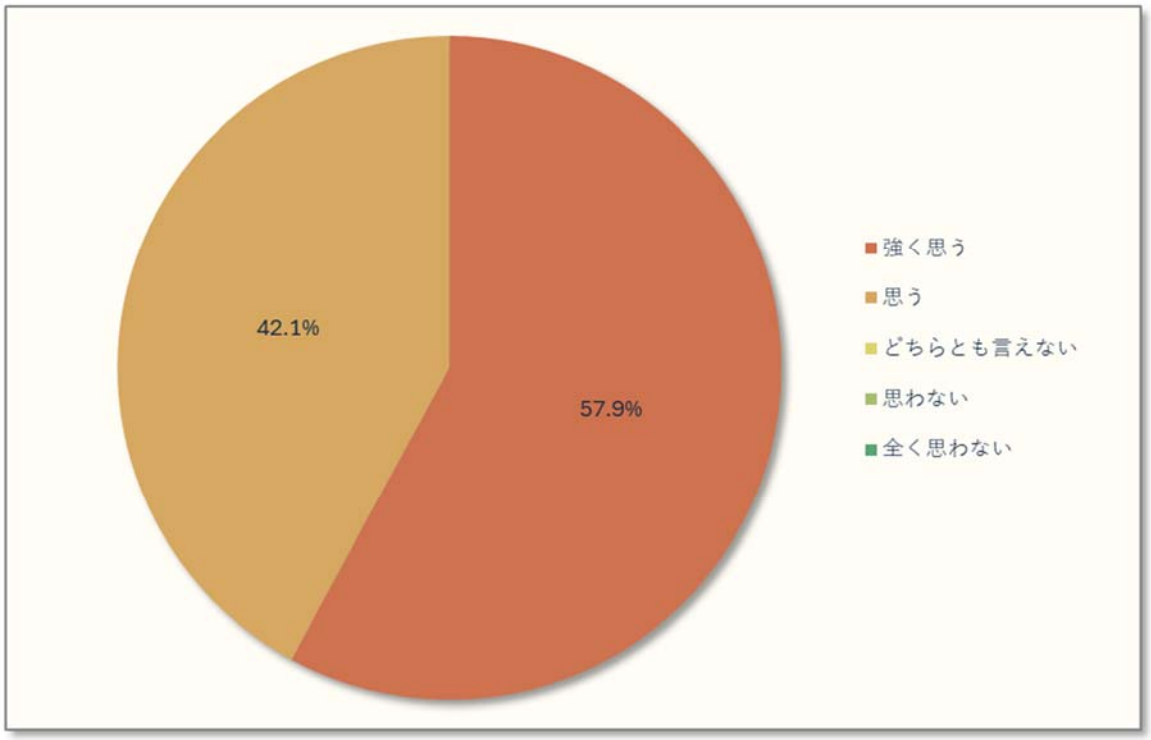
23. あなたが入学した試験形態を教えてください。



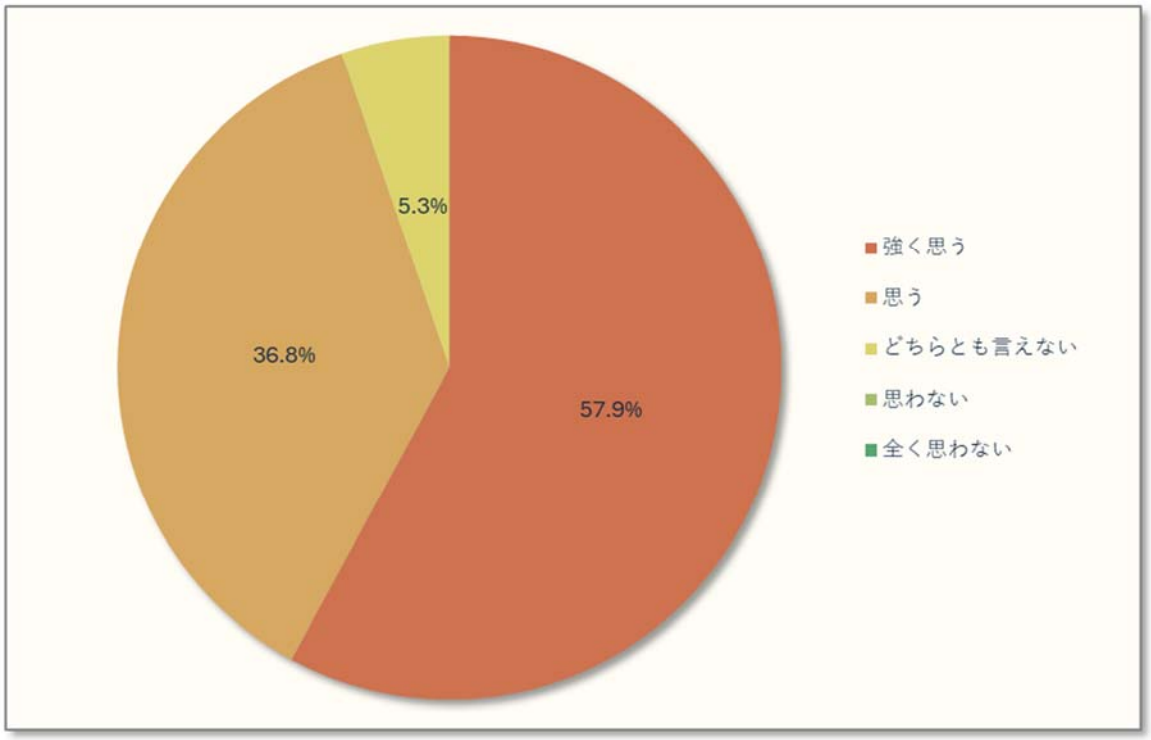
食物学科　食物学専攻

食物学科食物学専攻の学生として以下のことが身についたと思いますか？[食物学科DP]

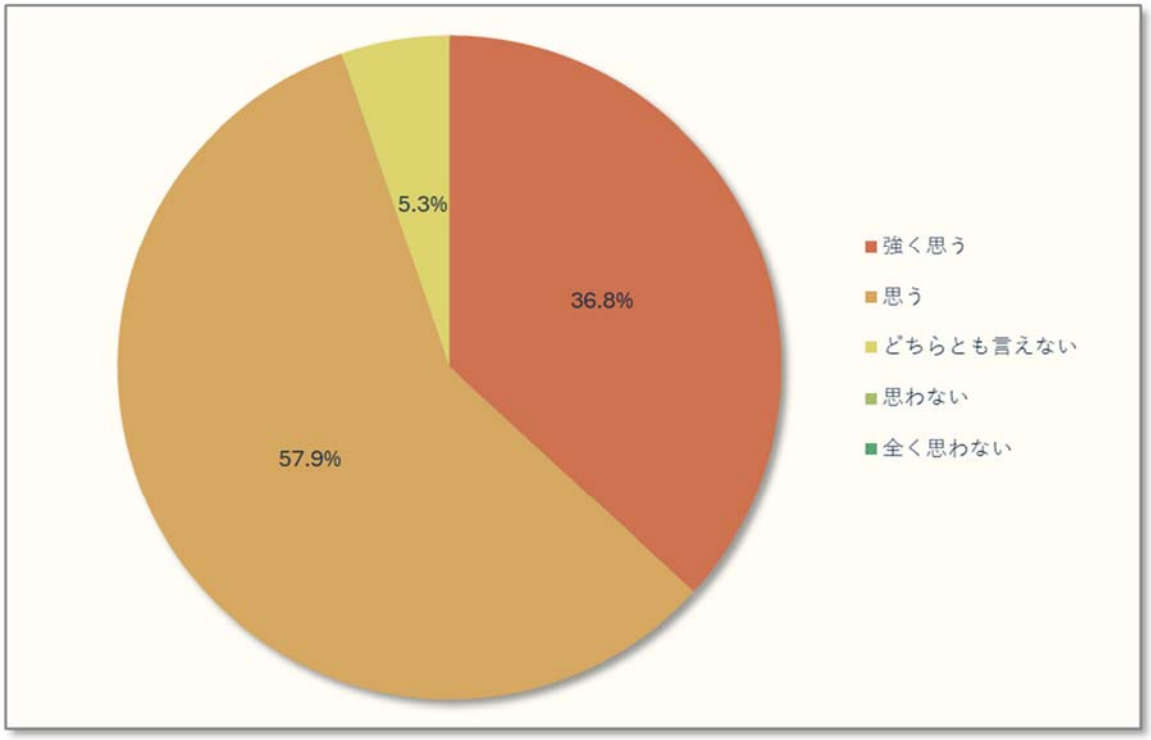
1. 食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。



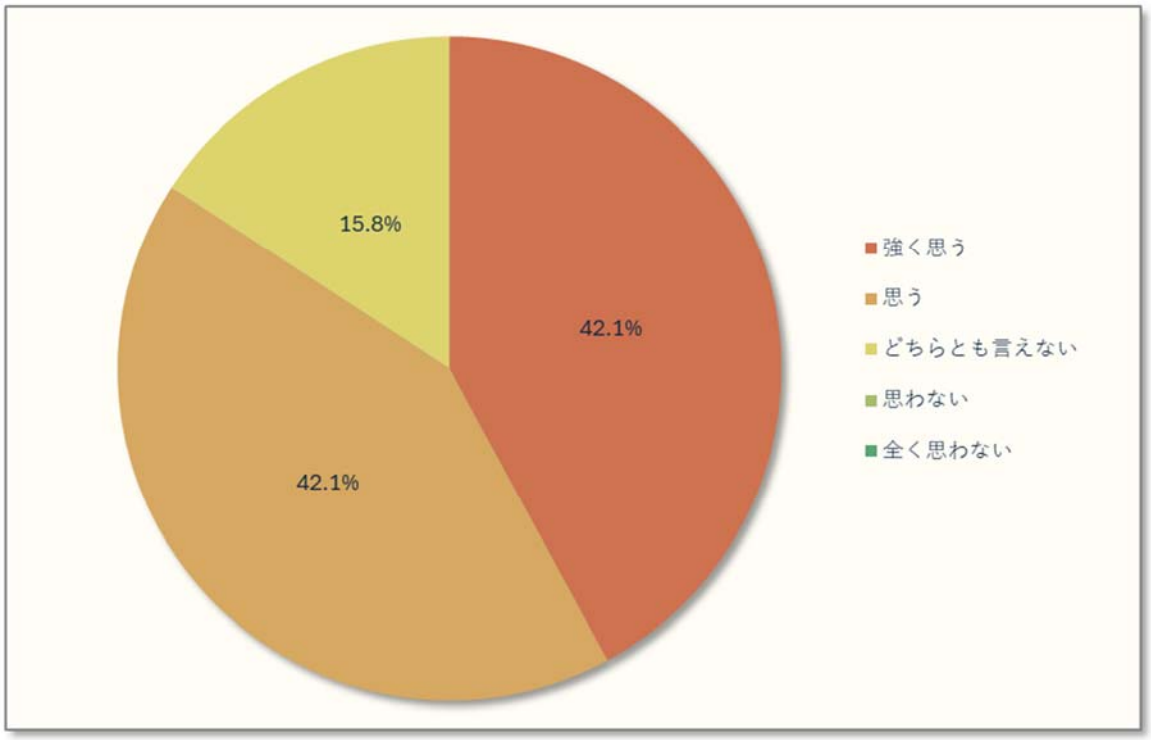
2. 食物学専攻では、多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。



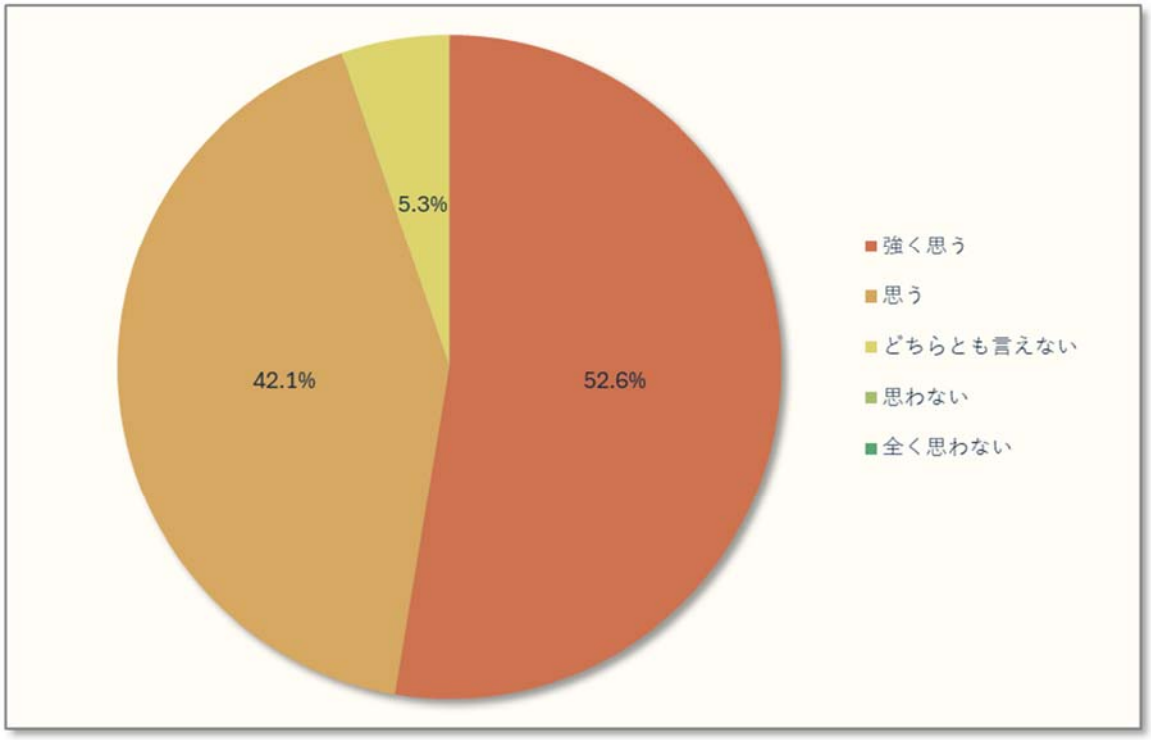
3. 生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。



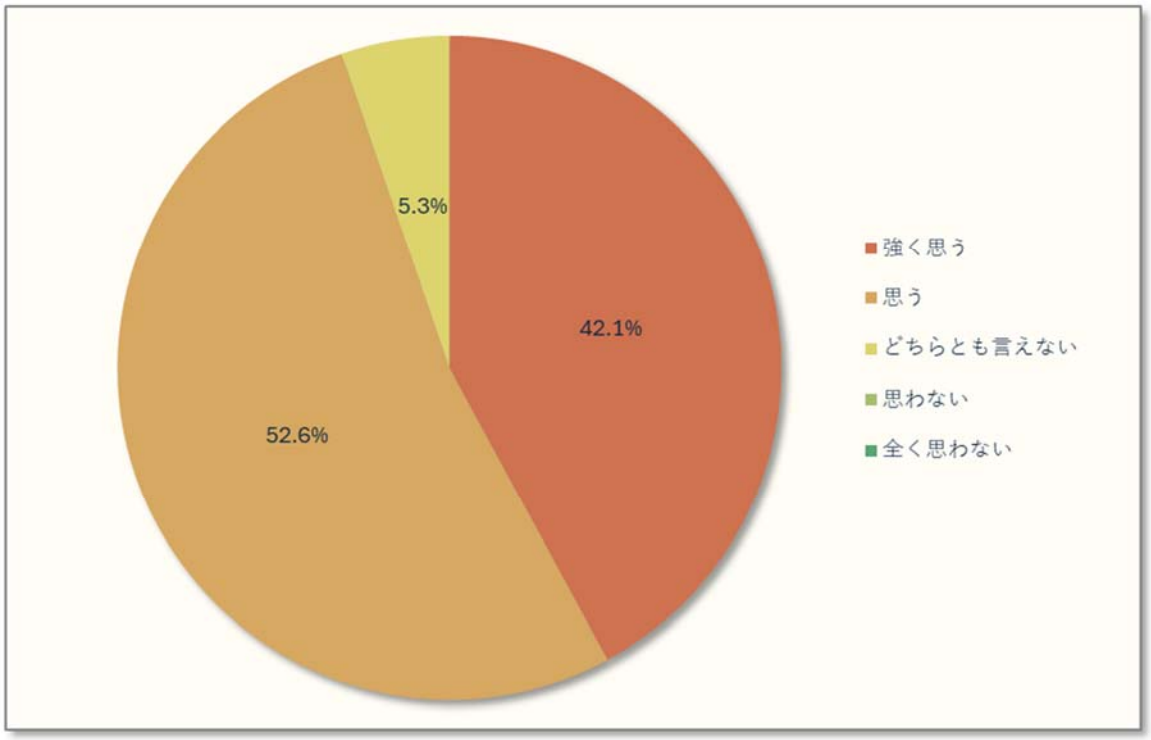
4. 専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。



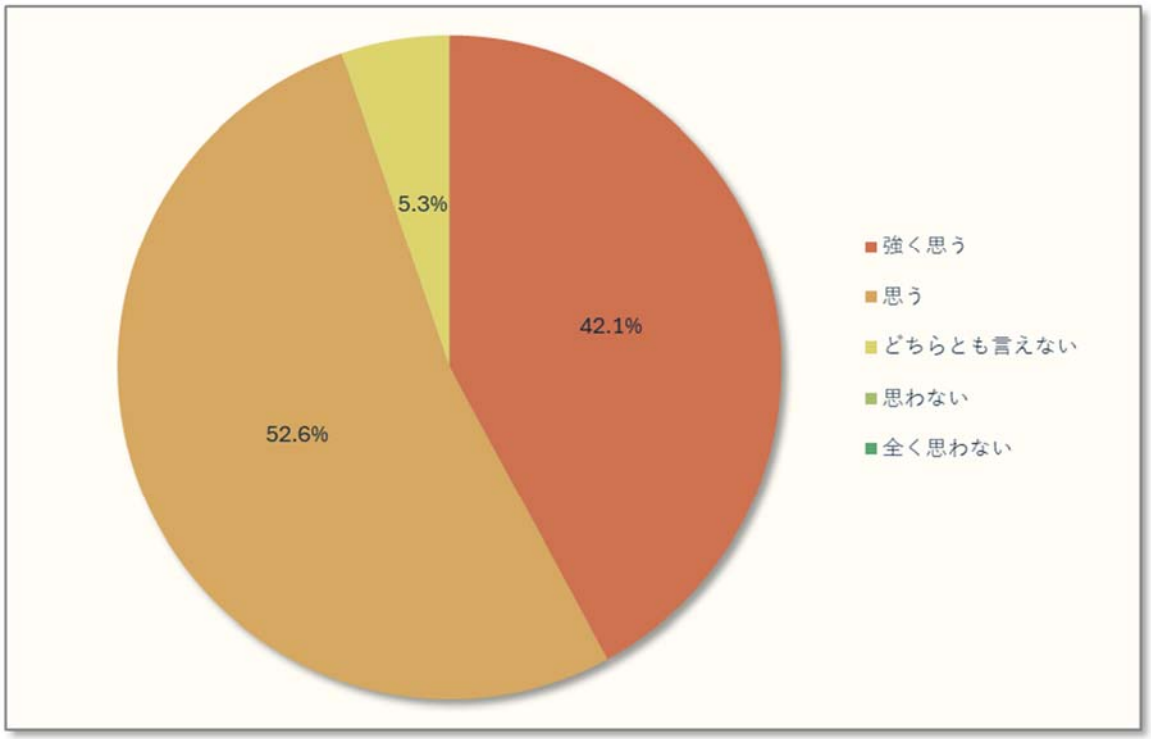
5. 食物学専攻では、食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。



6. 食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。

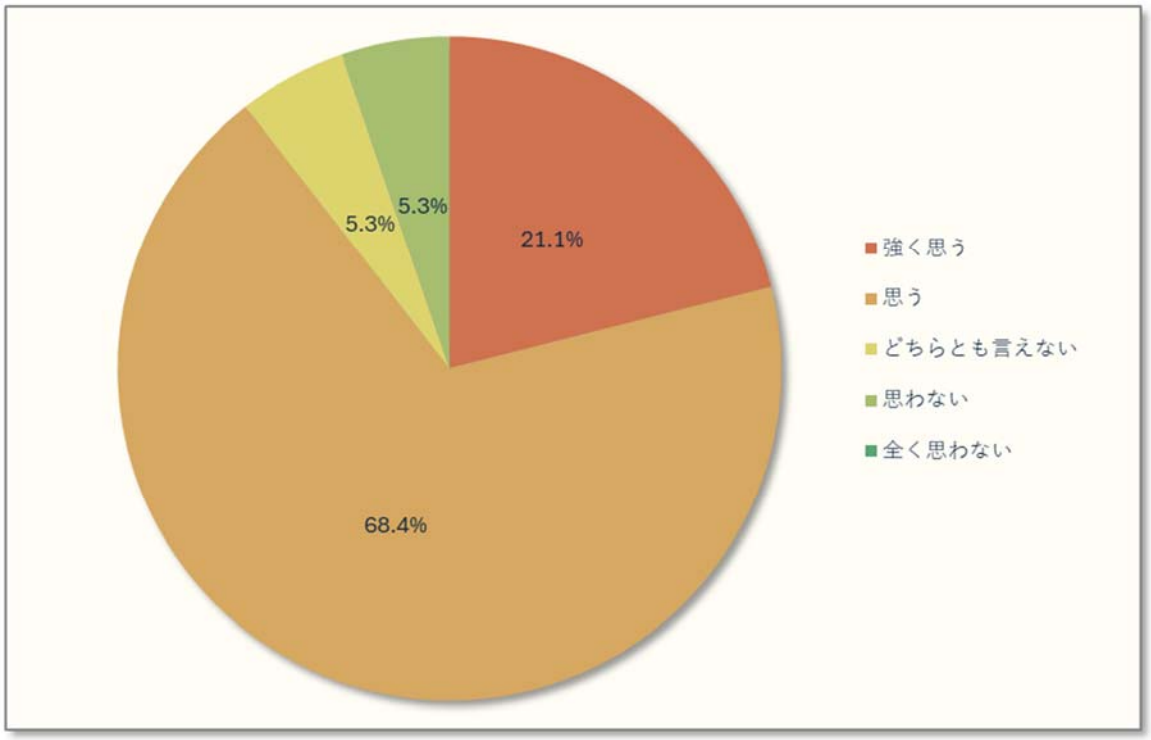


7.　論理的に記述し、的確に表現することができる。

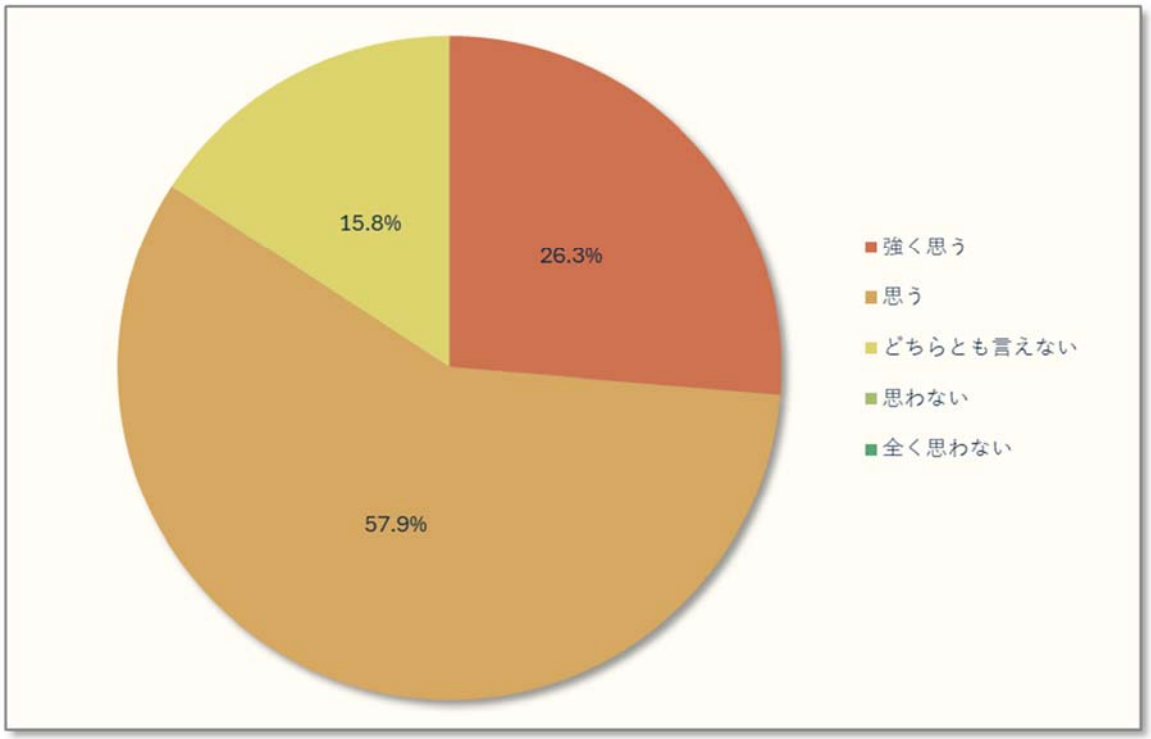


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

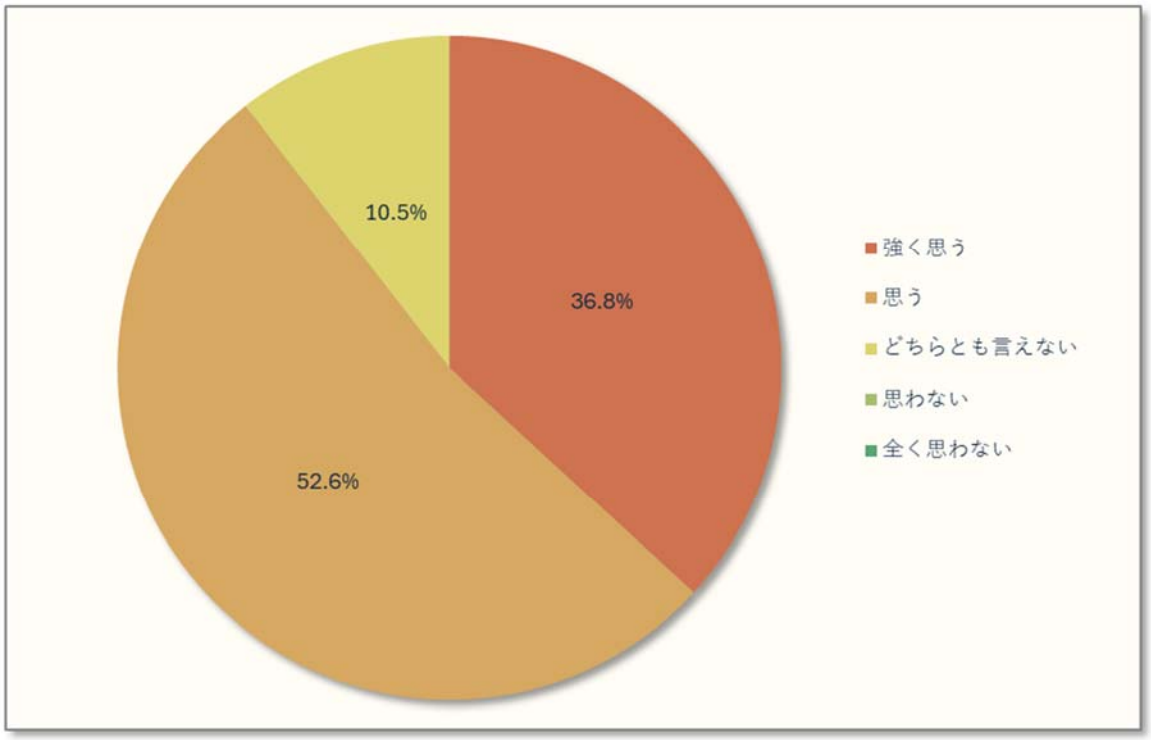
8.　人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



9. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

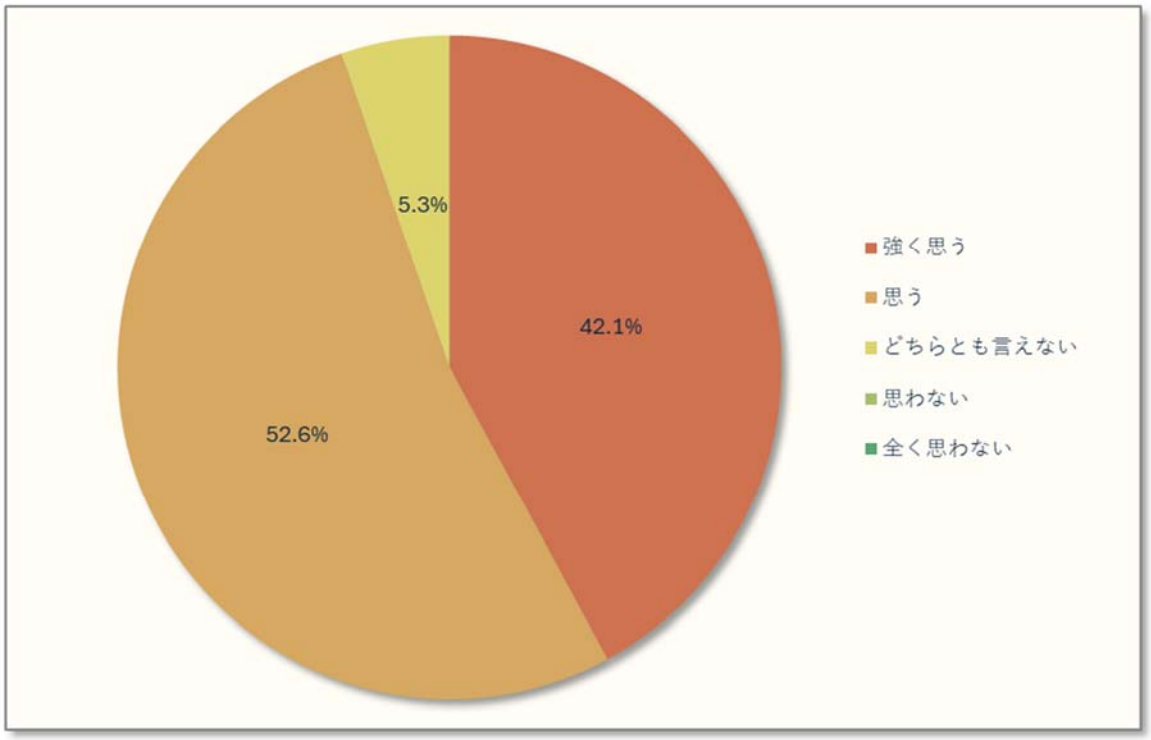


10. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

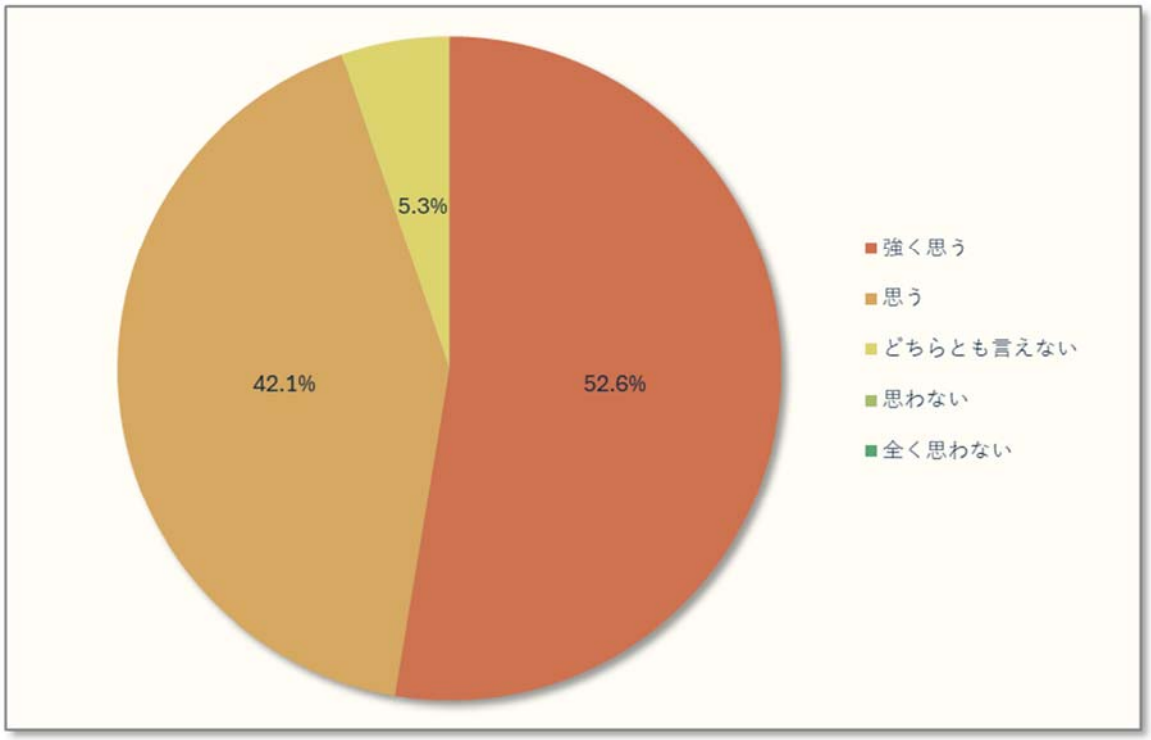


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

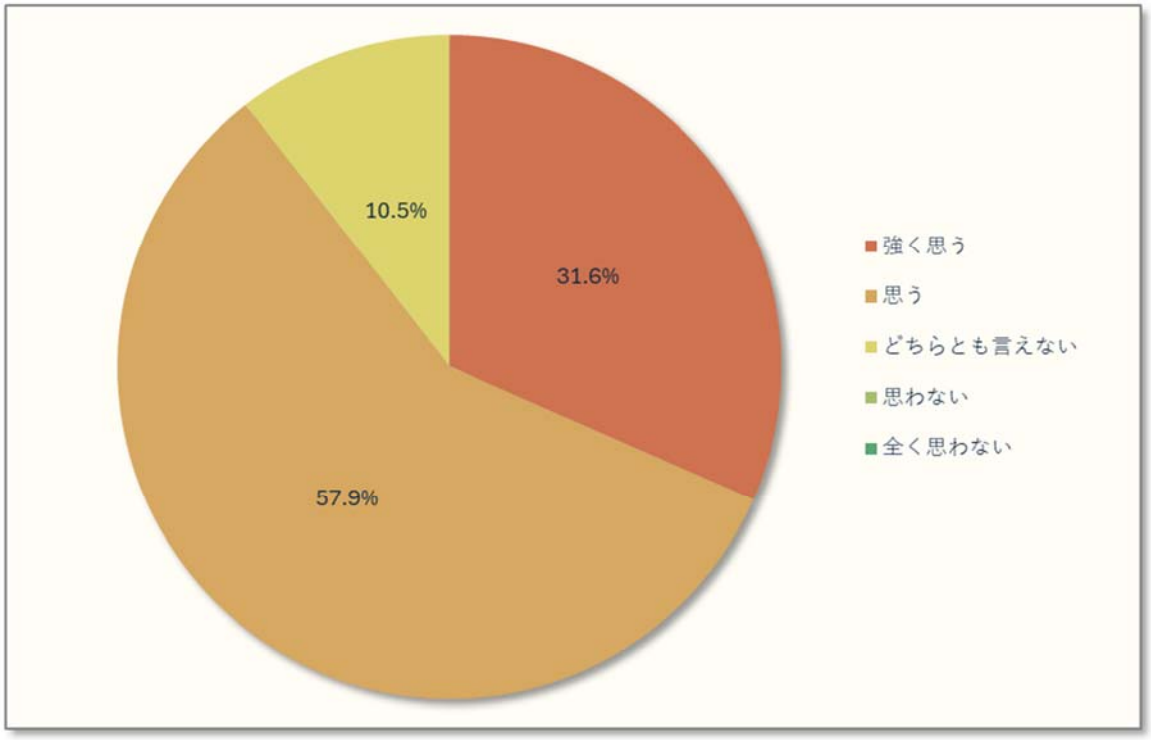
11. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



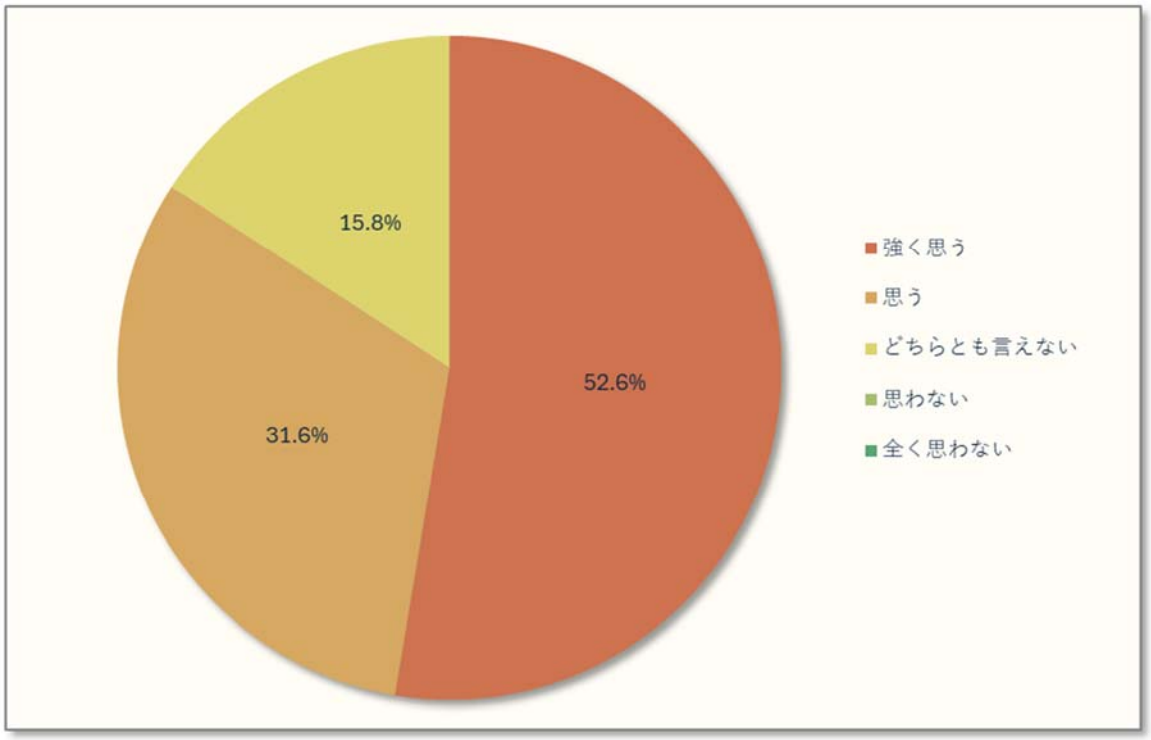
12. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



13. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

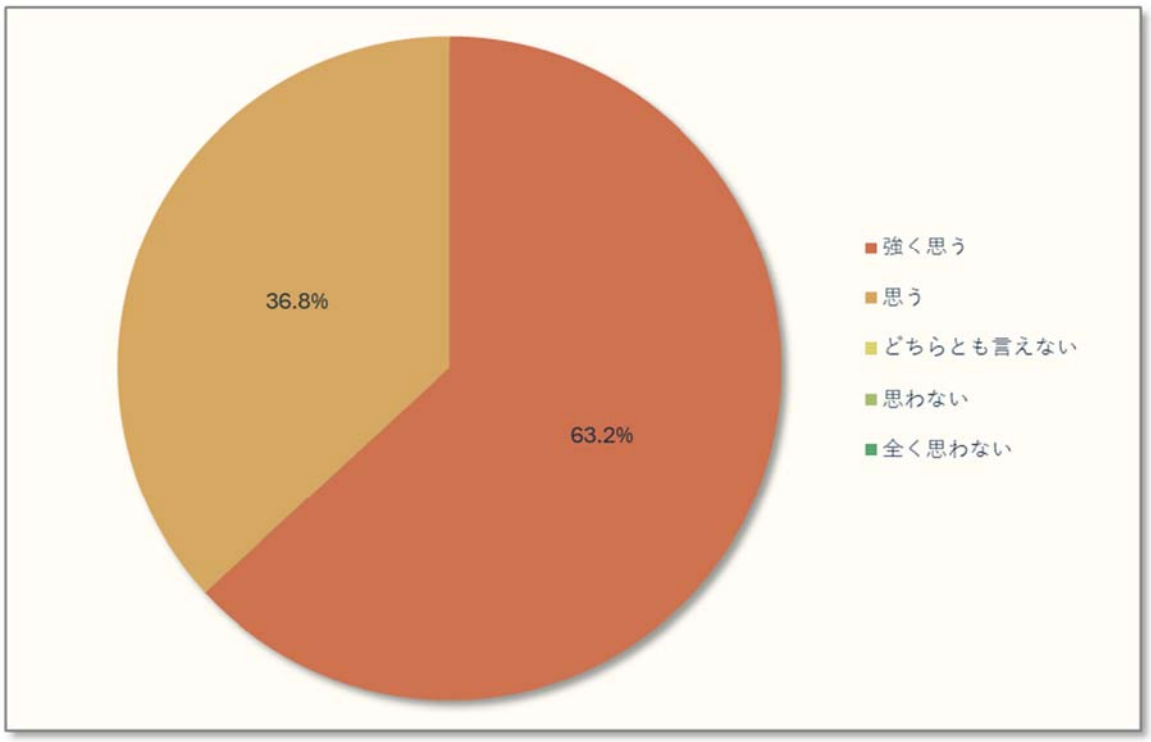


14. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

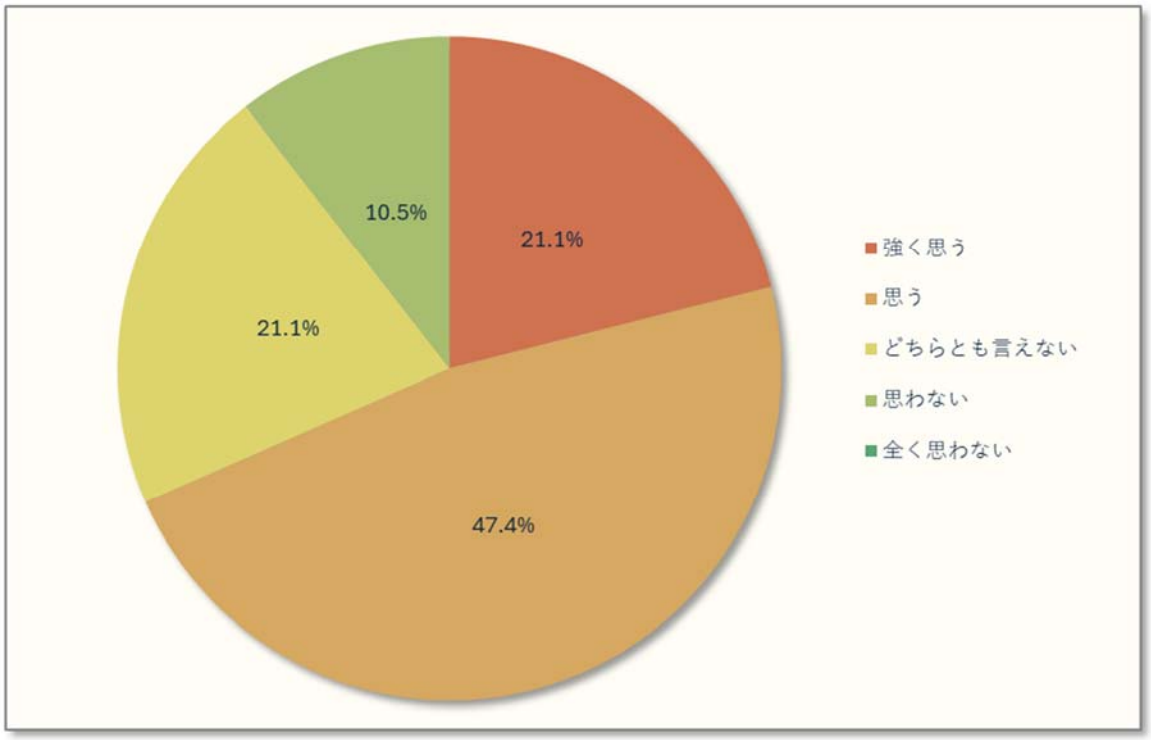


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

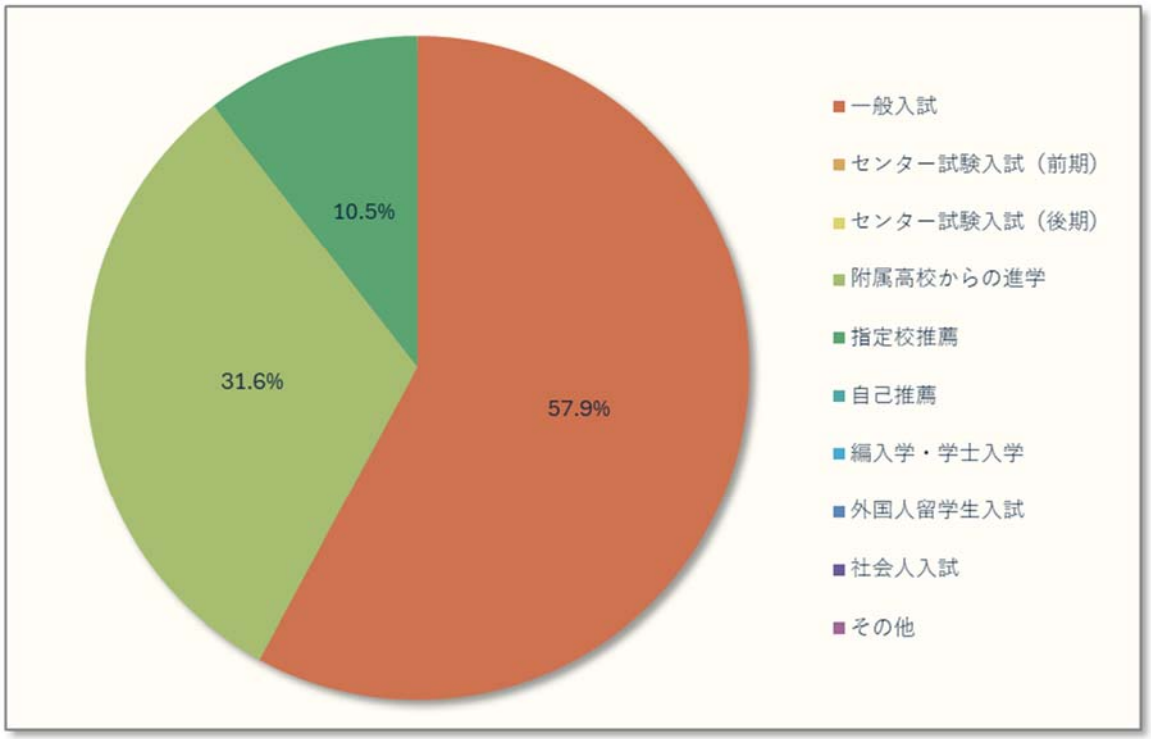
15. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



16. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



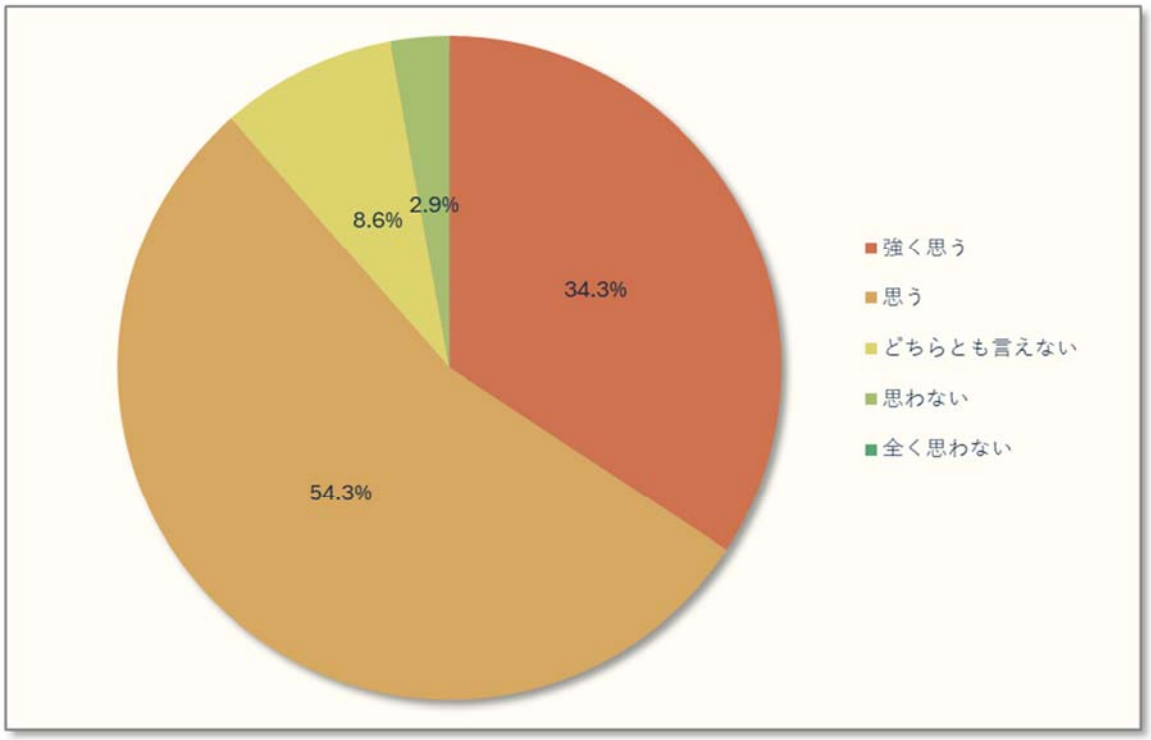
17. あなたが入学した試験形態を教えてください。



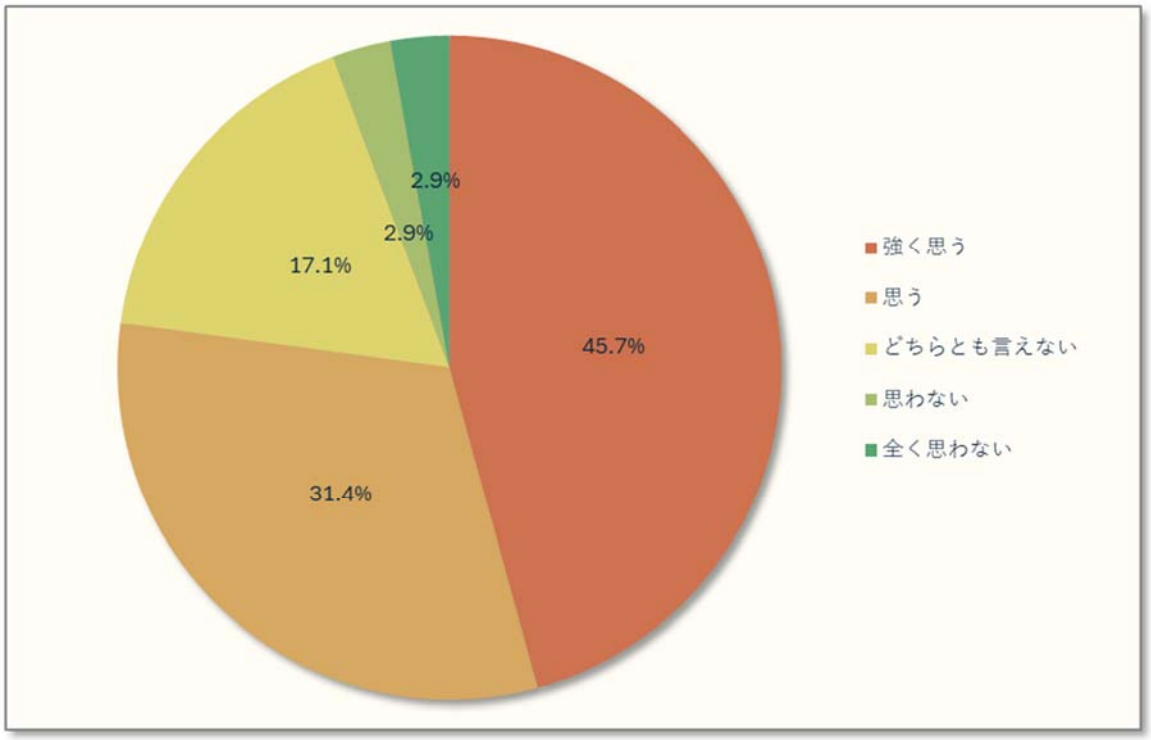
食物学科　管理栄養士専攻

食物学科管理栄養士専攻の学生として以下のことが身についたと思いますか？[食物学科DP]

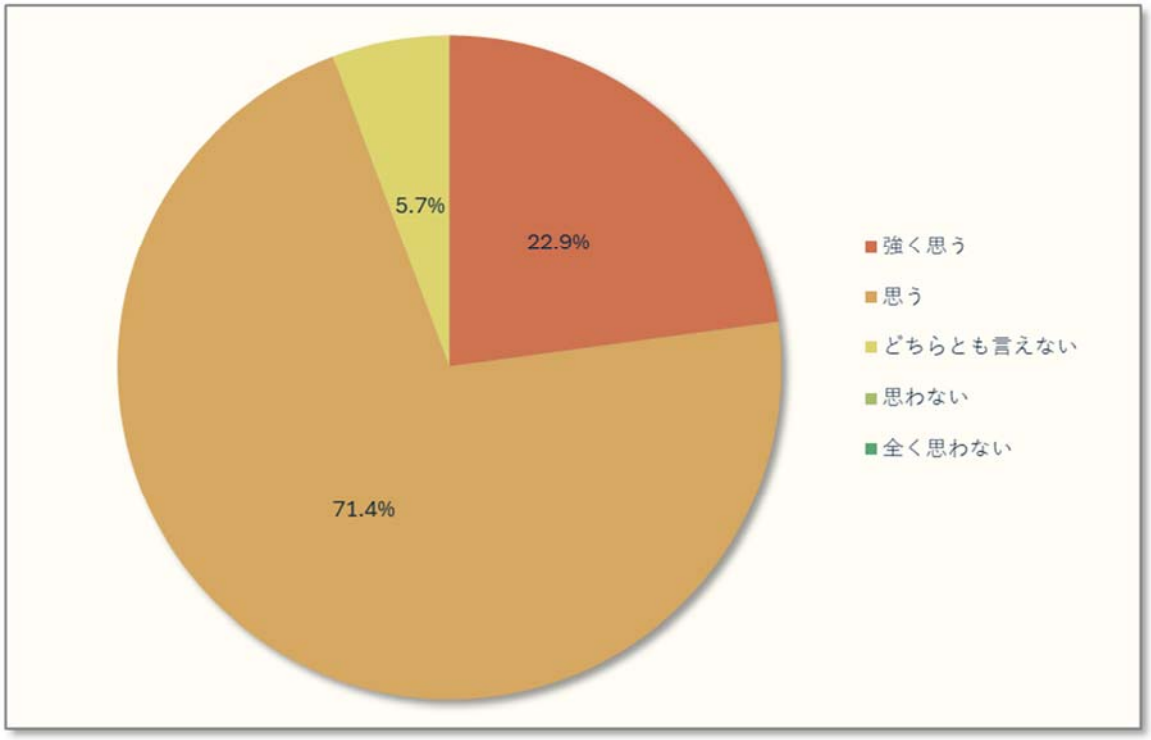
1. 食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。



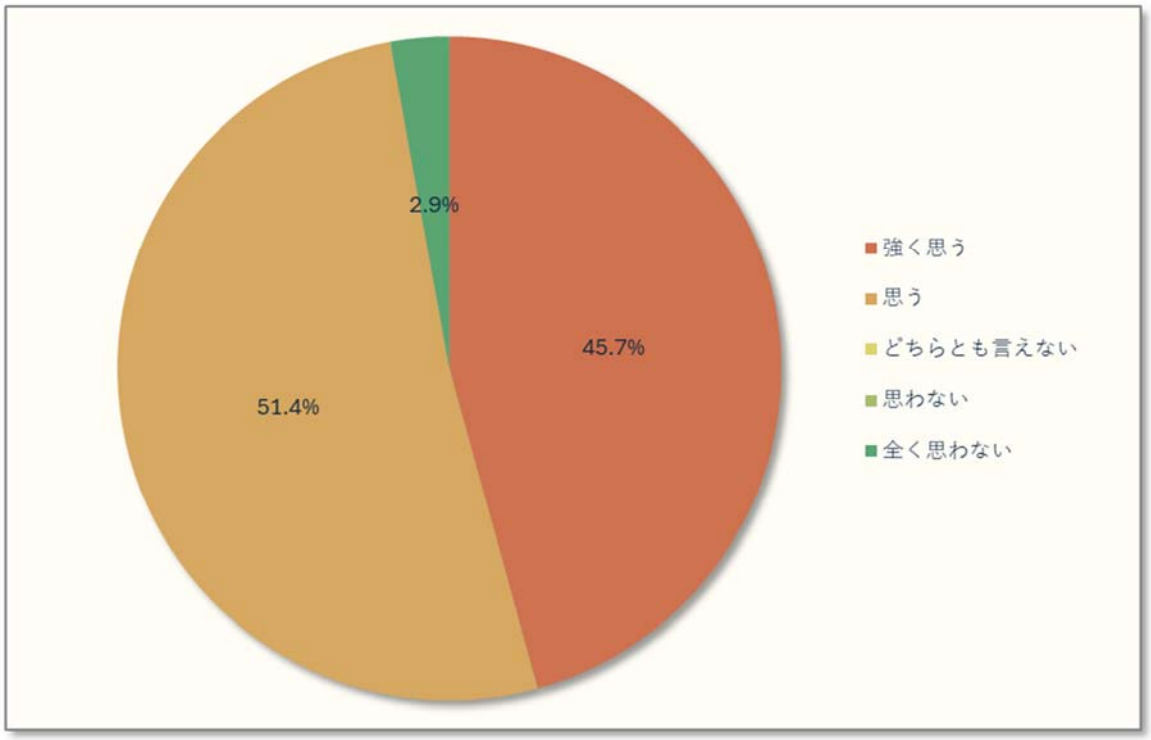
2. 管理栄養士専攻では、管理栄養士資格を取得するのに必要充分な知識と応用力を有する。



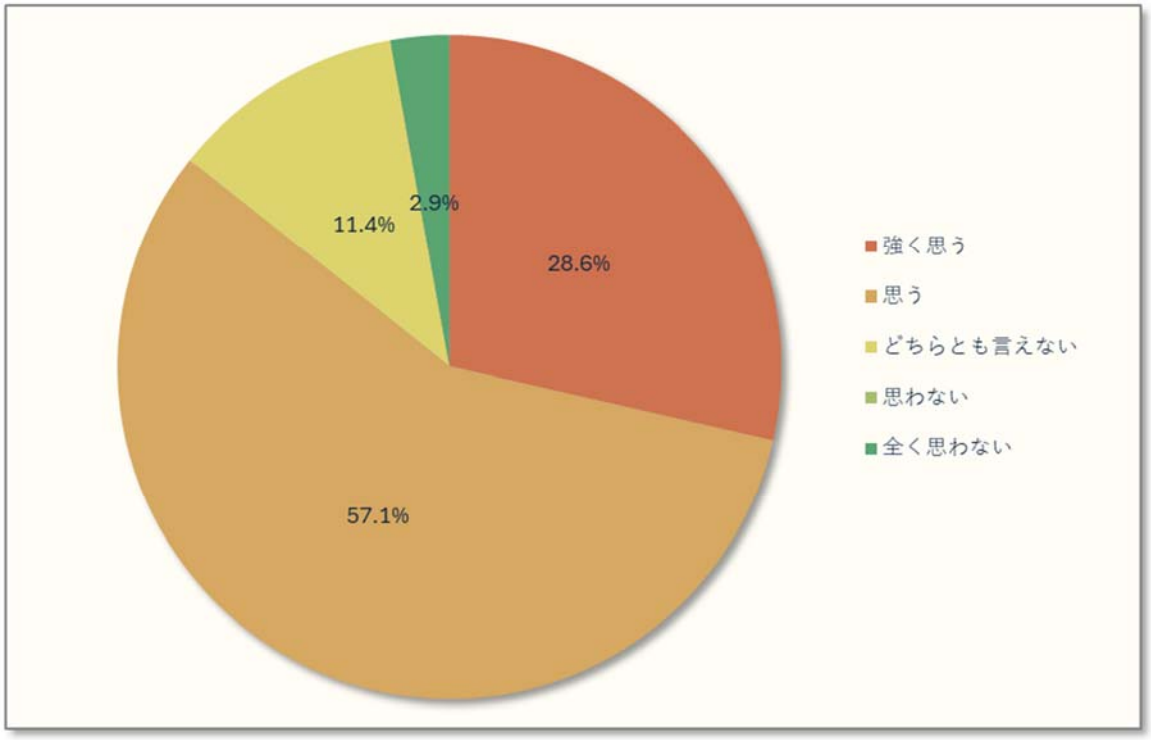
3. 生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。



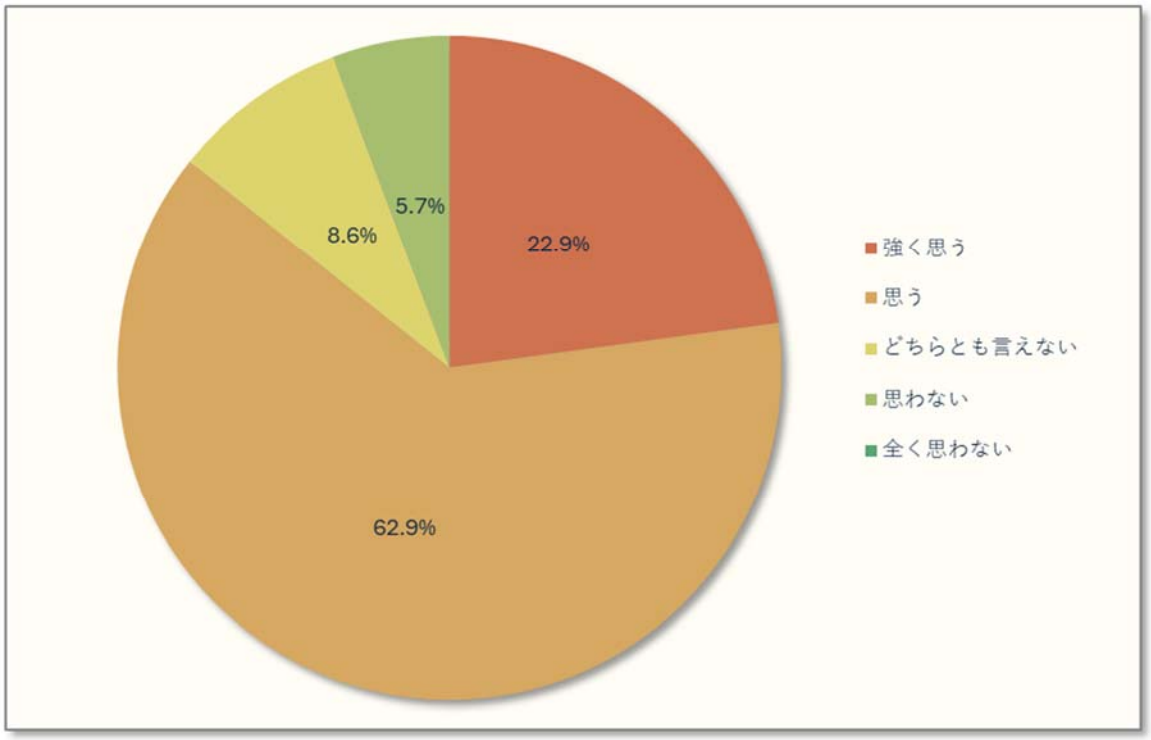
4. 専門分野の知識を生活及び社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。



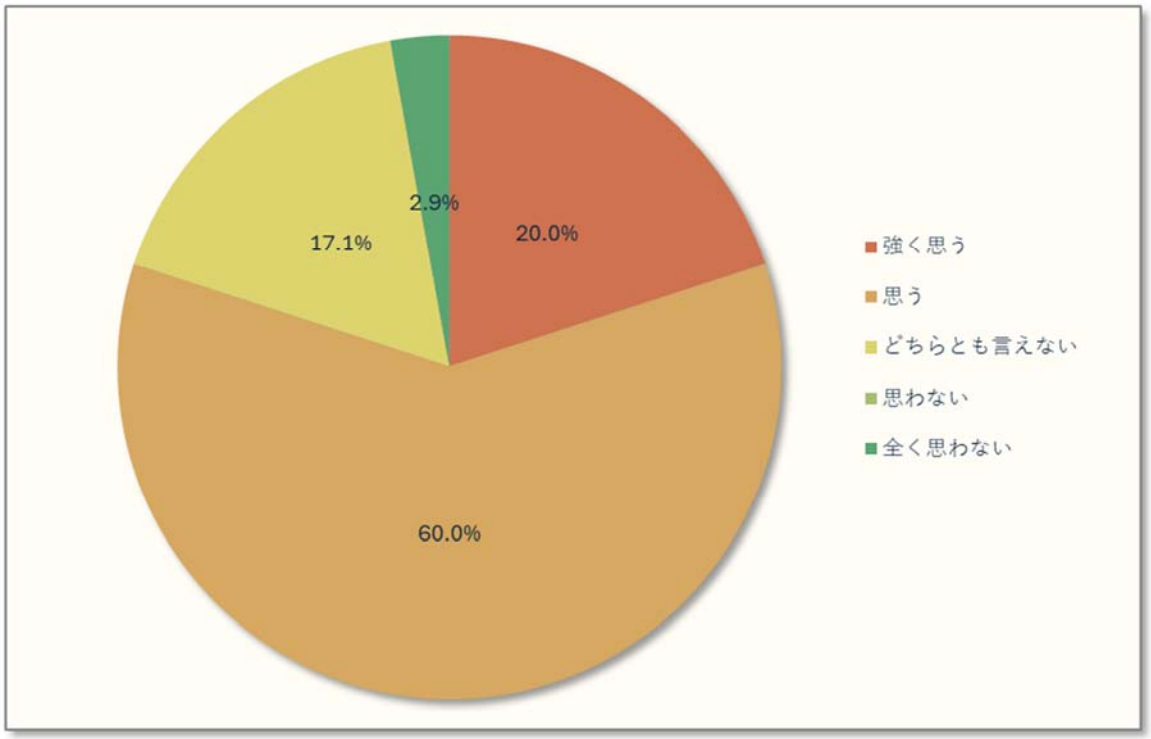
5. 管理栄養士専攻では、健康の保持増進、疾病治療等における医療職としての責務を果たす者としての自覚を持ち、積極的に社会参画する意欲と生涯学習を継続しようとする態度を有する。



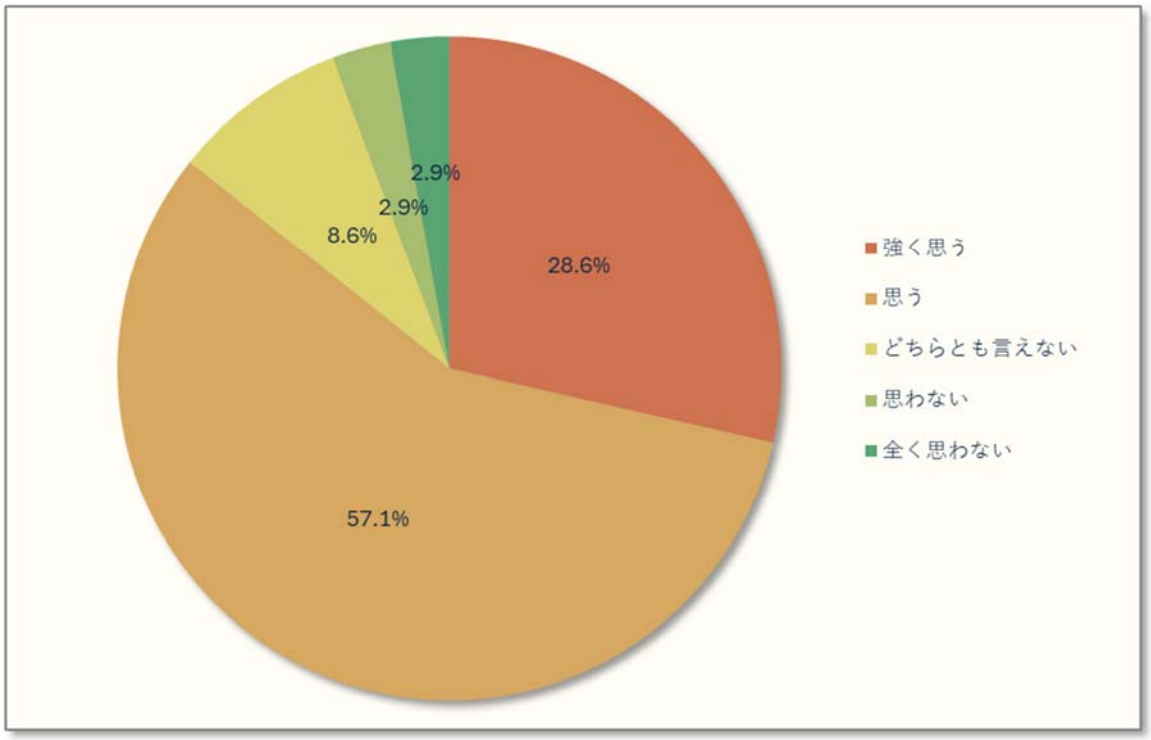
6. 食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。



7. 論理的に記述し、的確に表現することができる。

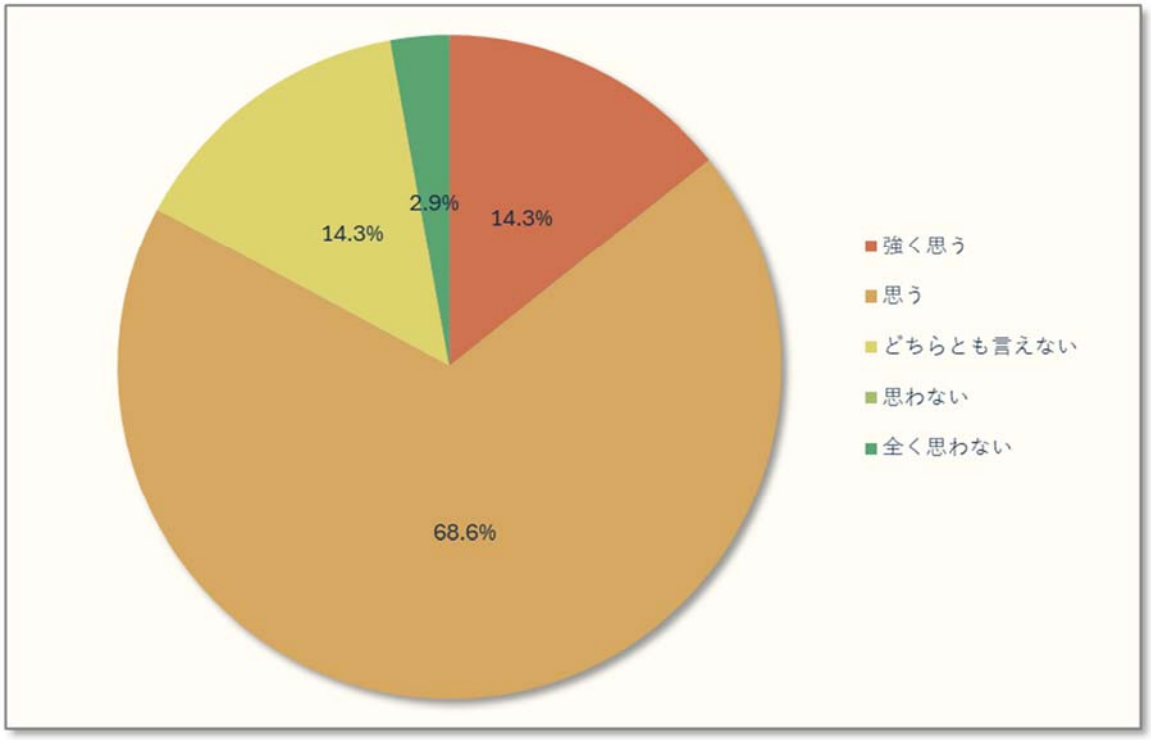


8. 管理栄養士専攻では、管理栄養士専門科目である臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論に関する技能を有し、対象と目的に応じた展開ができる。

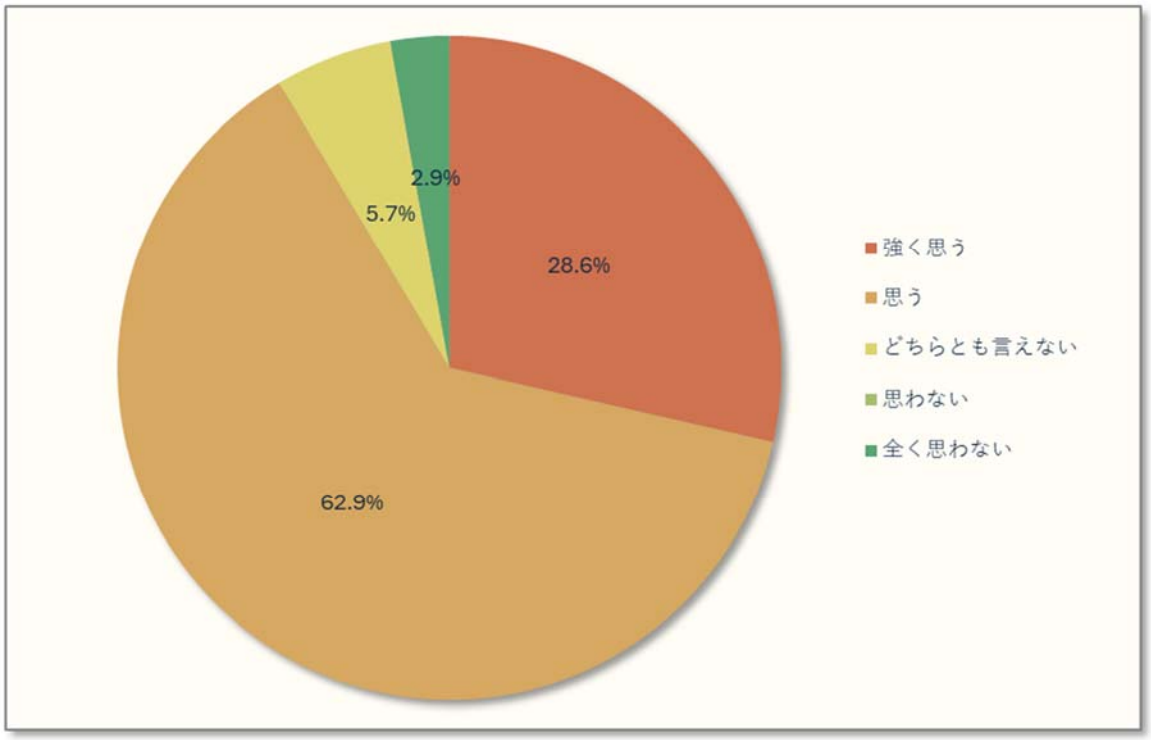


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

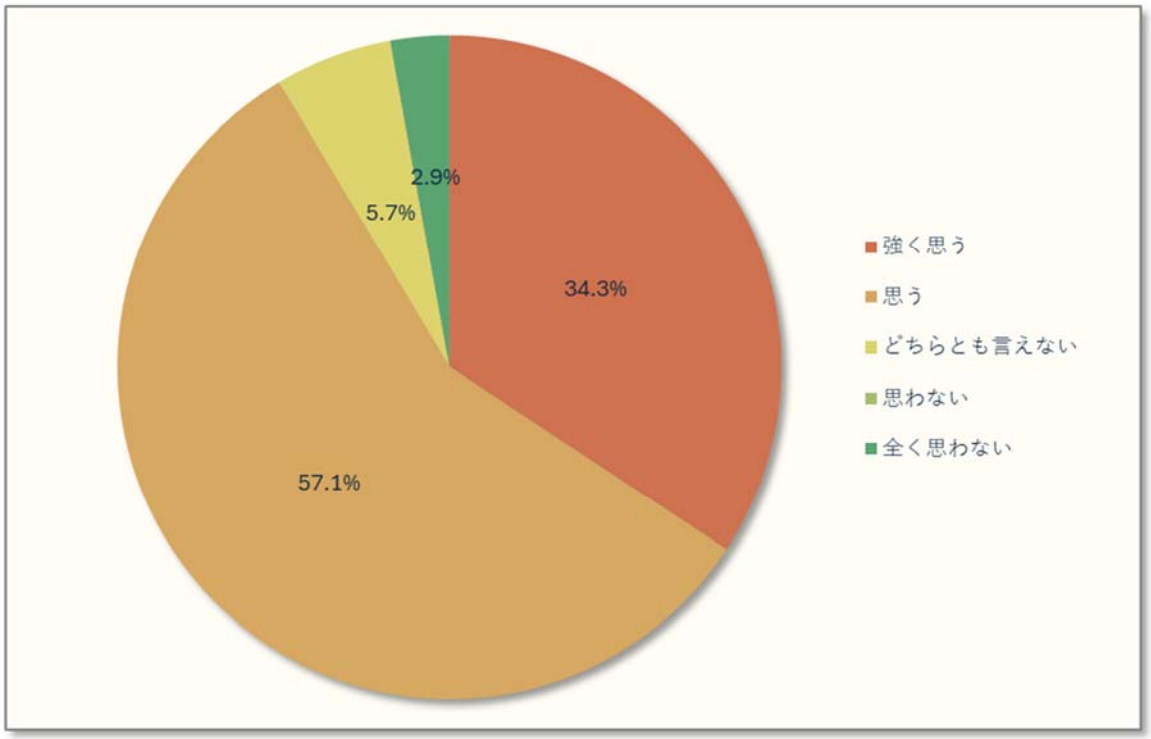
9.　人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



10. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

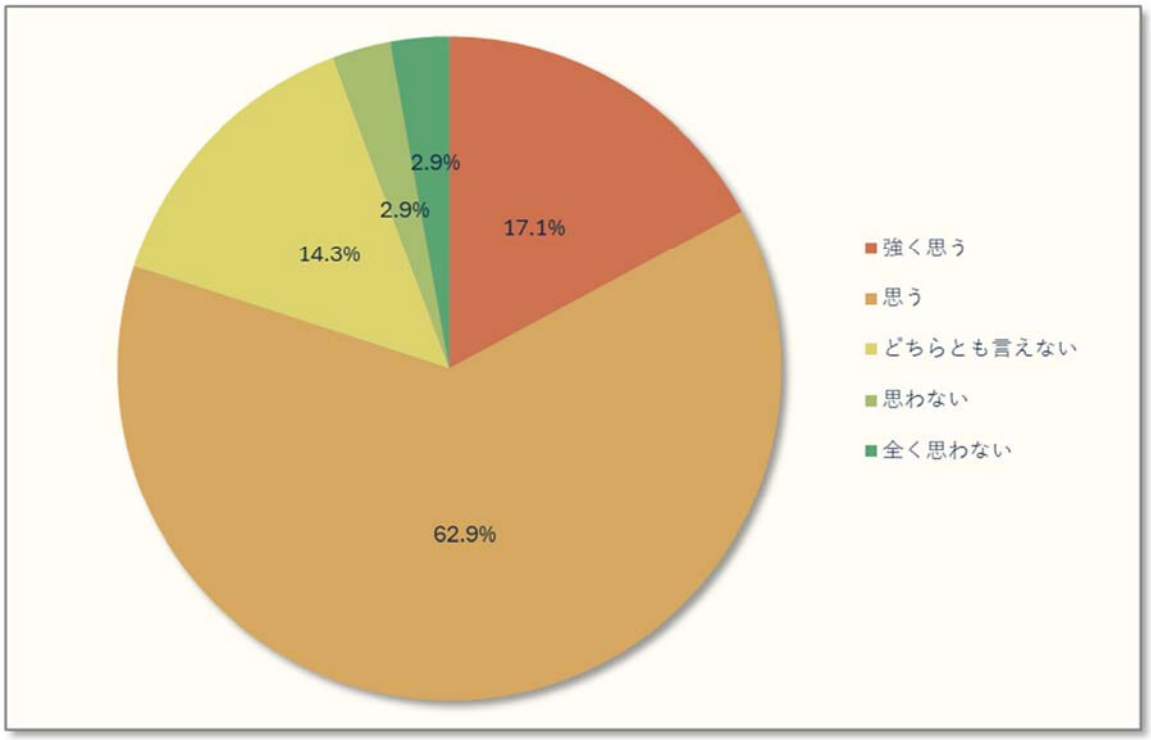


11. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

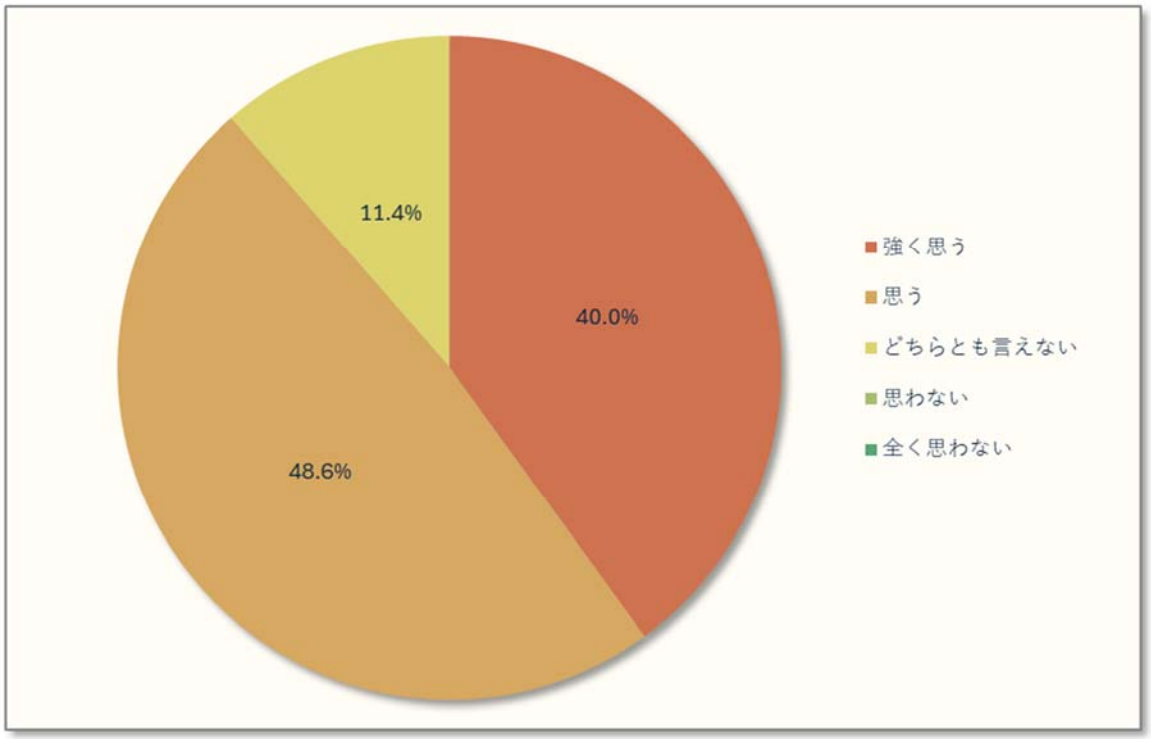


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

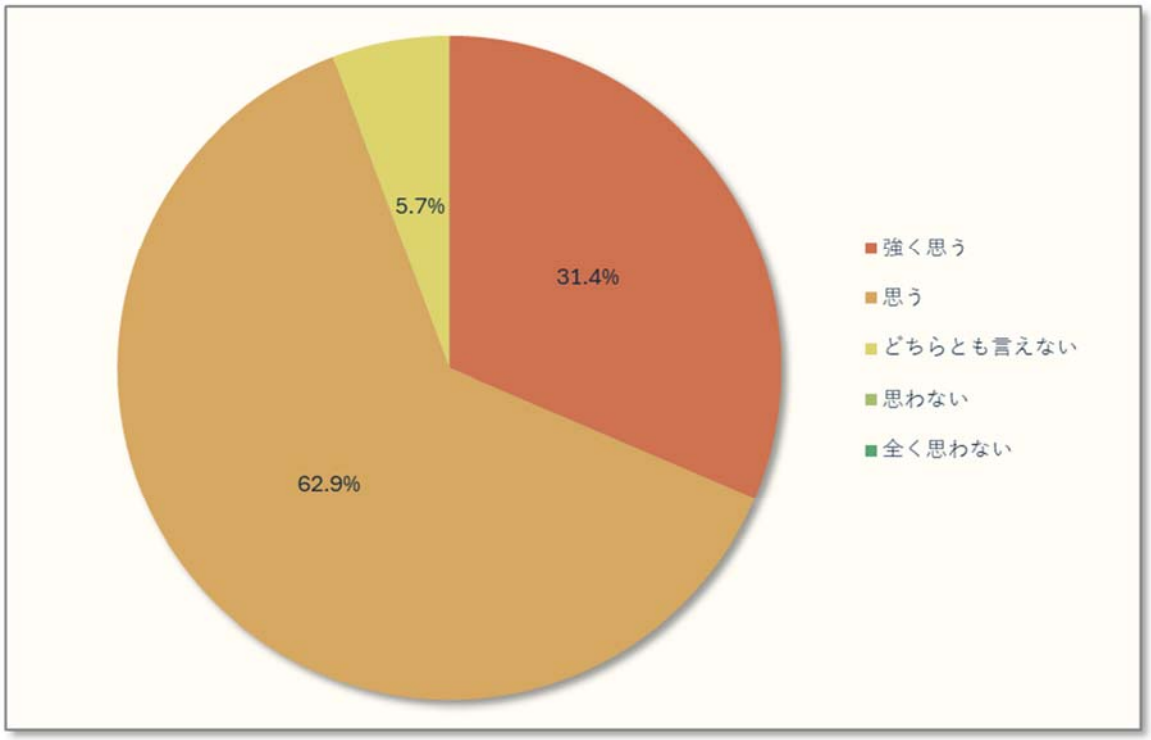
12. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



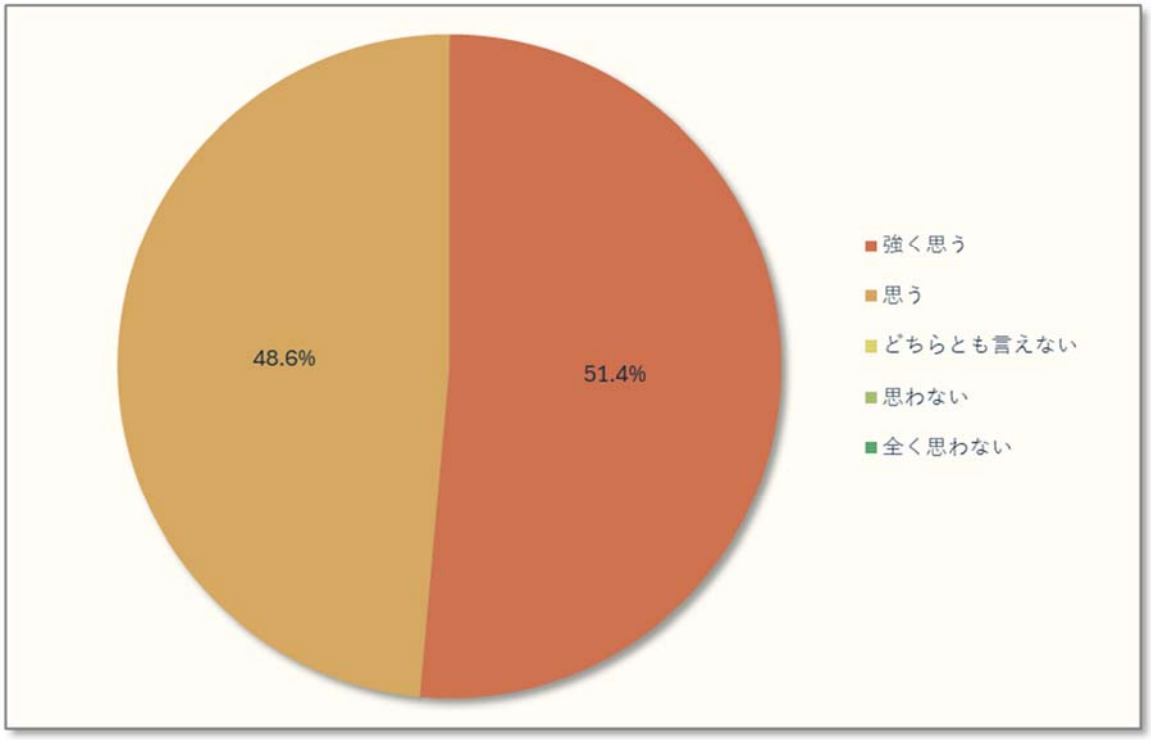
13. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



14. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

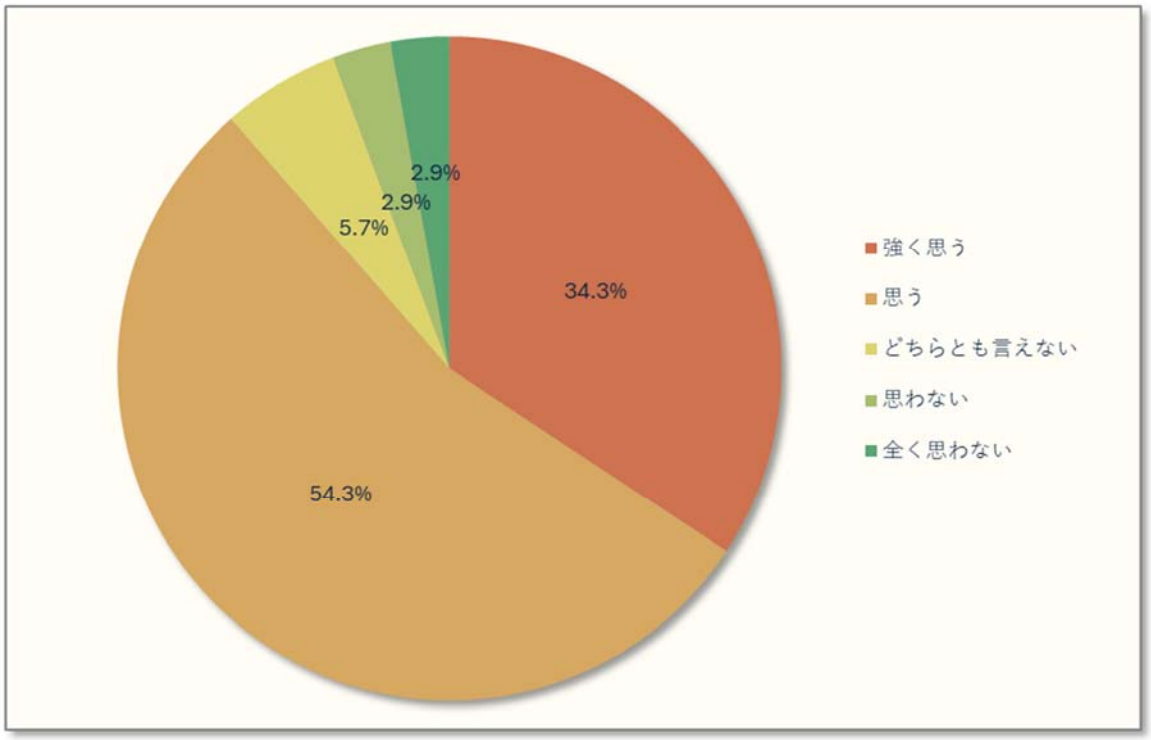


15. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

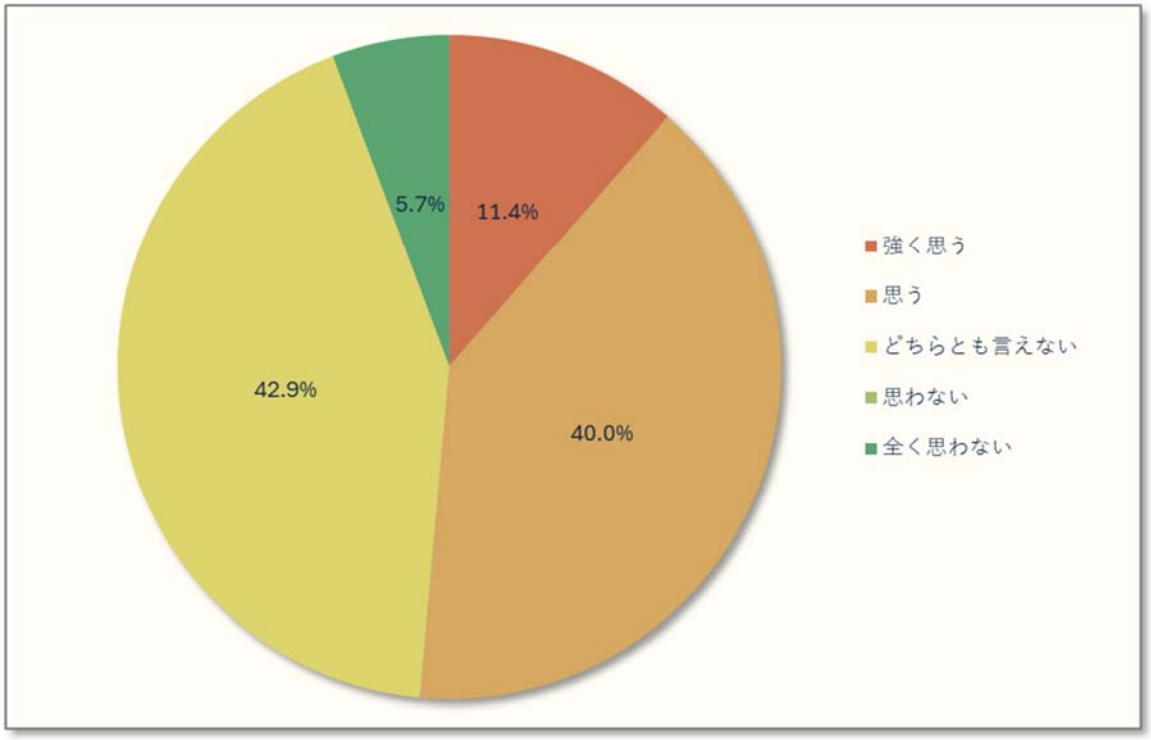


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

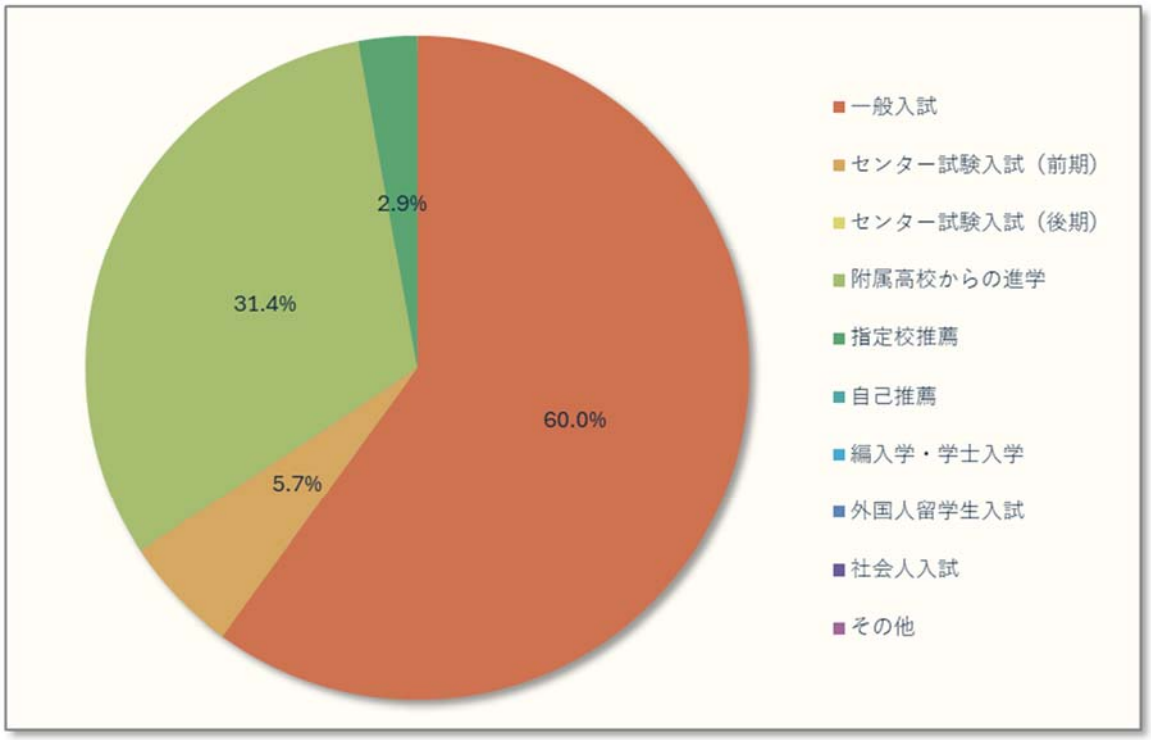
16. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



17. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



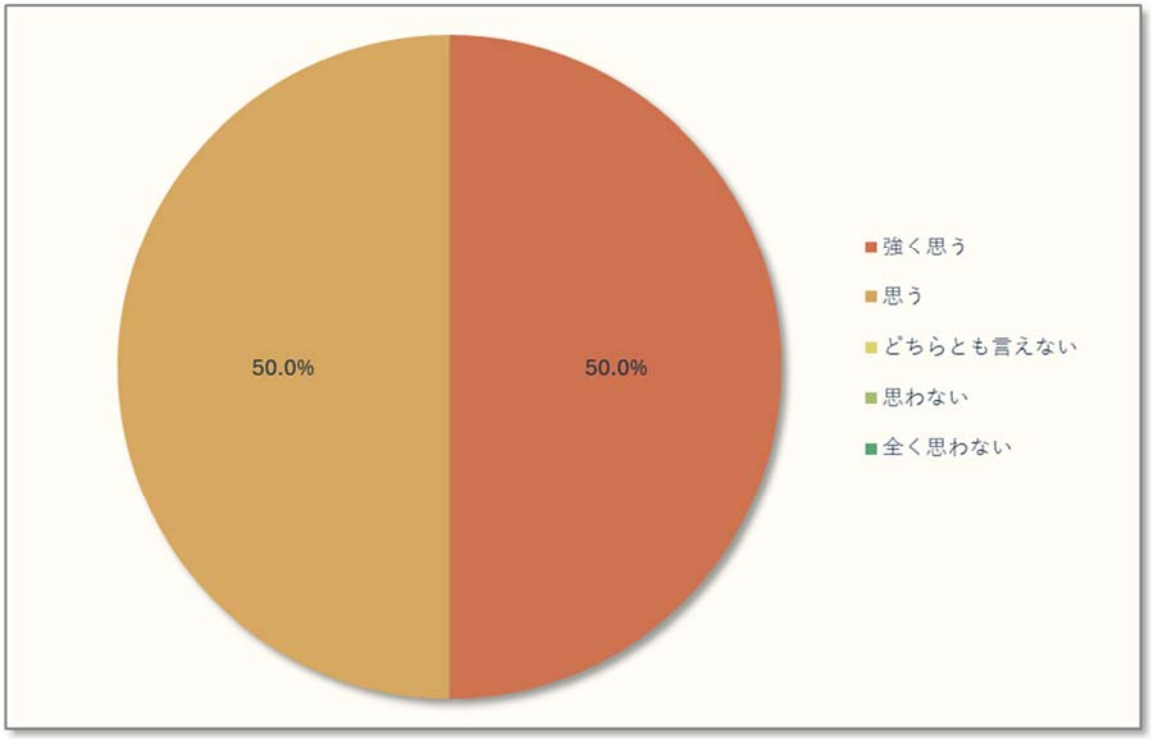
18. あなたが入学した試験形態を教えてください。



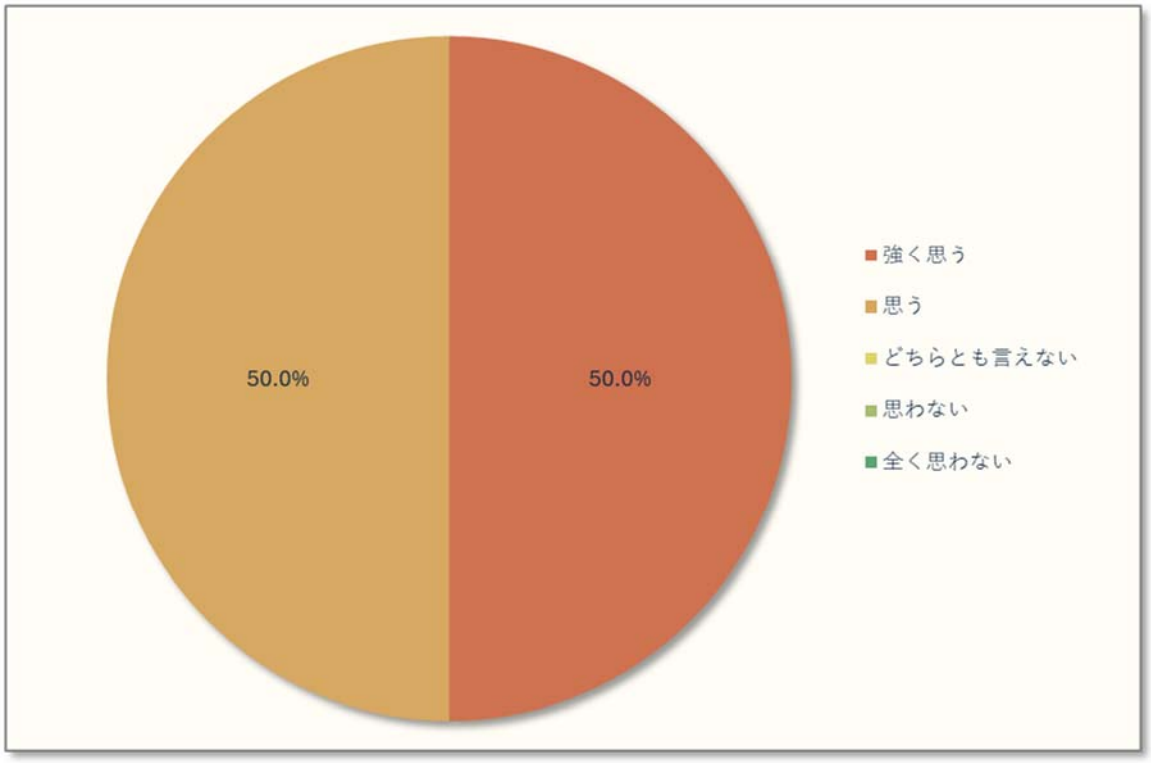
住居学科　居住環境デザイン専攻

住居学科居住環境デザイン専攻の学生として以下のことが身についたと思いますか？[住居学科DP]

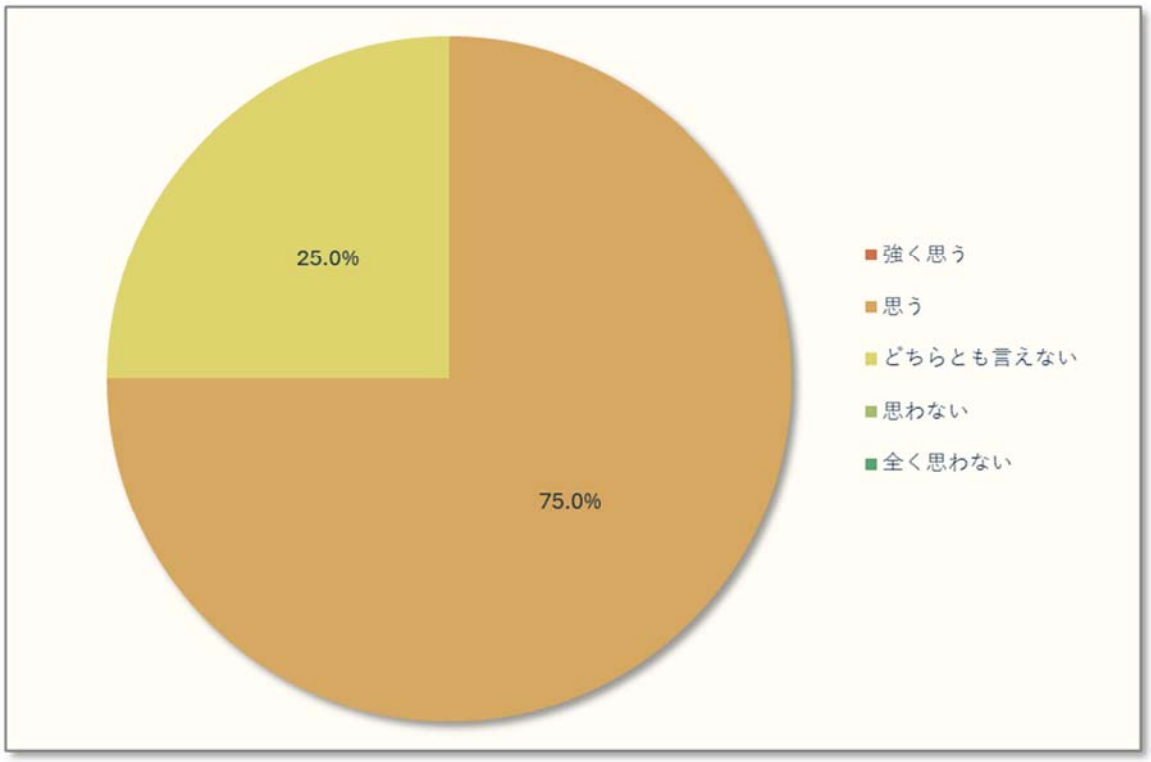
1.　広い視野から住居や地域を理解できる。



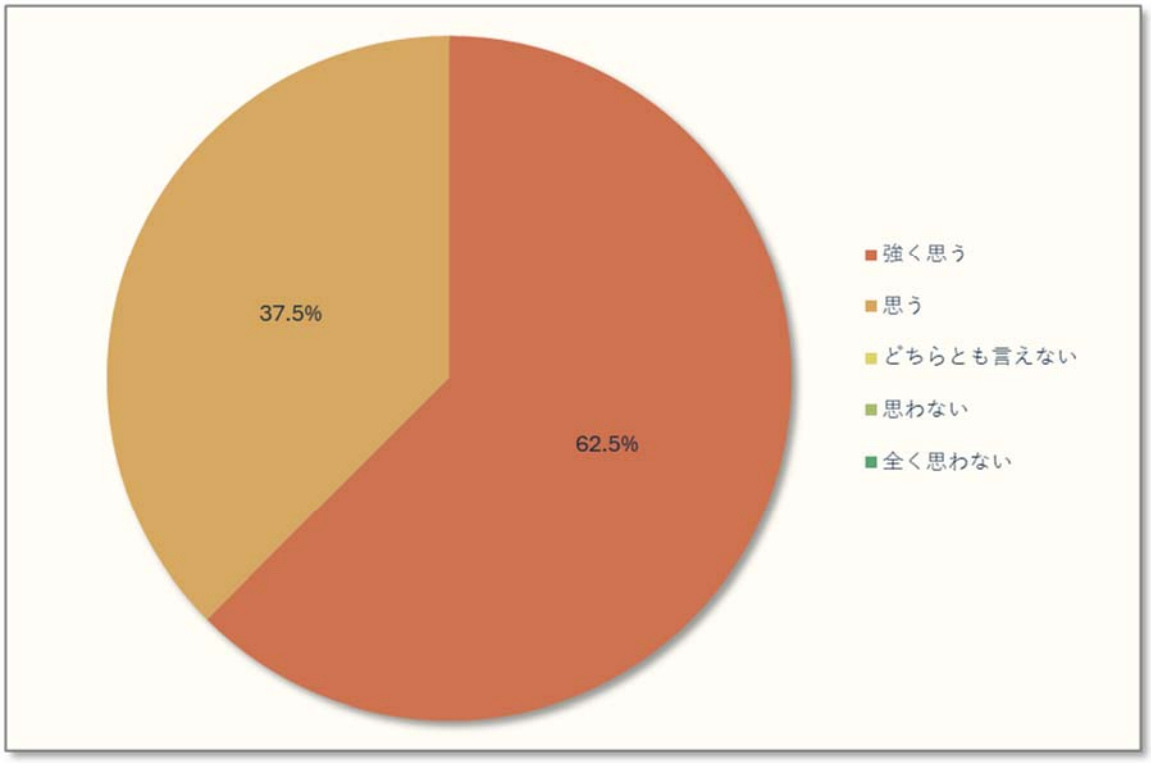
2.　居住環境デザイン専攻では、住生活の歩みと現状を理解できる。



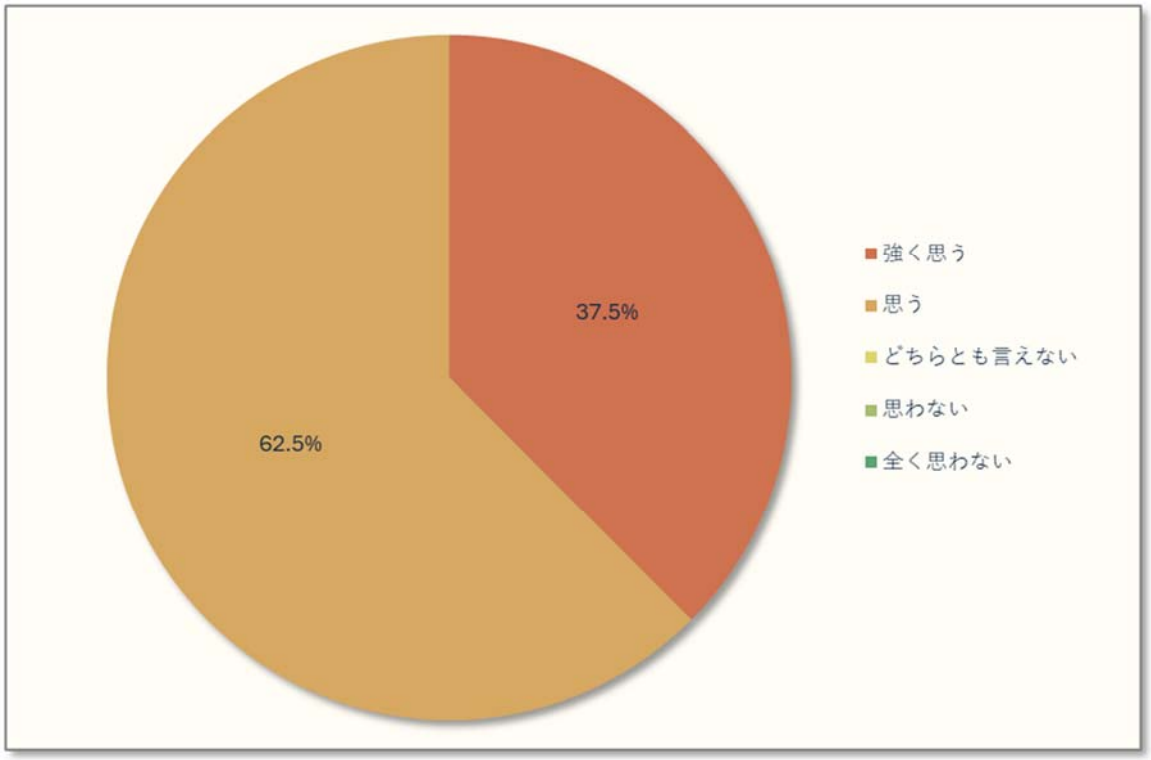
3. 自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。



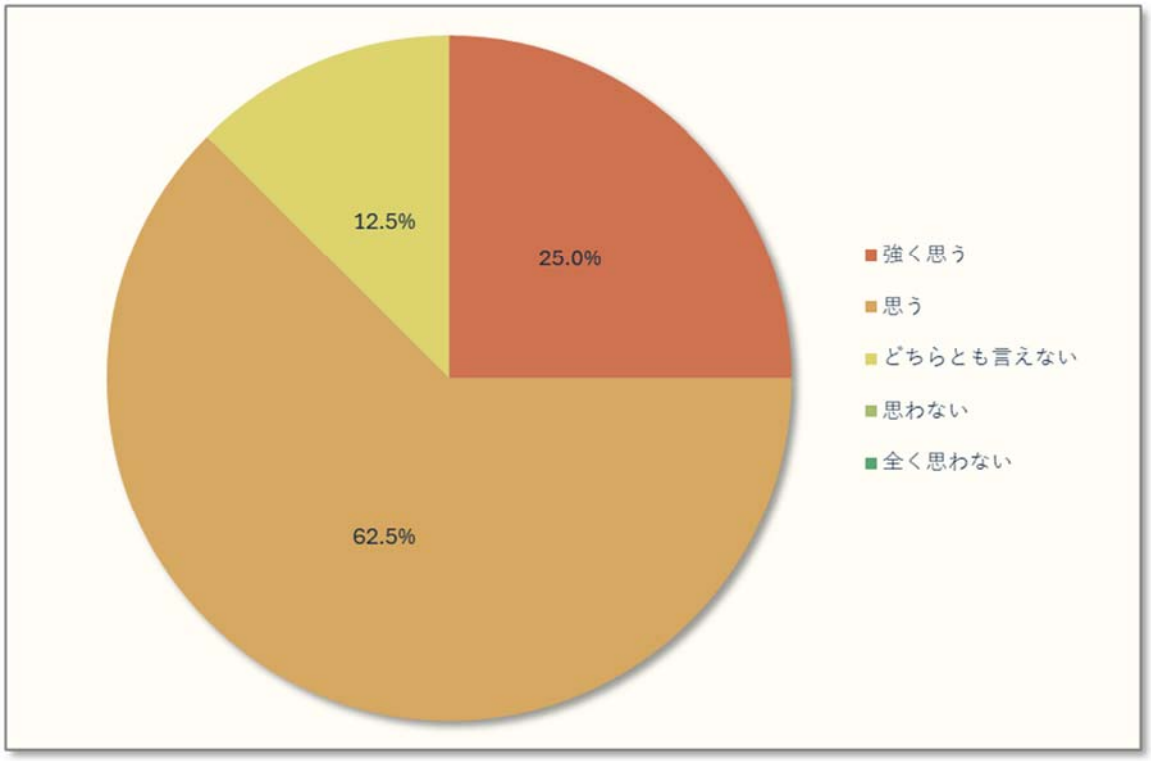
4. 居住環境デザイン専攻では、住生活の向上を促す様々な技術を踏まえ、生活環境の住みよさを考えることができる。



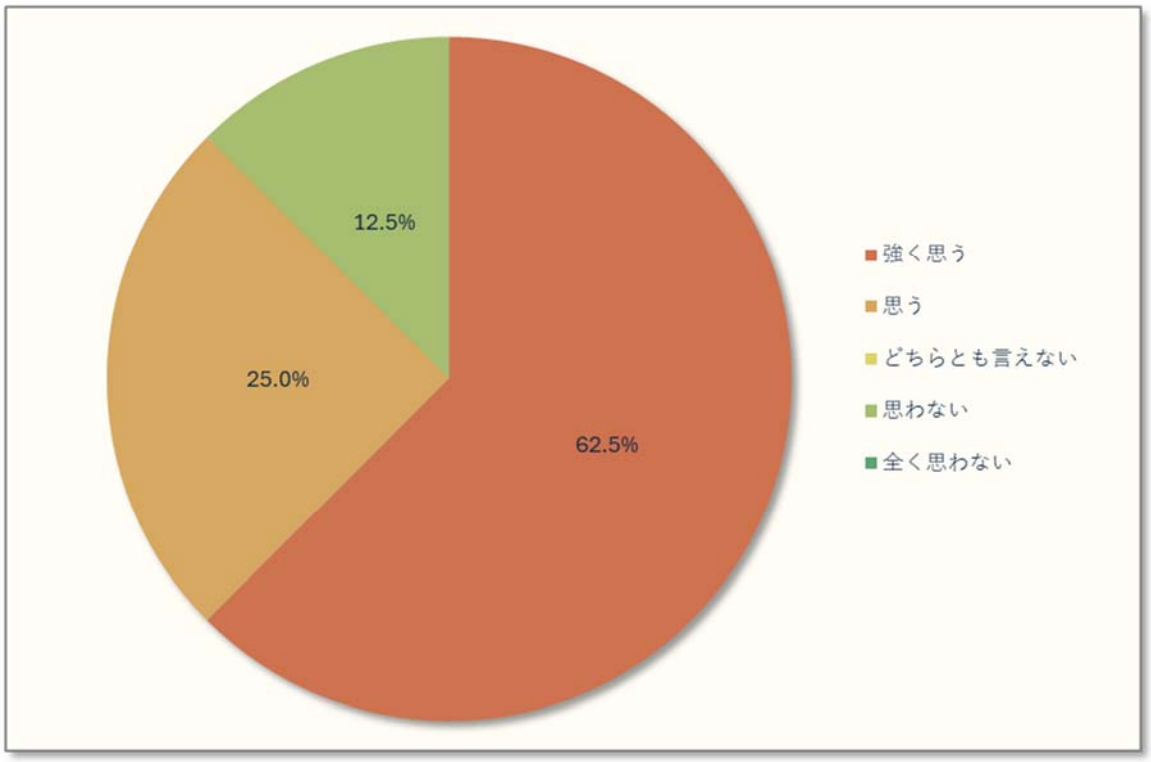
5. 住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。



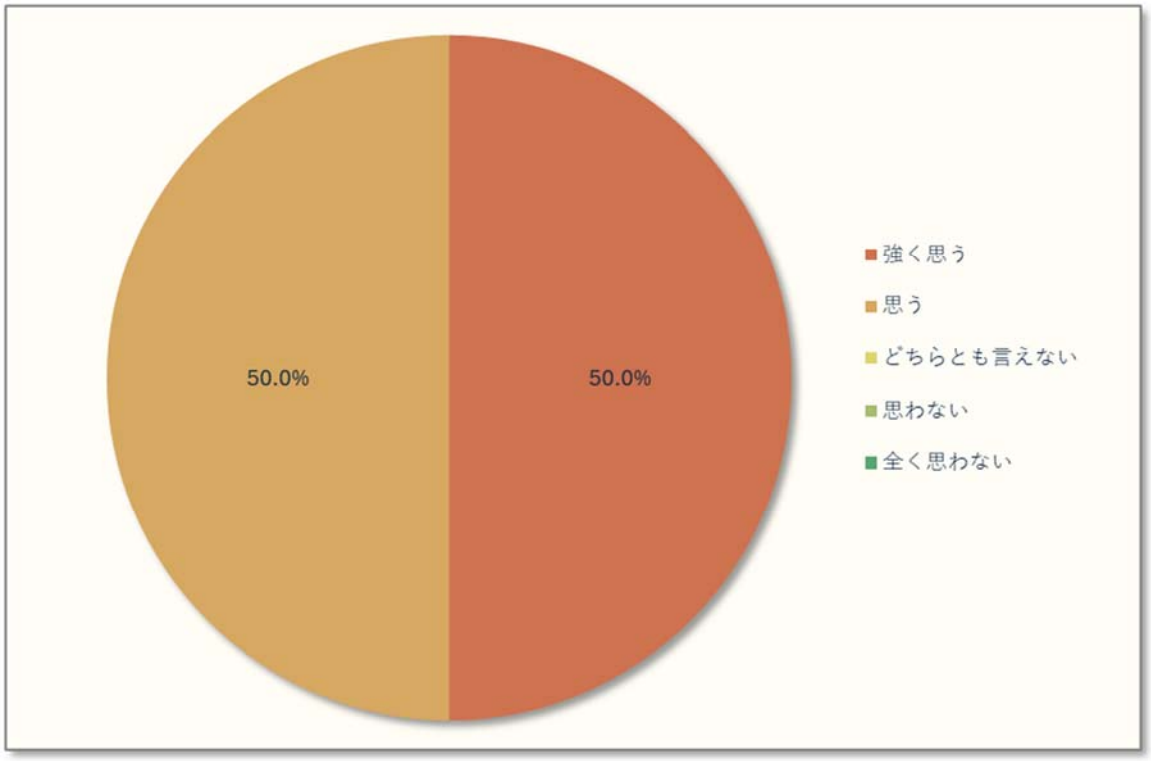
6. 居住環境デザイン専攻では、近隣や地域を含めた住環境において、様々な住民が住みよいとされるような環境改善を指導できる。



7. 住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。

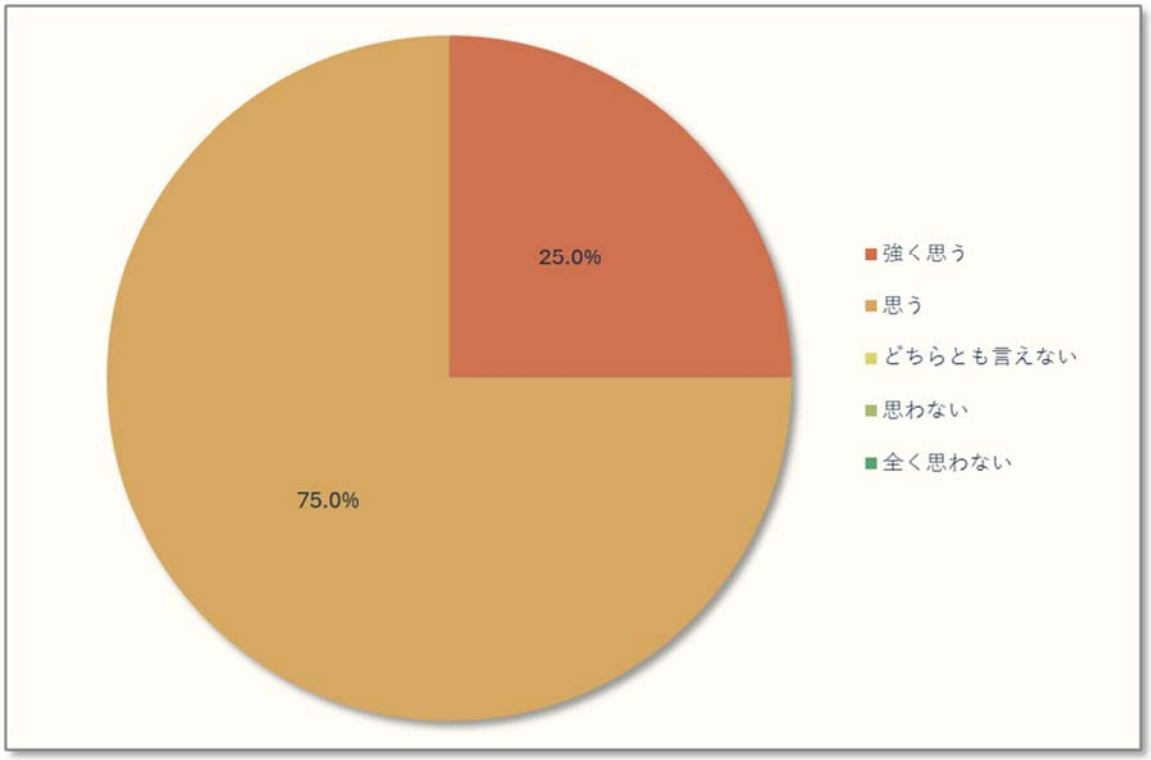


8. 居住環境デザイン専攻では、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。

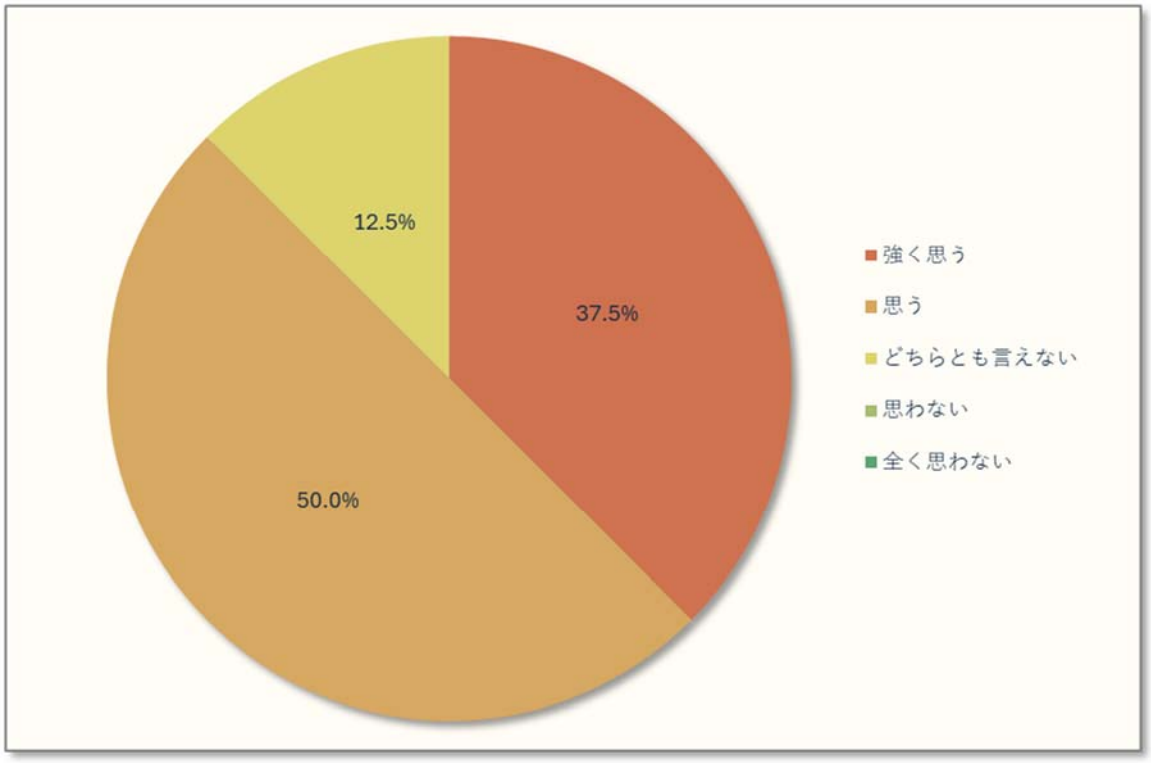


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

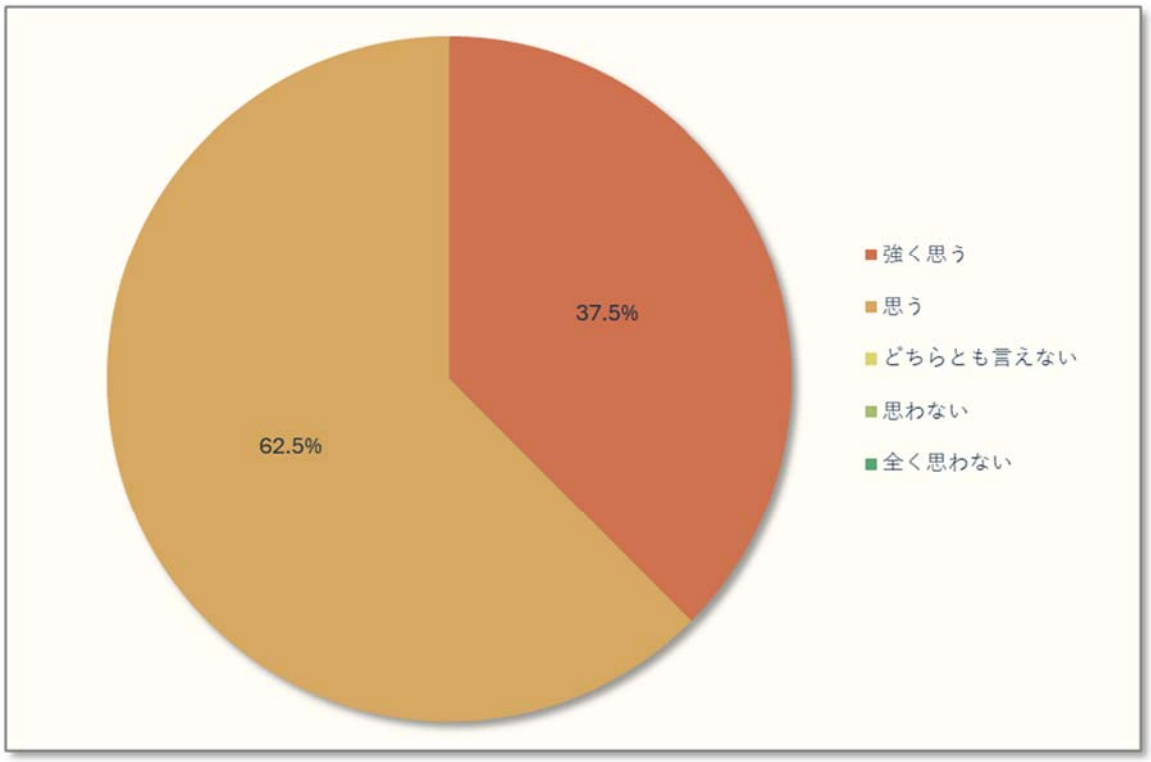
9.　人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



10. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

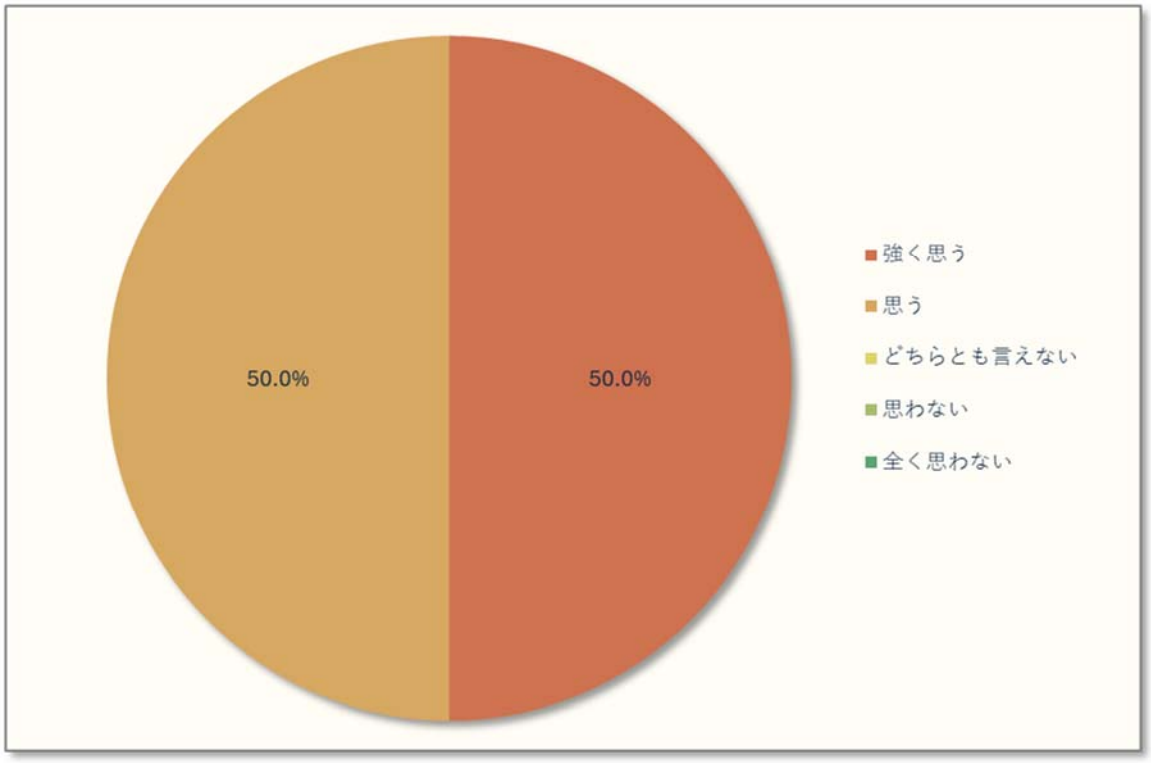


11. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

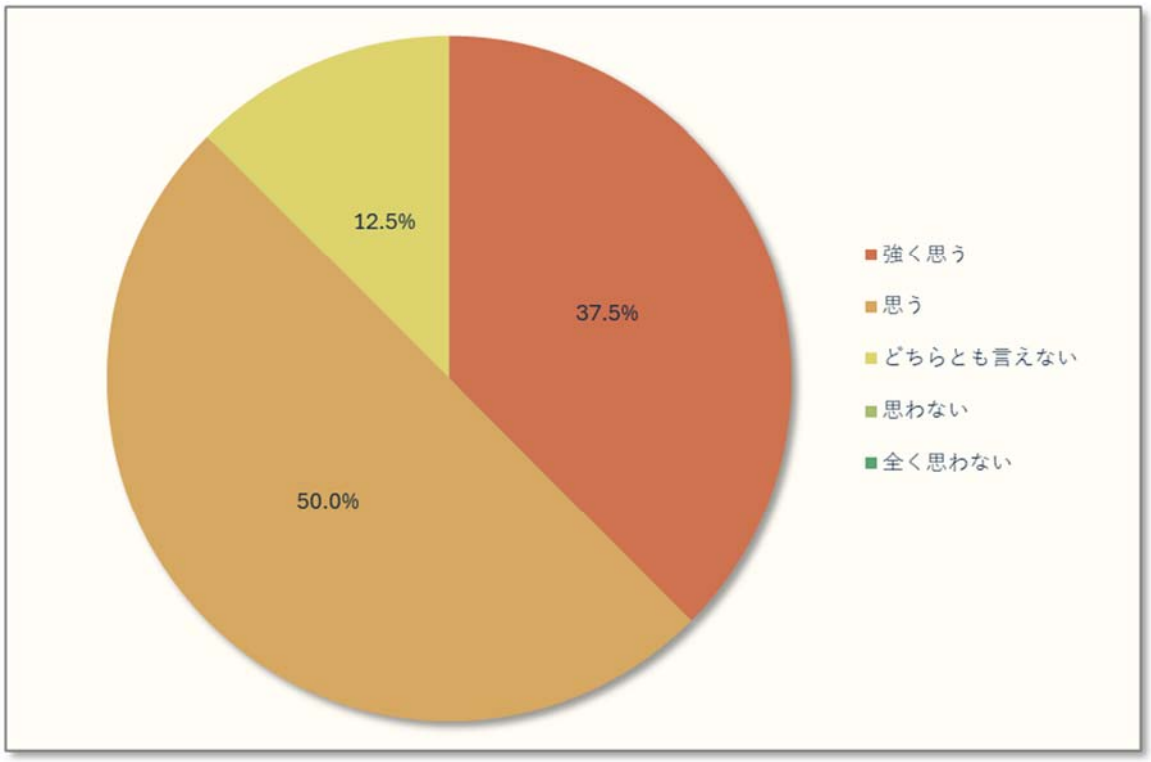


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

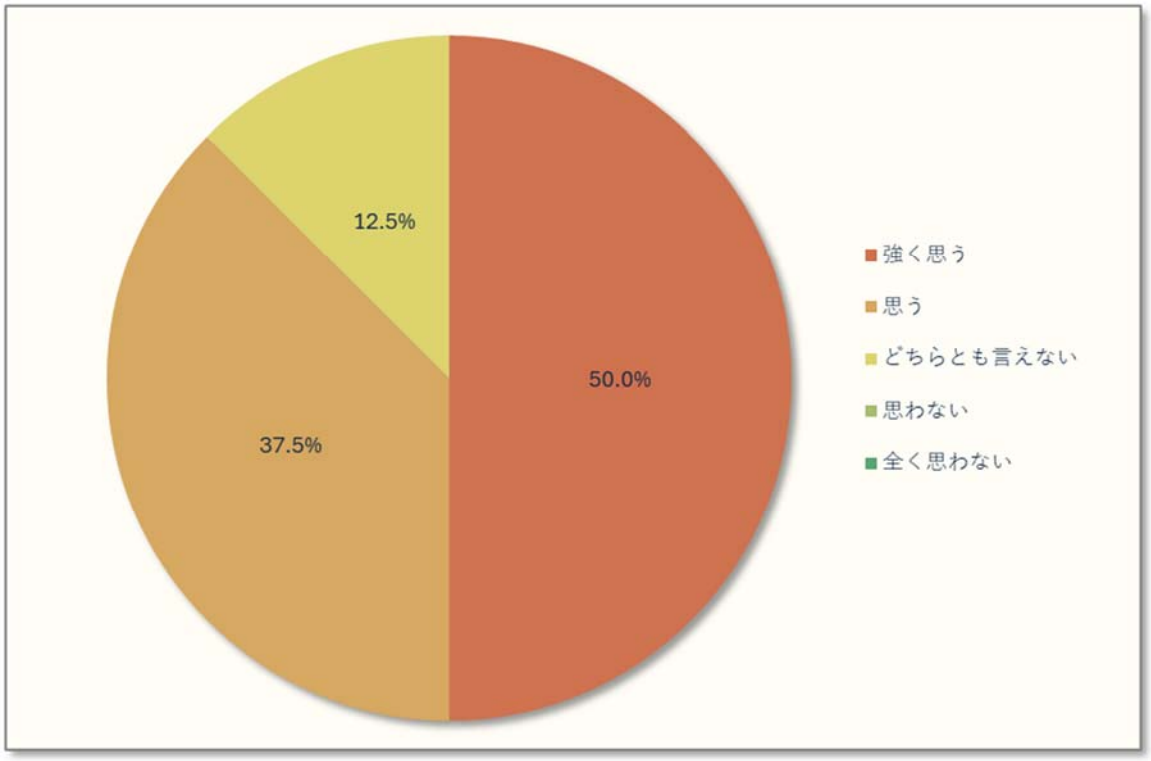
12. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



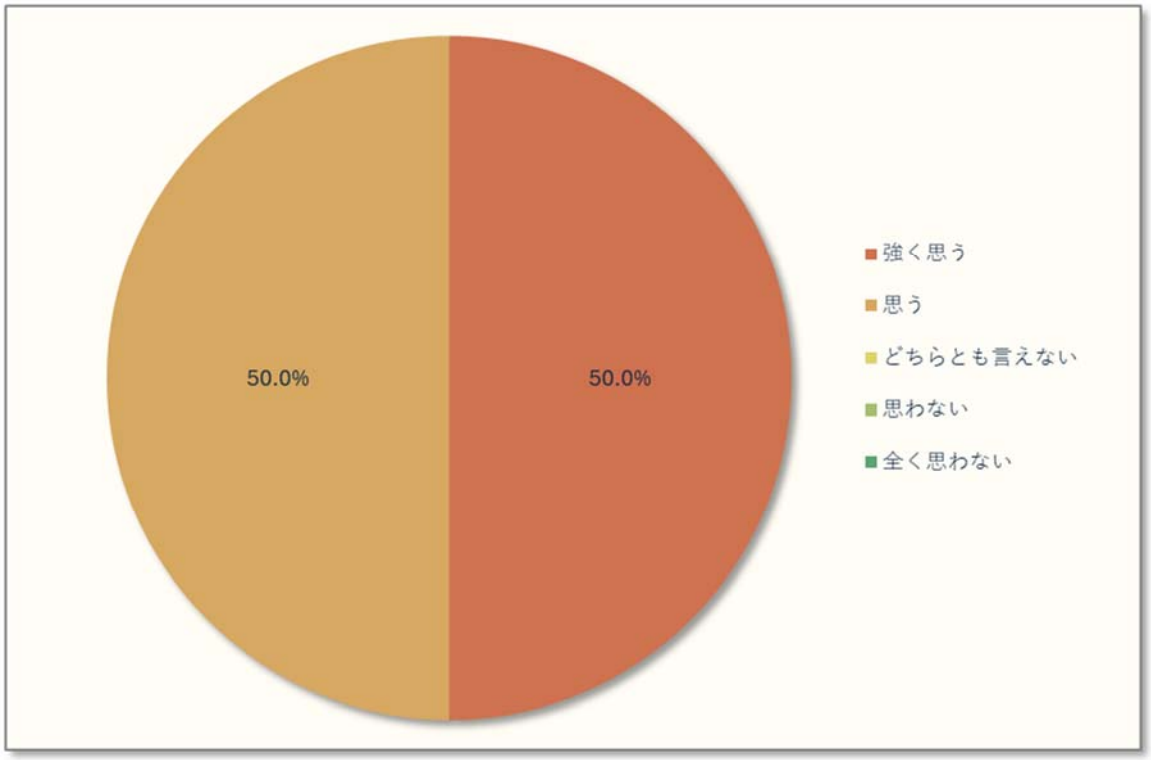
13. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



14. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

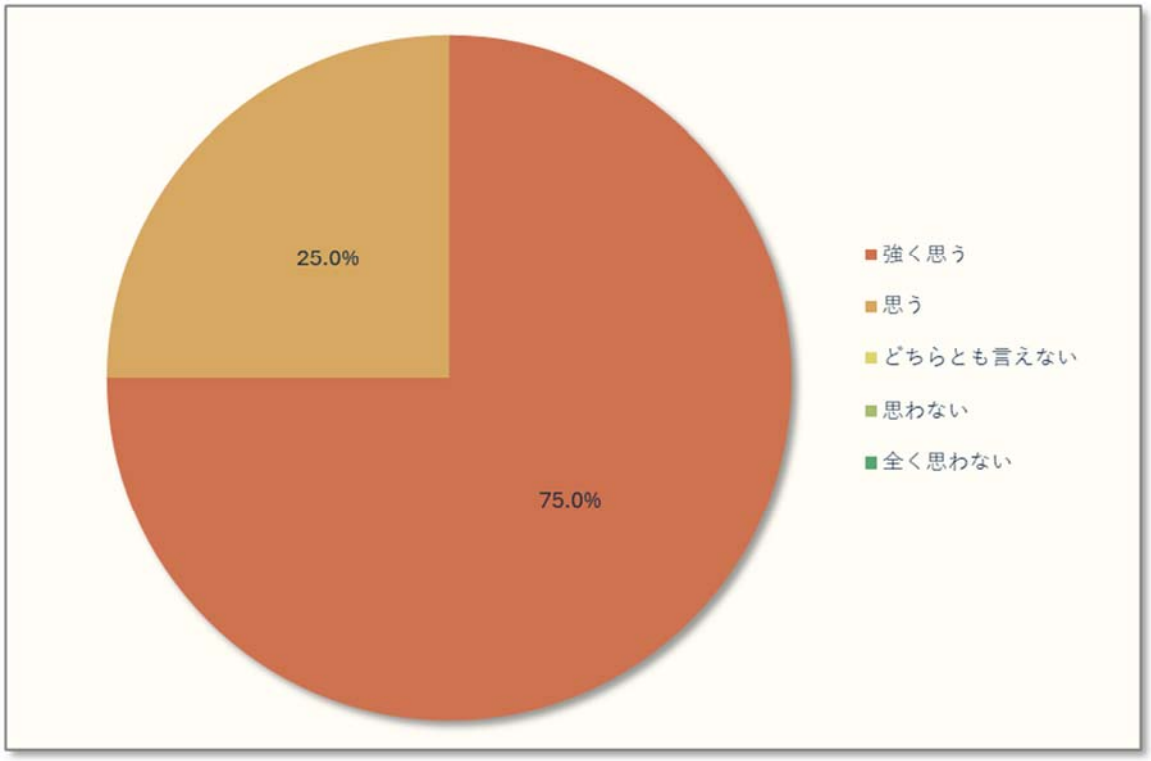


15. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

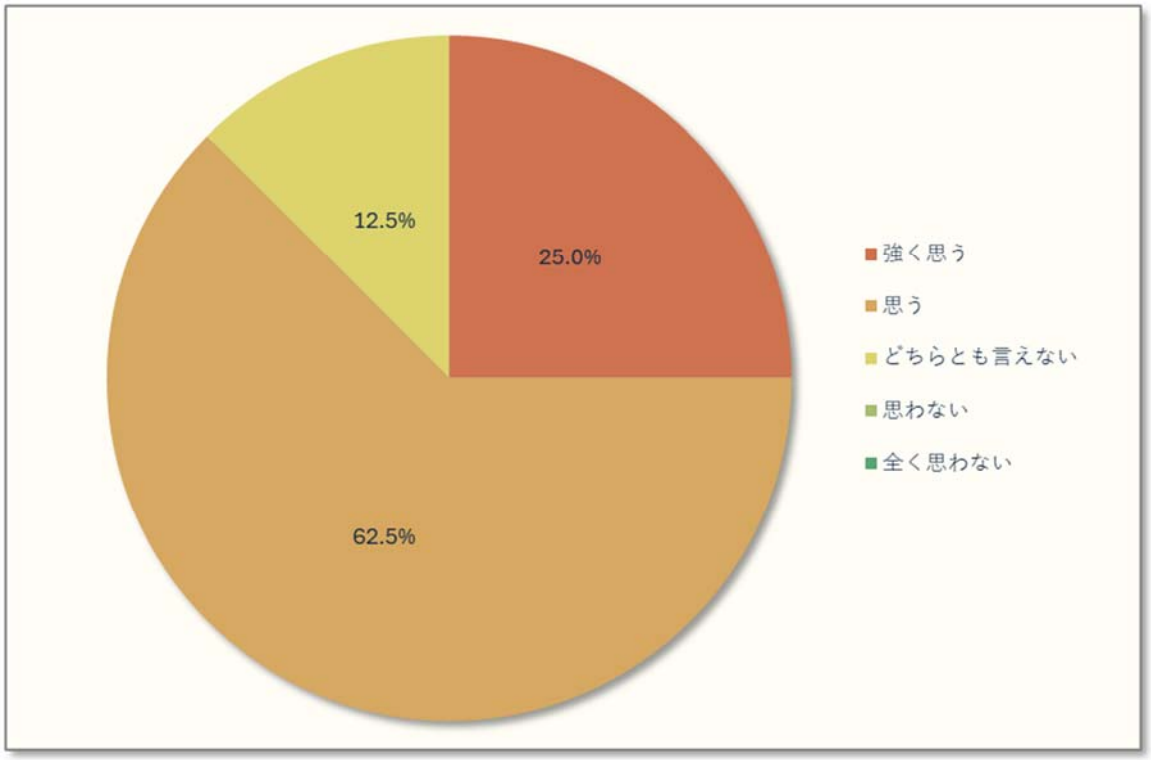


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

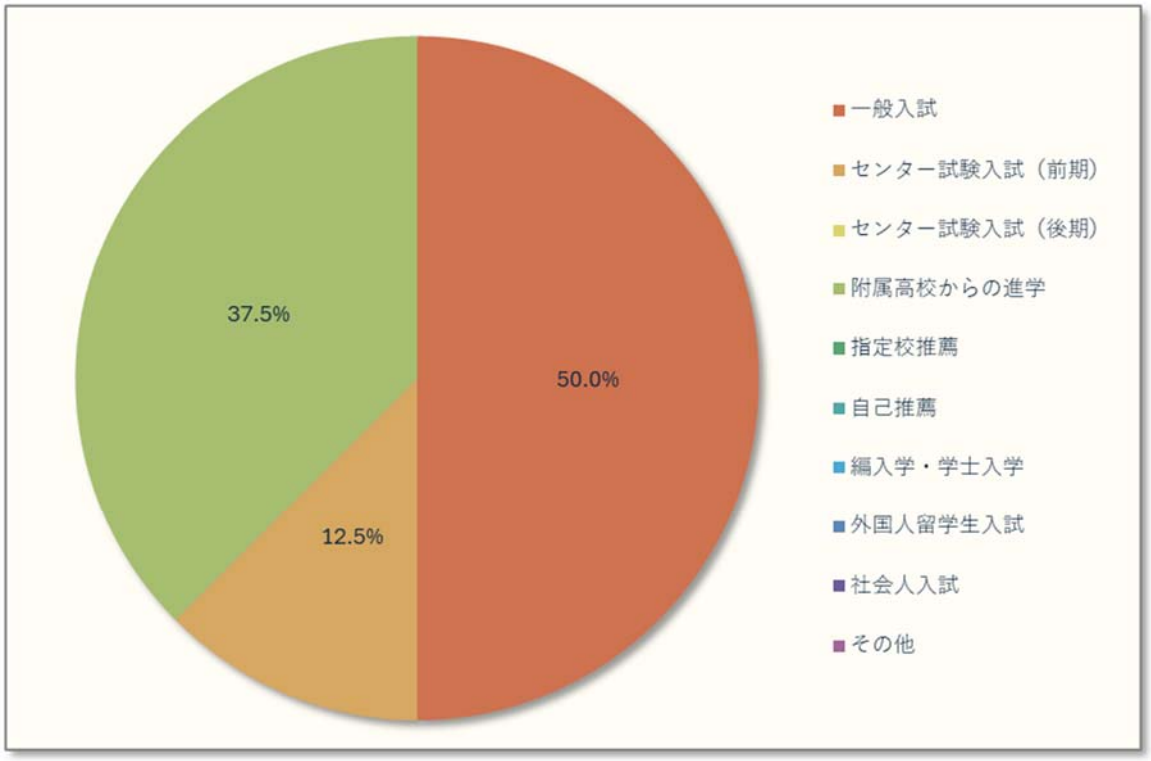
16. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



17. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



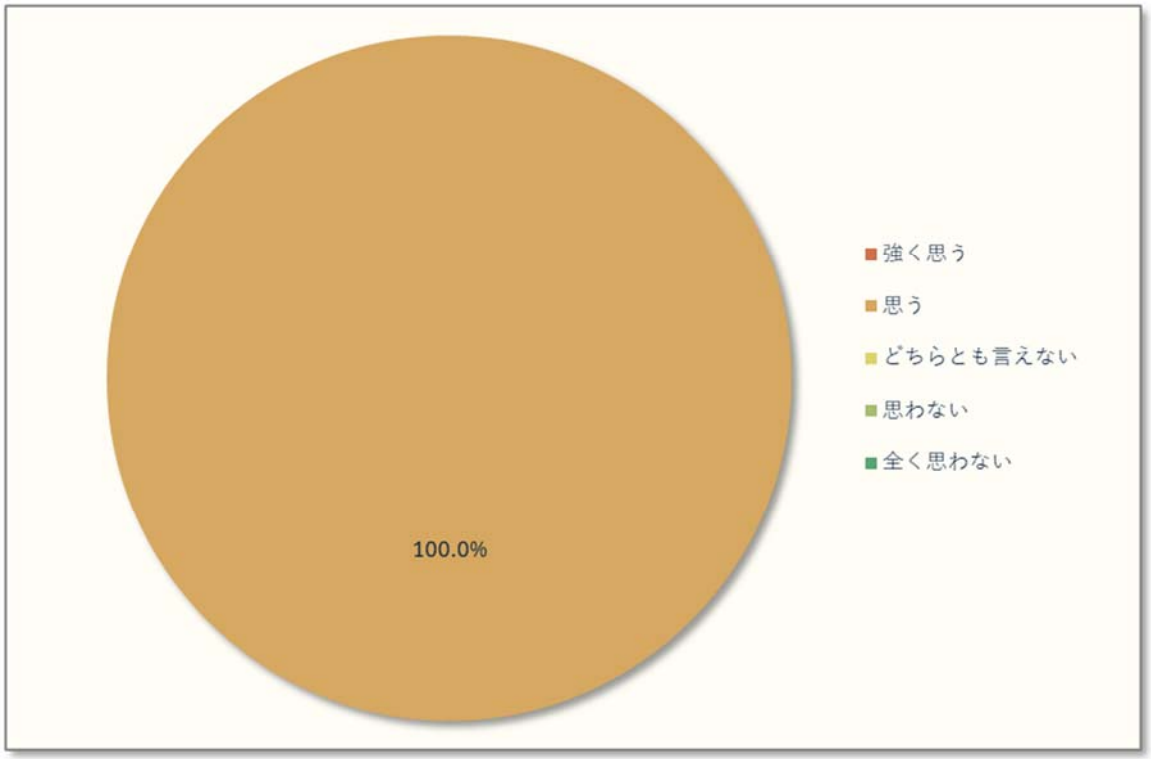
18. あなたが入学した試験形態を教えてください。



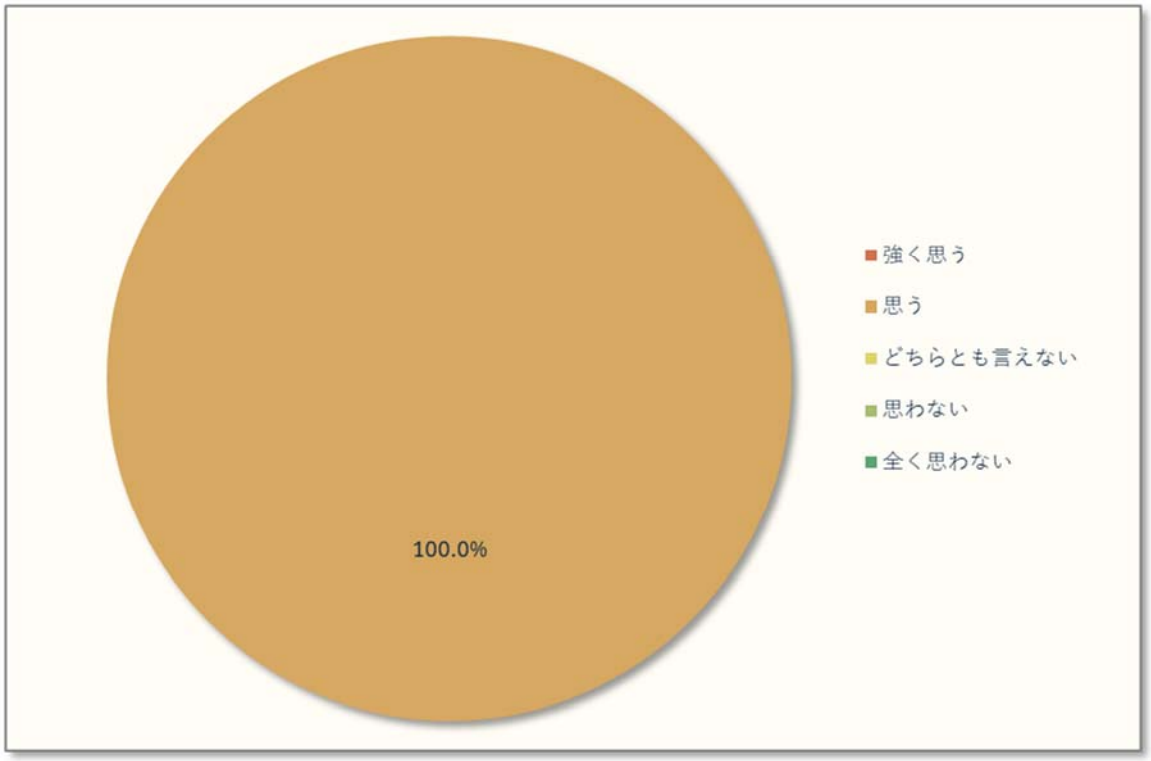
住居学科　建築デザイン専攻

住居学科建築デザイン専攻の学生として以下のことが身についたと思いますか？[住居学科DP]

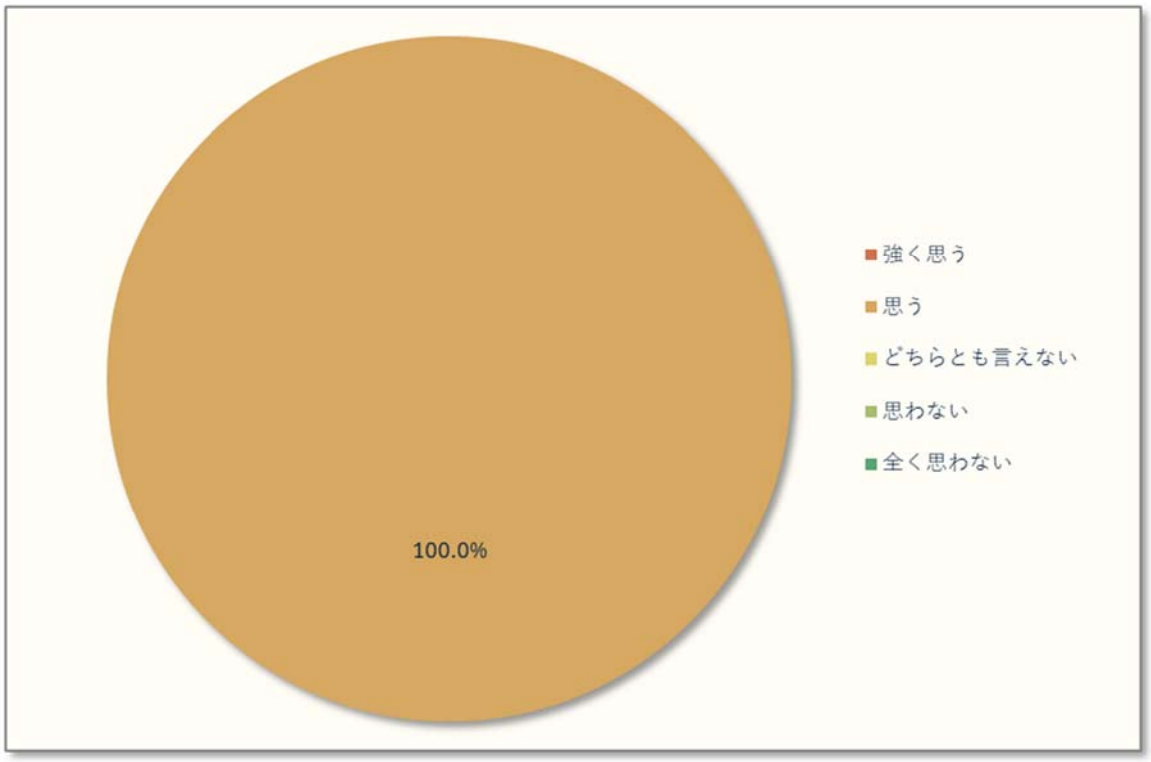
1.　広い視野から住居や地域を理解できる。



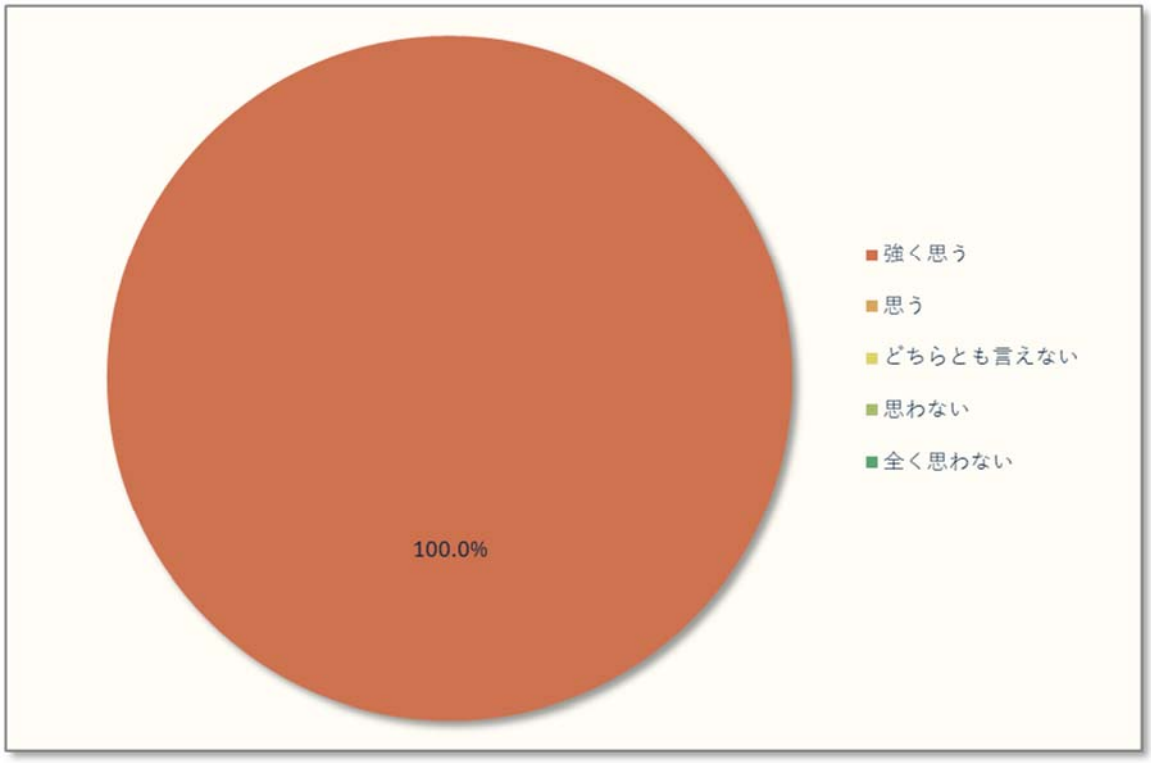
2.　建築デザイン専攻では、建築設計に必要なことの基本を理解できる。



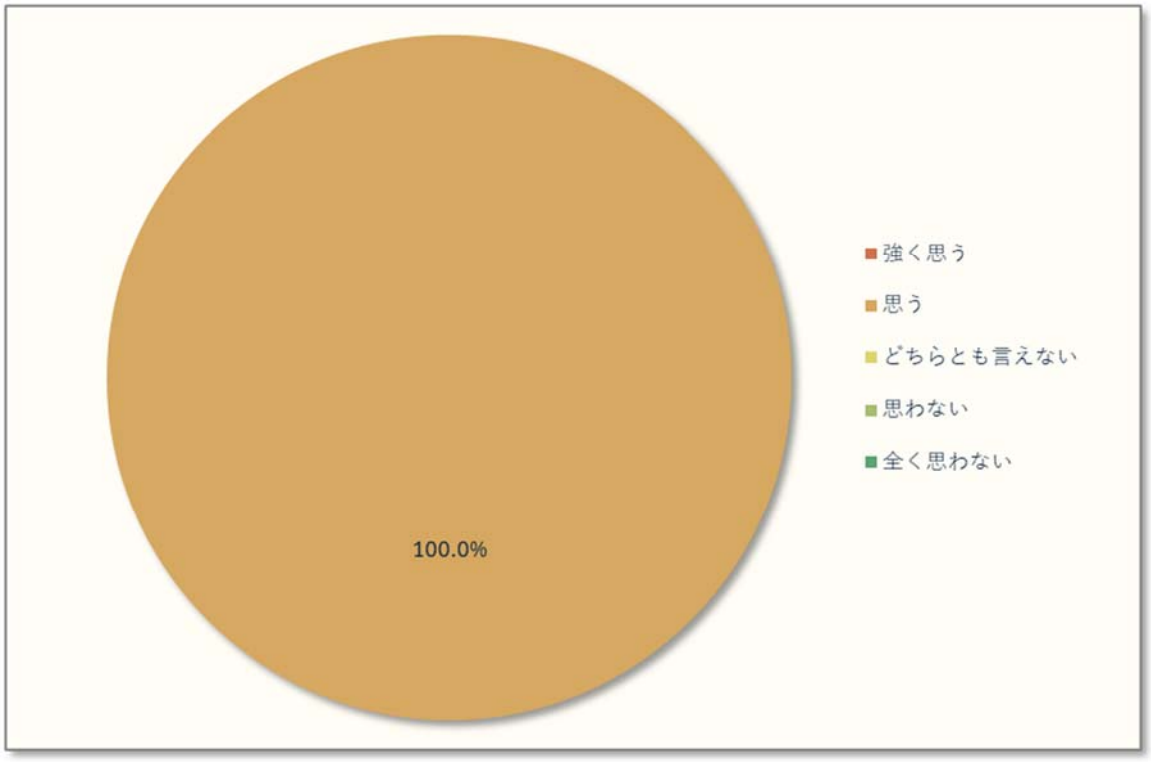
3. 自然科学、情報処理技術等の知識を用い、生活環境に関わる問題を論理的に分析できる。



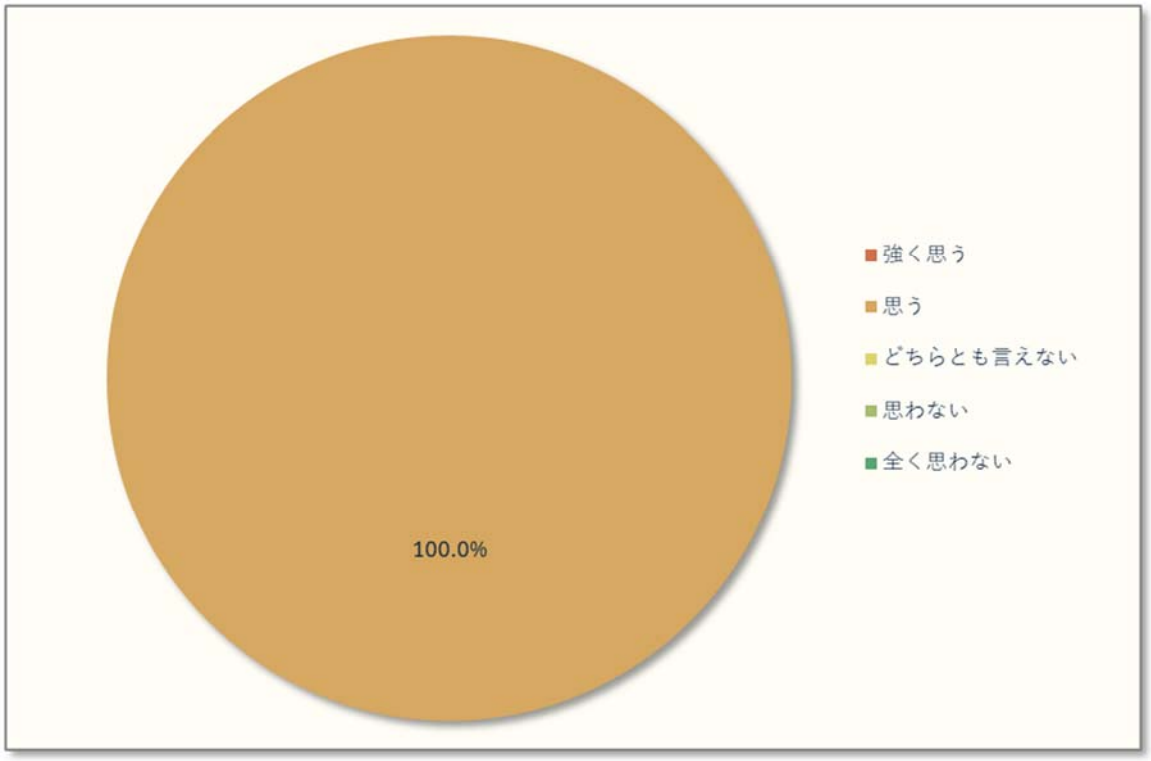
4. 建築デザイン専攻では、生活者の視点で、住宅・建築の様々なテーマを考えることができる。



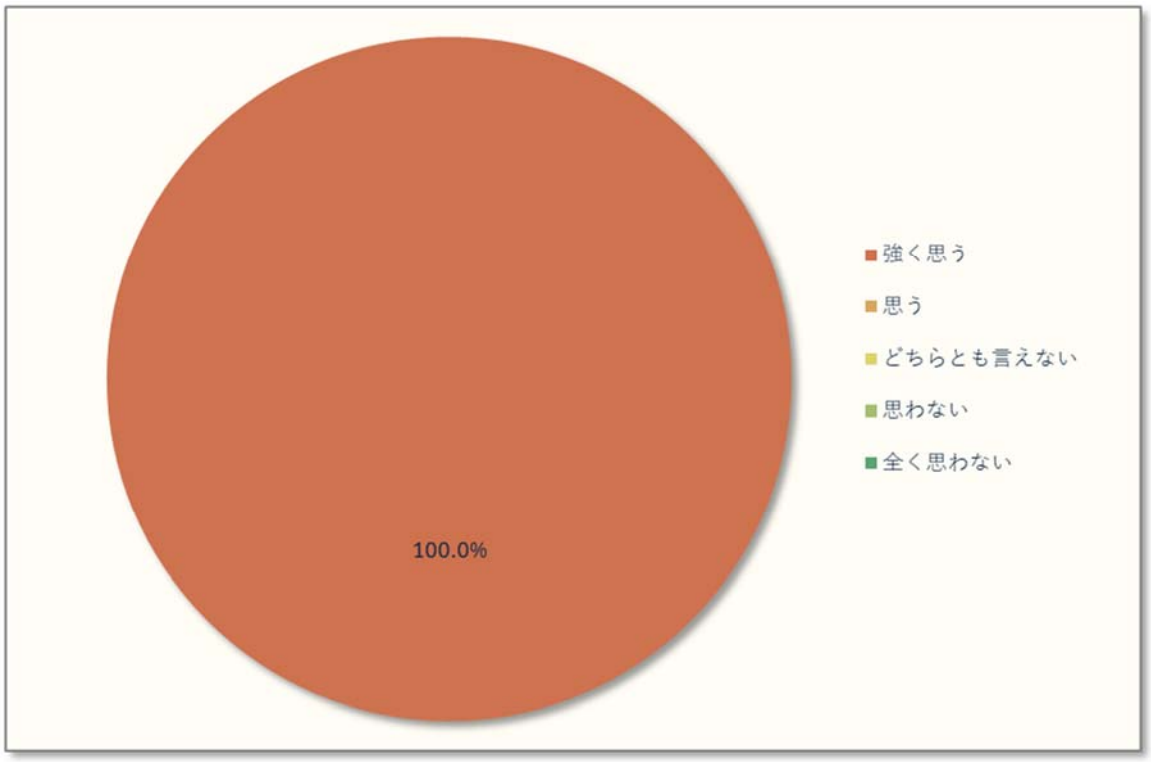
5. 住宅の内・外空間について、家族、ライフスタイル、歴史文化、安全性、快適性等多角的に考えることができる。



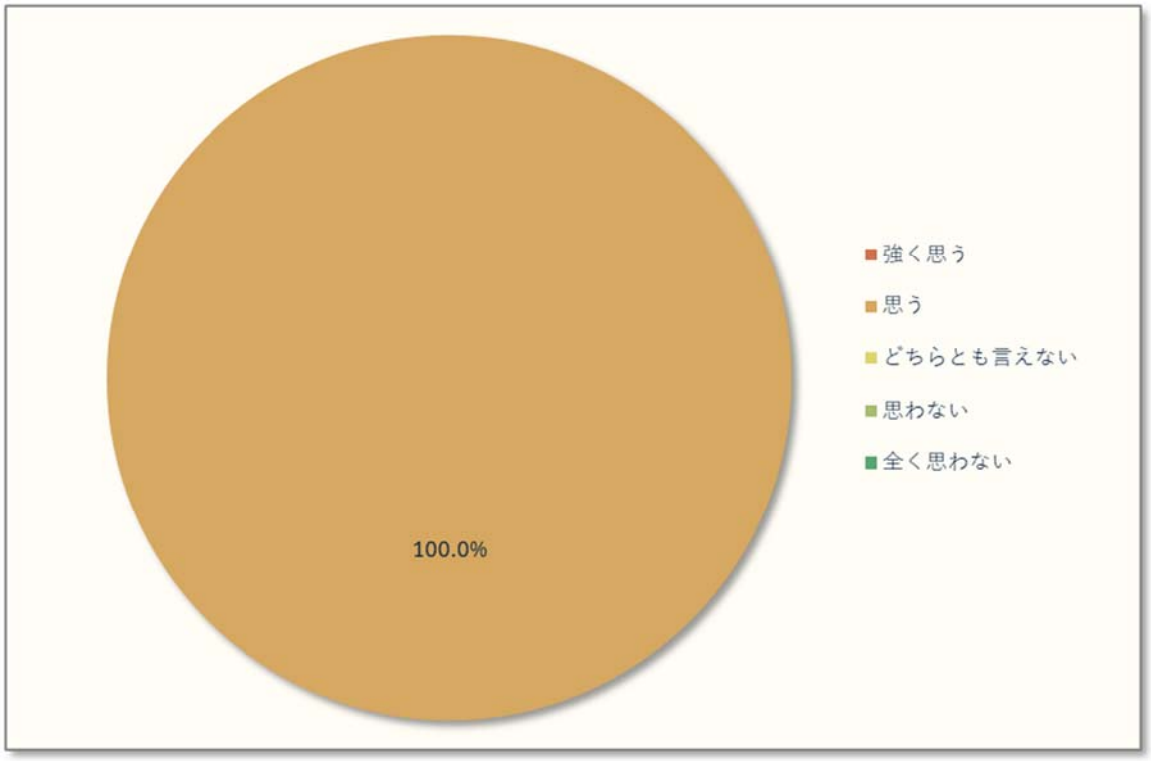
6. 建築デザイン専攻では、住宅・建築に対して機能的、合理的に考え、更に美的センスを生かすことができる。



7. 住宅・建築を居住者や利用者の立場から考え、デザインすることができる。

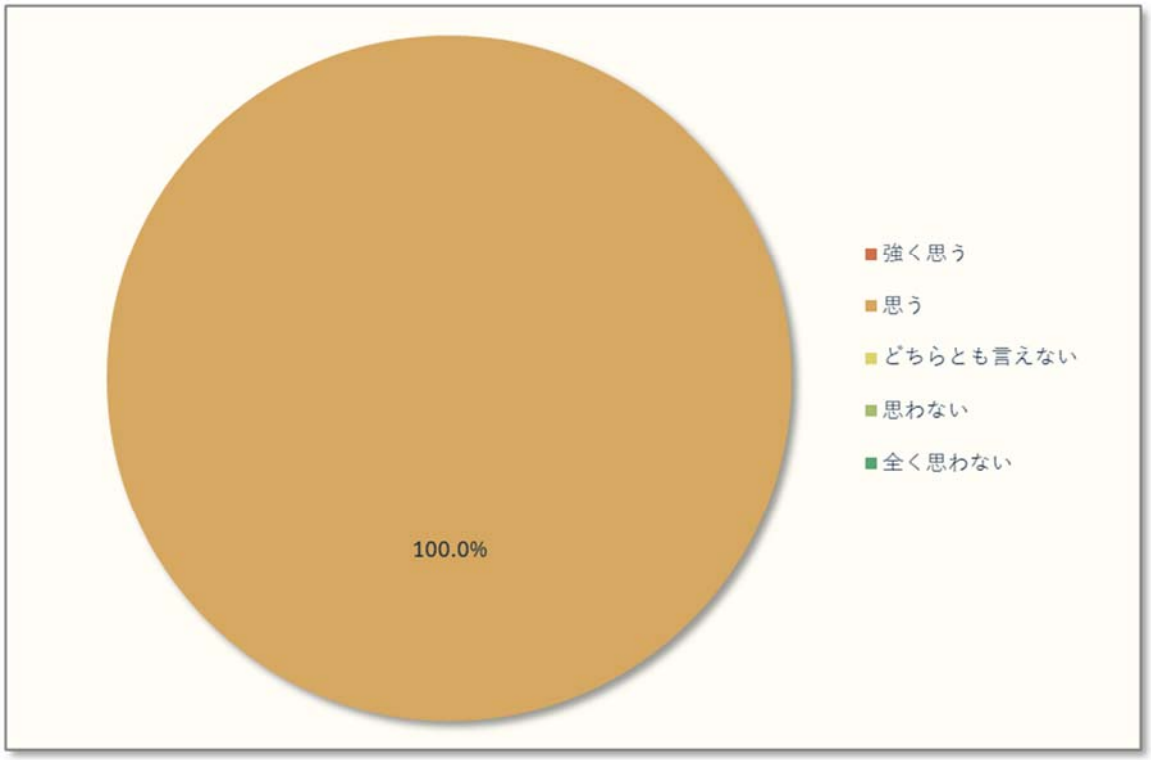


8. 建築デザイン専攻では、設計能力、コミュニケーション能力を高め、専門の立場から社会的発言ができる。

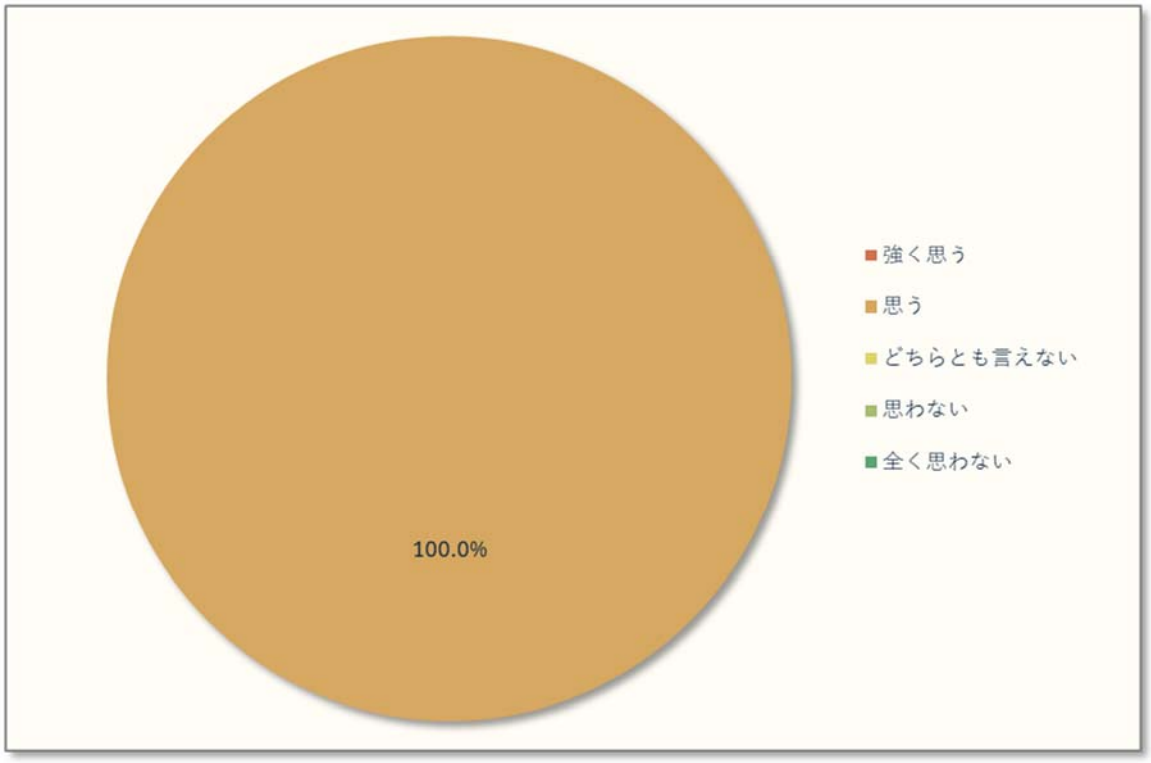


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

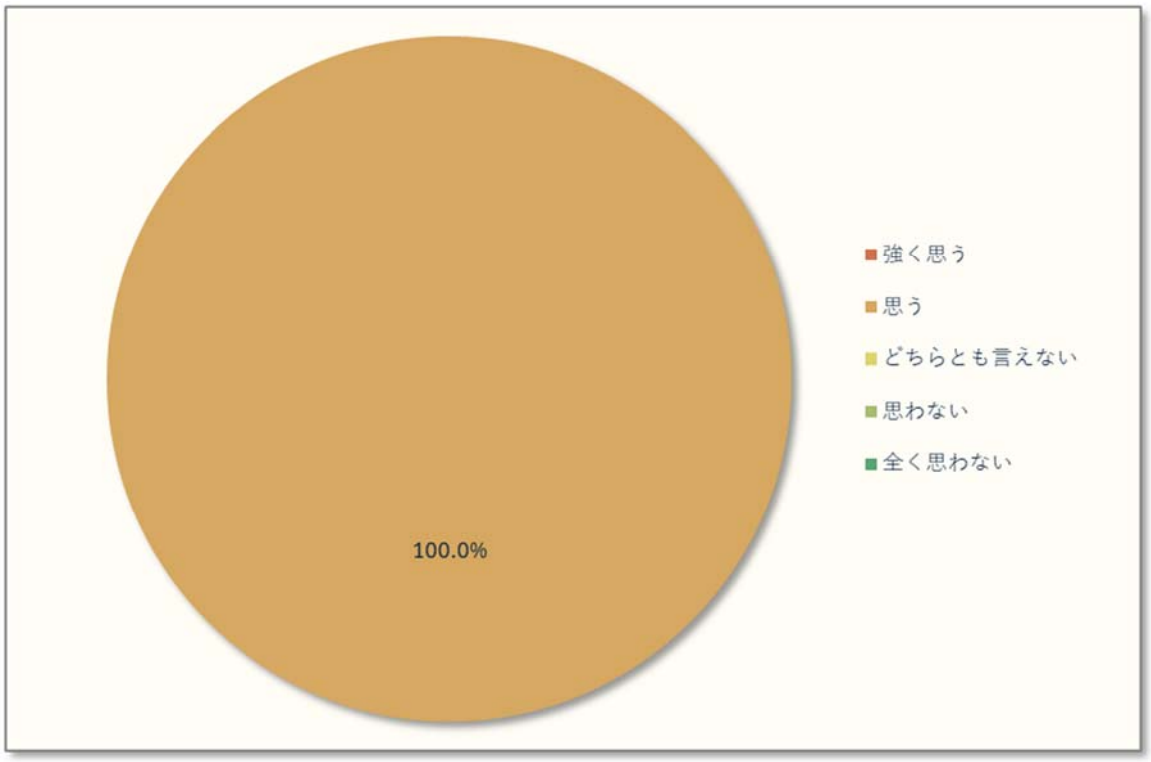
9.　人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



10. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

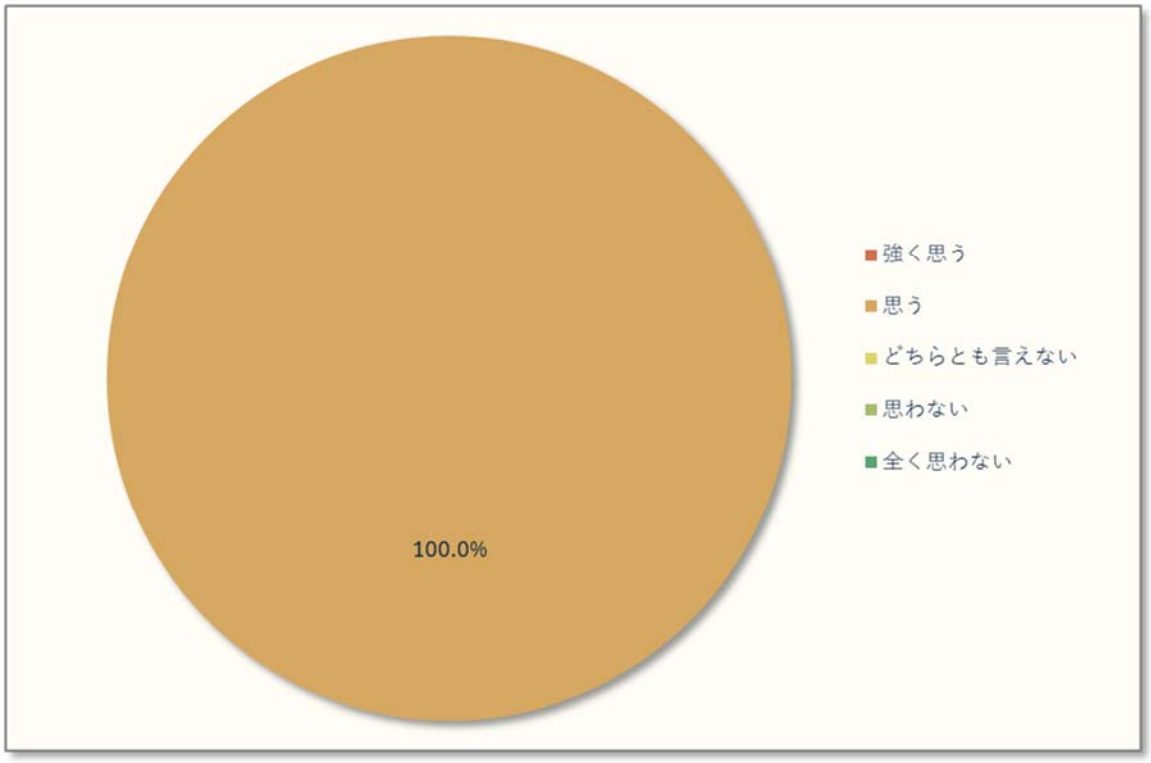


11. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

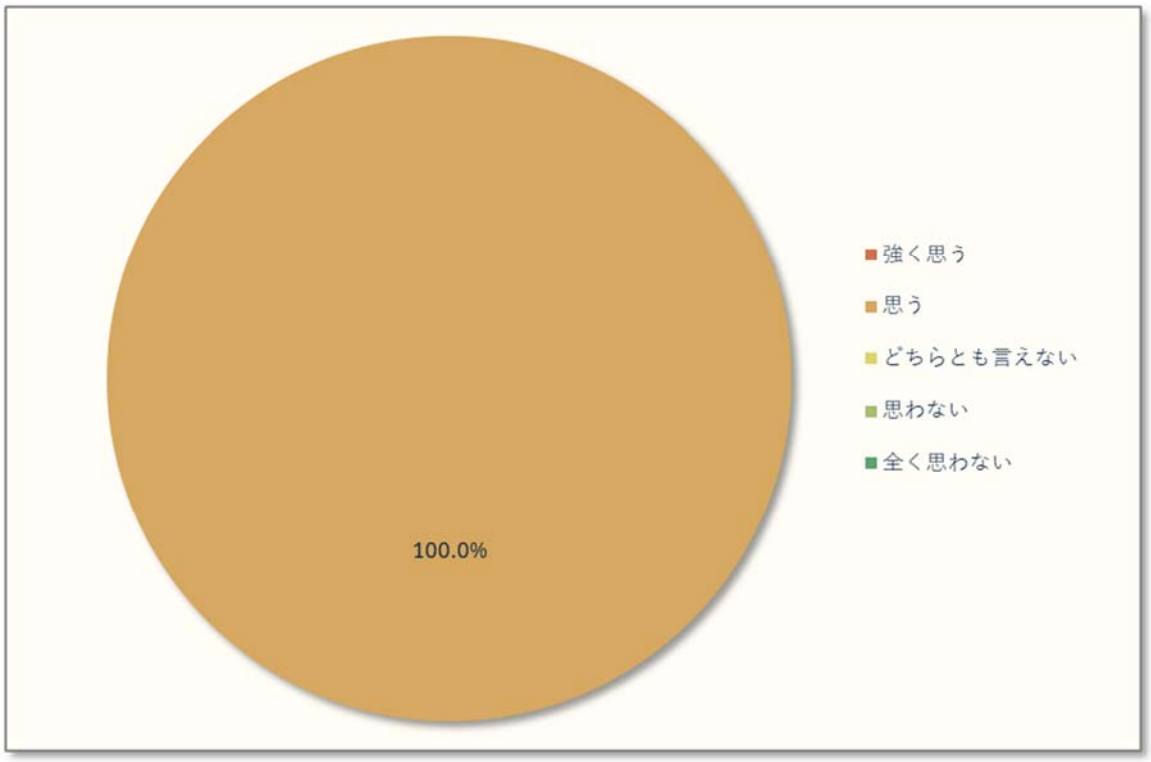


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

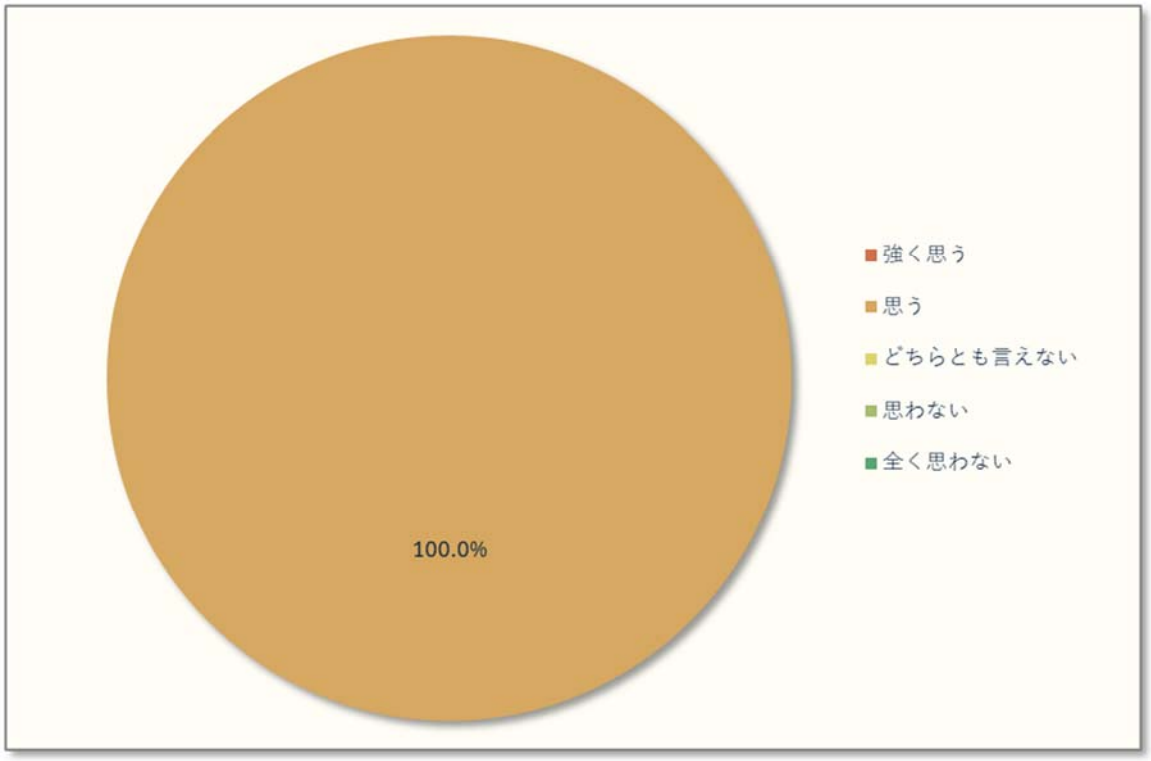
12. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



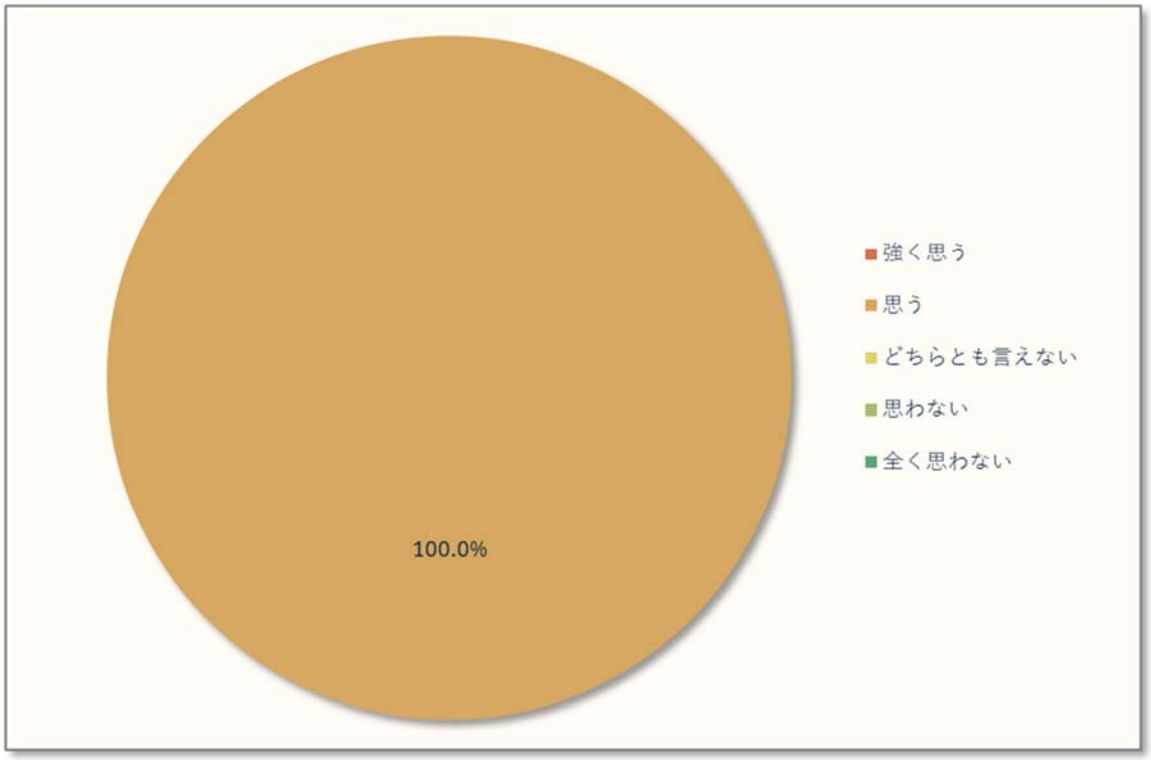
13. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



14. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

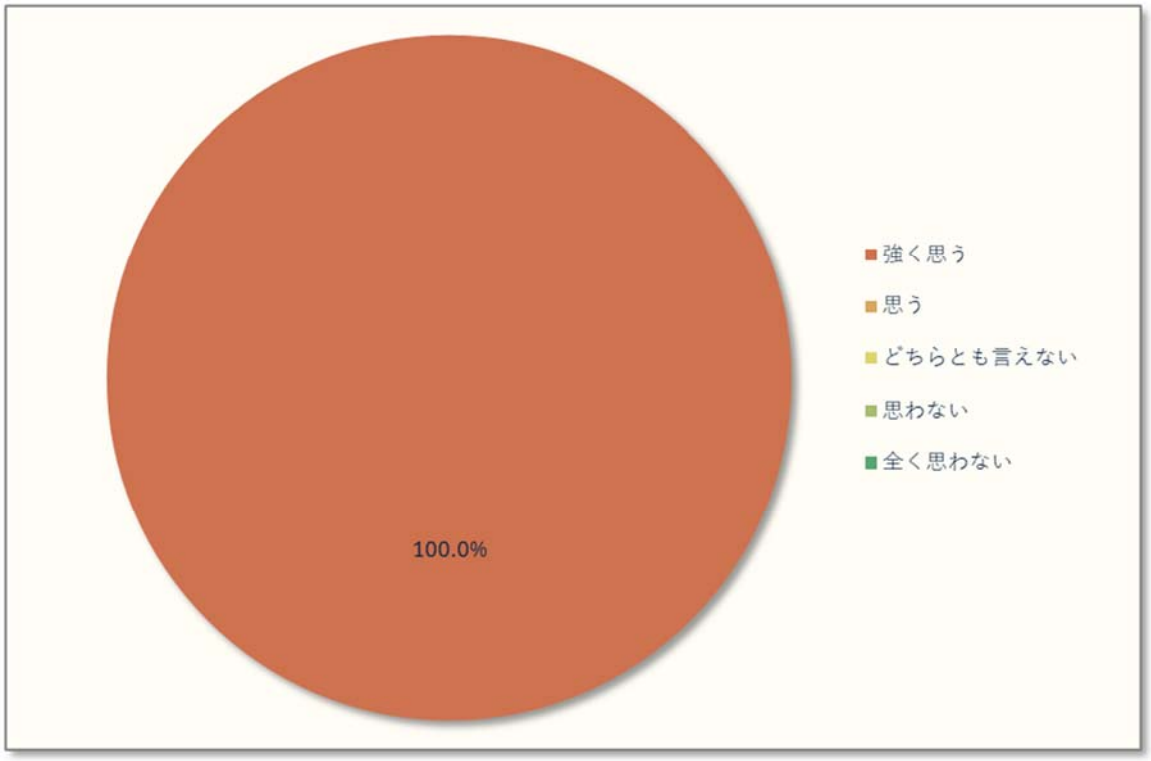


15. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

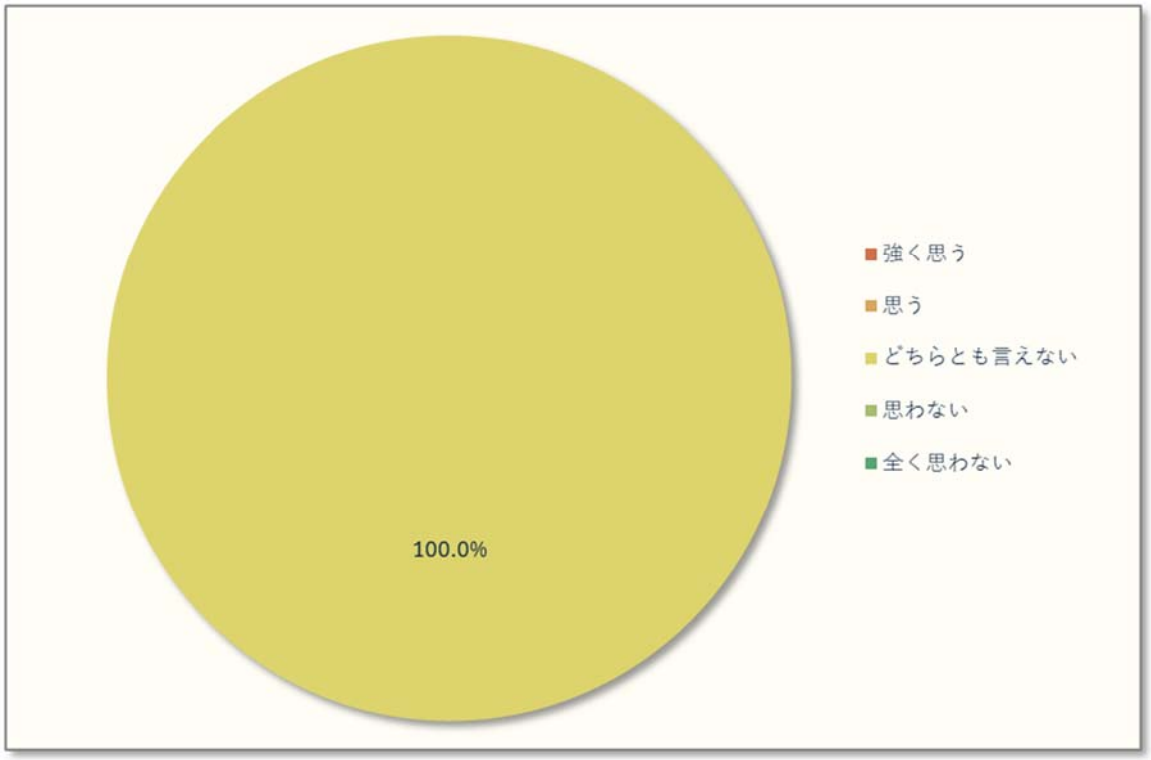


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

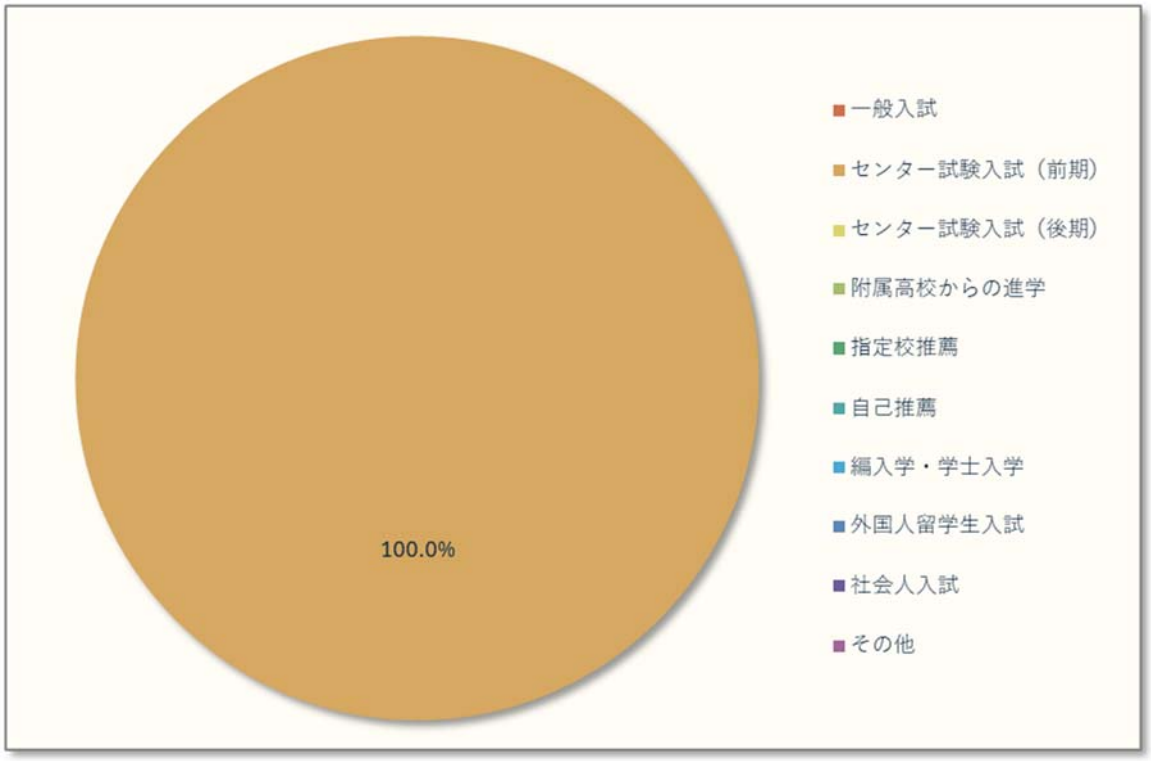
16. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



17. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



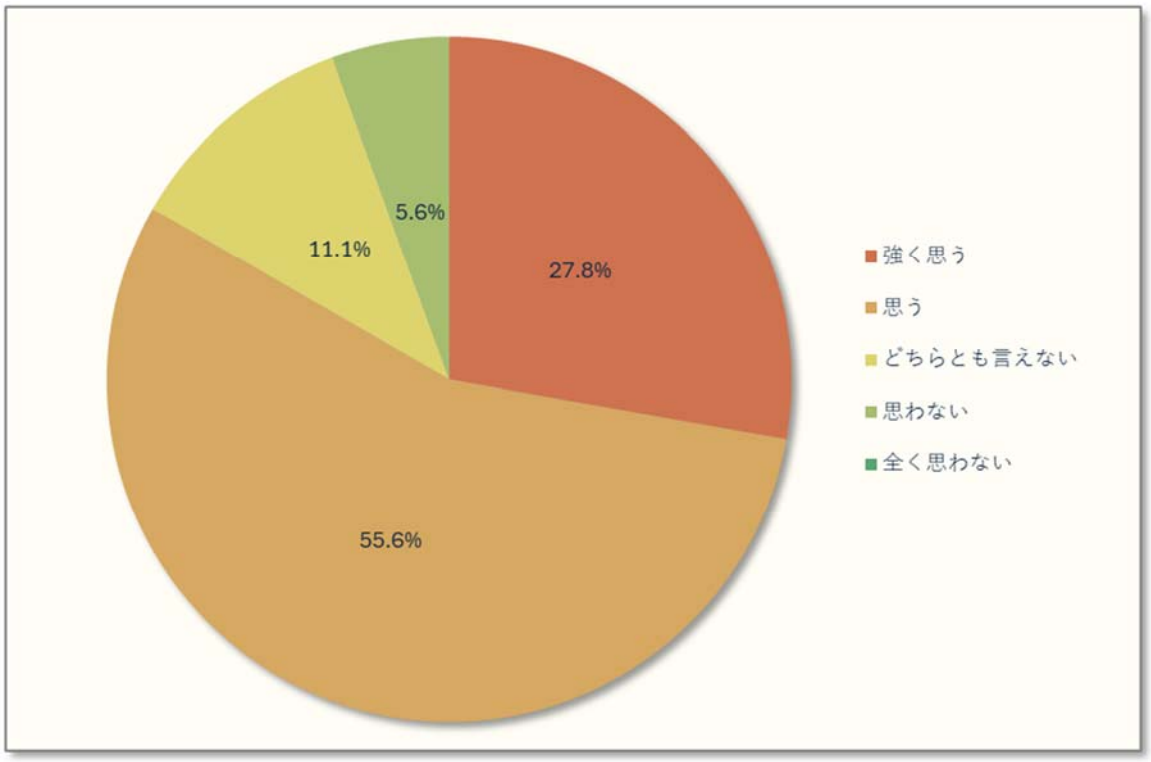
18. あなたが入学した試験形態を教えてください。



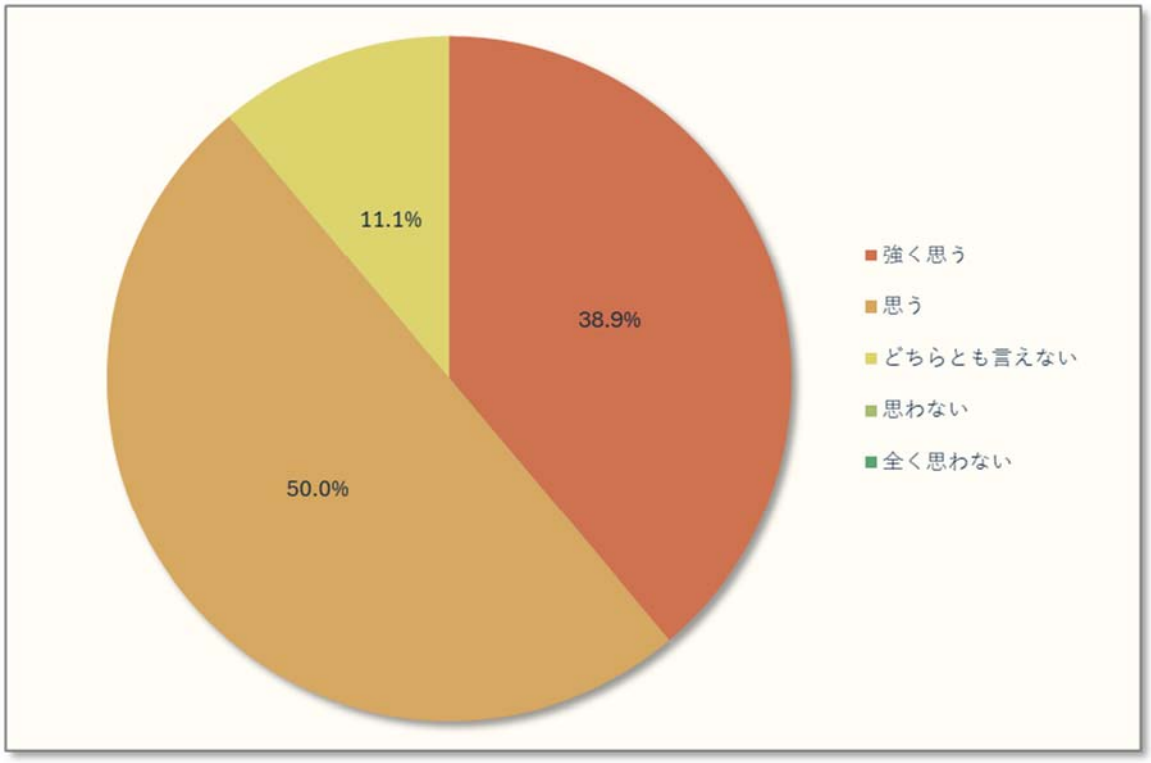
被服学科

被服学科の学生として以下のことが身についたと思いますか？[被服学科DP]

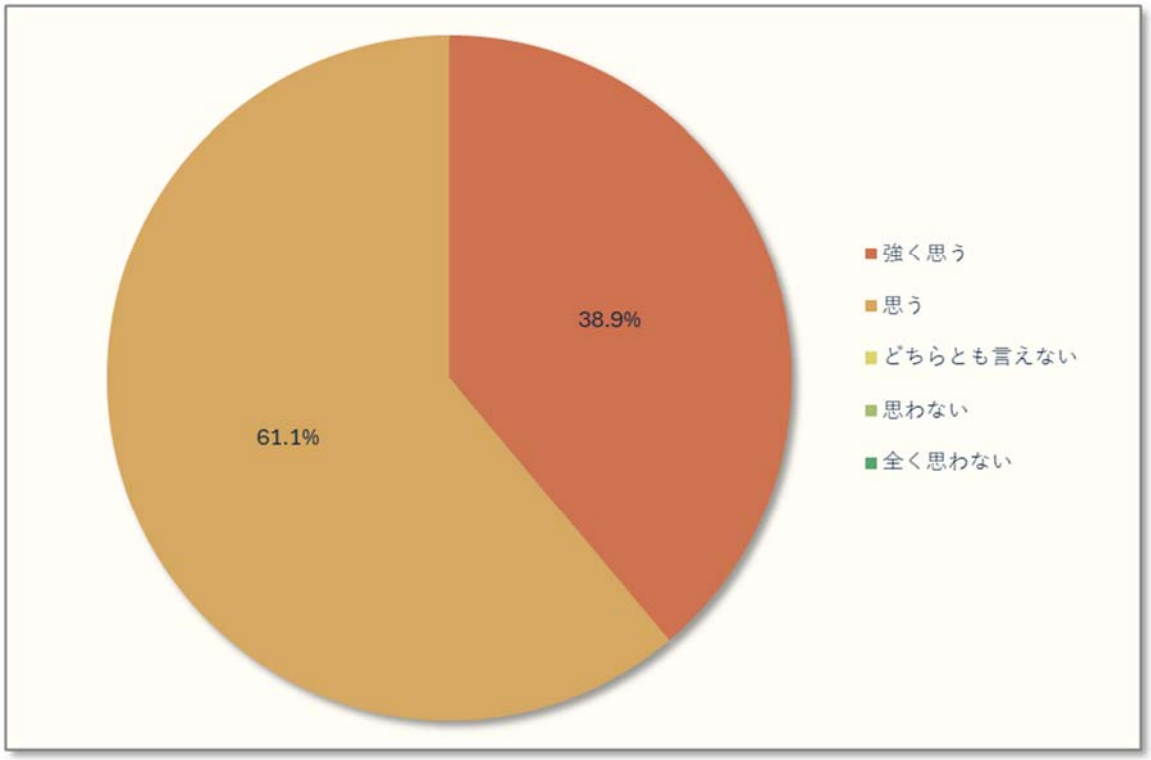
1. 被服に関する科学的専門知識を修得し、幅広い専門領域から人間生活に必要な被服学の本質を学び、基礎から応用に至る知識を修得する。



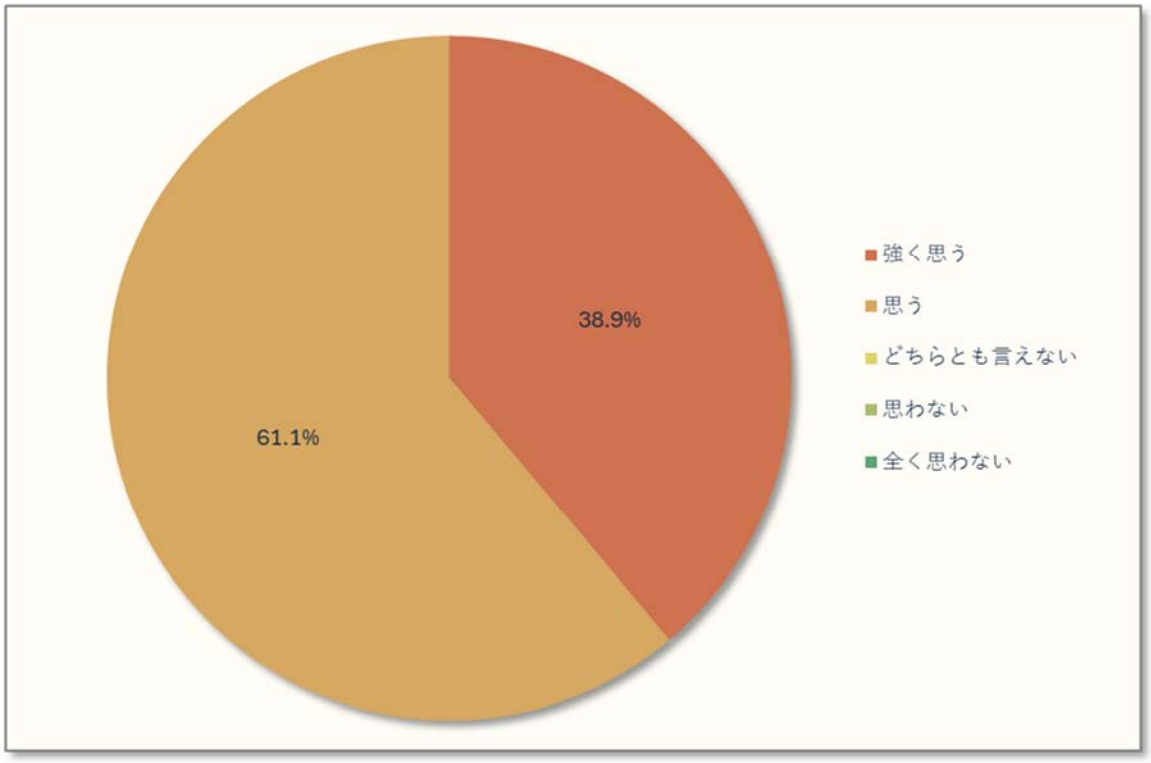
2. 学修した総合的な知識を基礎に、様々な身体条件の人々や生活環境に対応する、快適な衣生活のありかたを考えることができる。



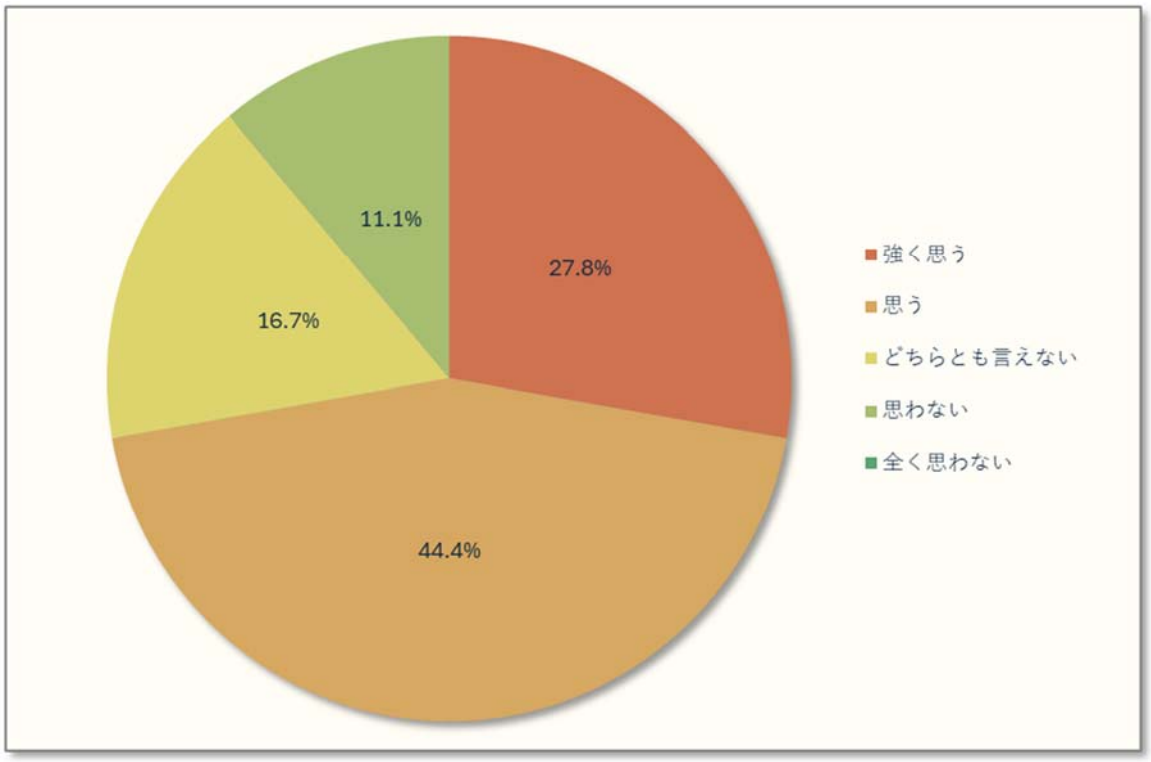
3. 人間、社会、自然、環境について深い関心や、被服を通していろいろな人の生活を快適に豊かにしたいという意志を持ち、その実現に向かって努力する。



4. 多角的な視点から被服を理解し、その知識を生活の質（QOL)の向上に活用できる。

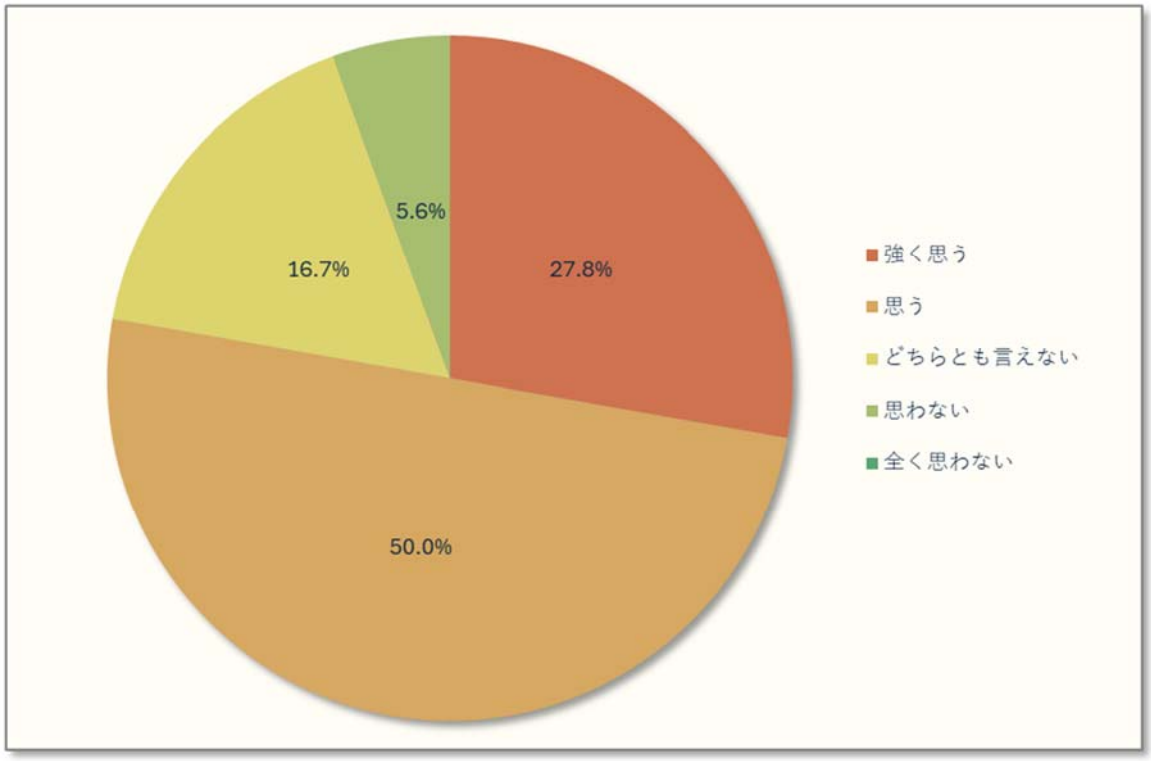


5.　被服の専門家として、生活分野や教育分野で活躍できる。

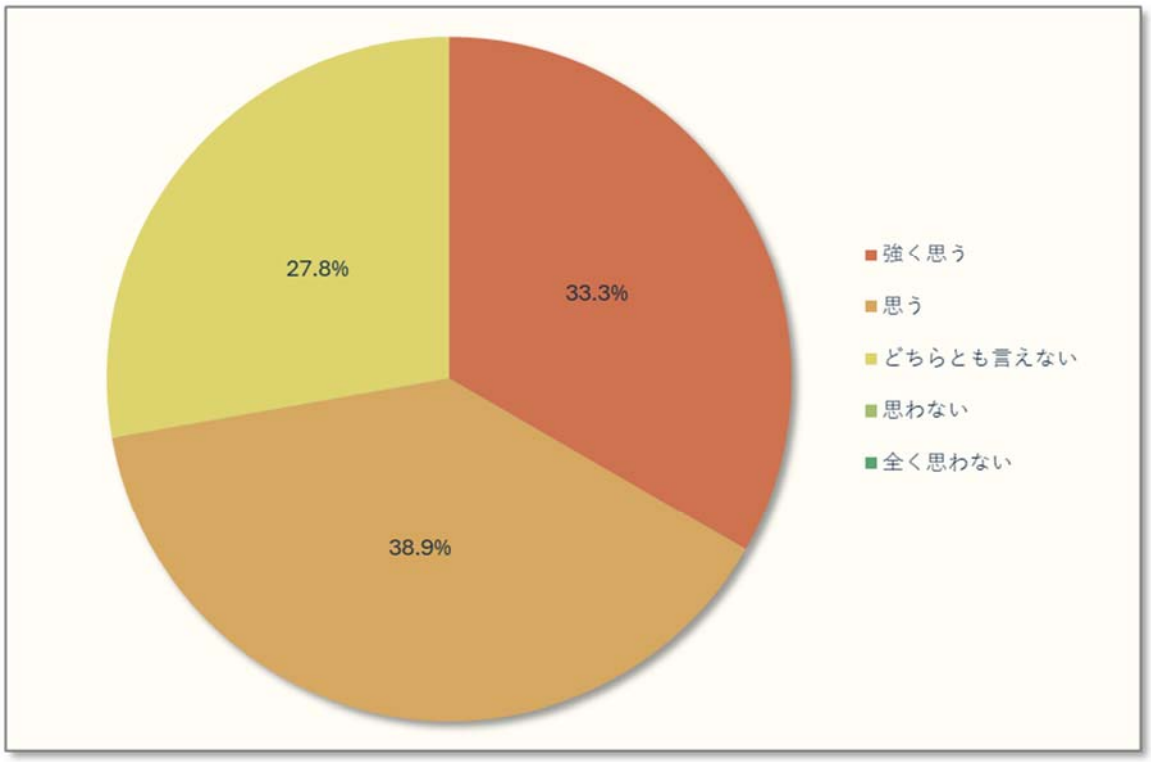


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？［家政学部DP］

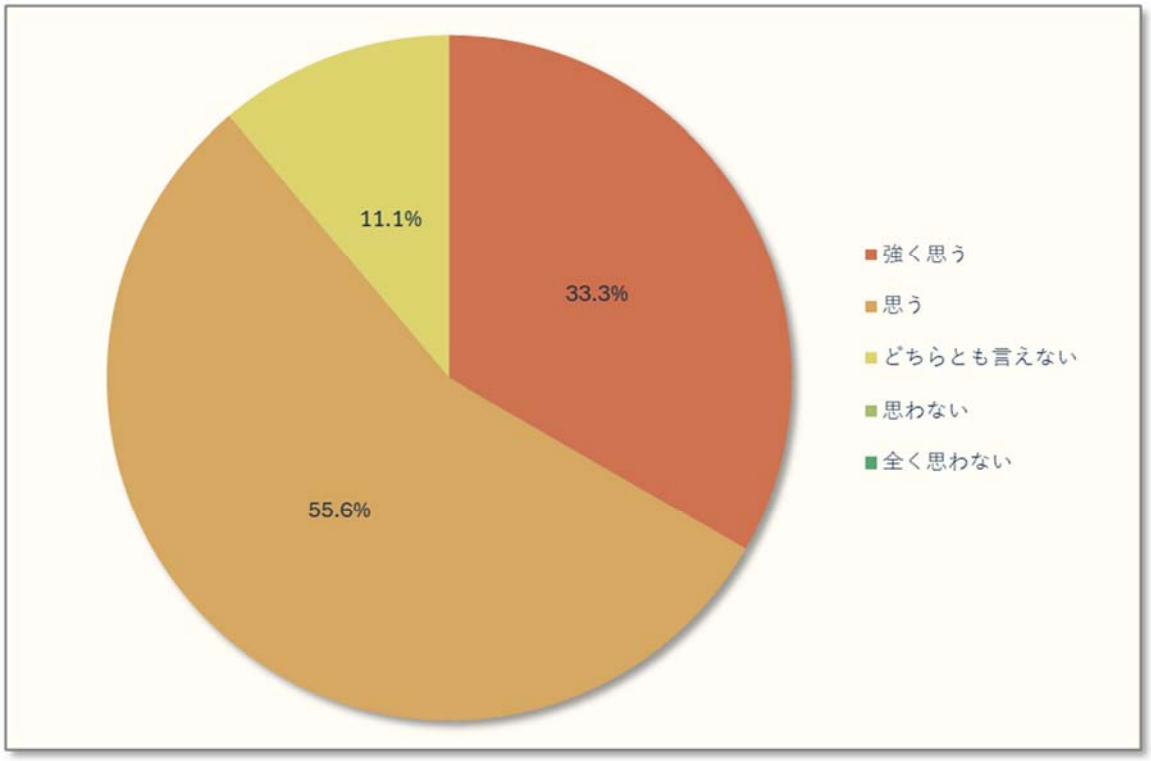
6.　人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



7. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

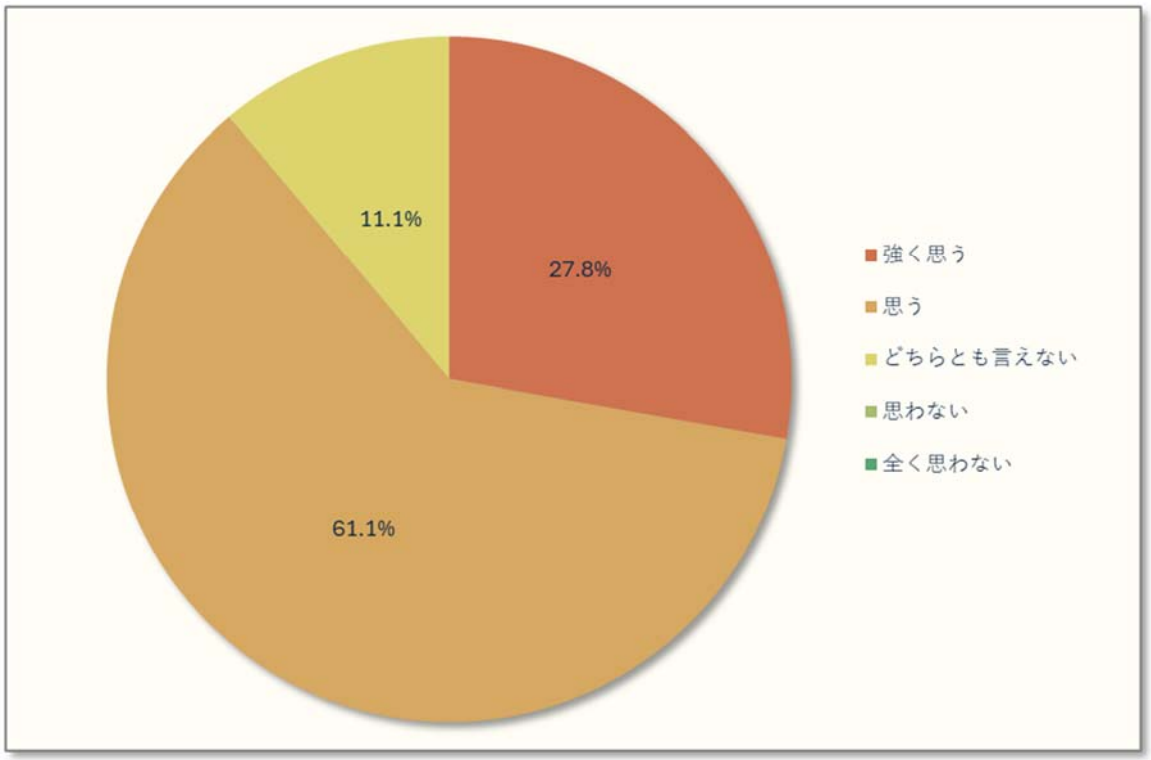


8. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

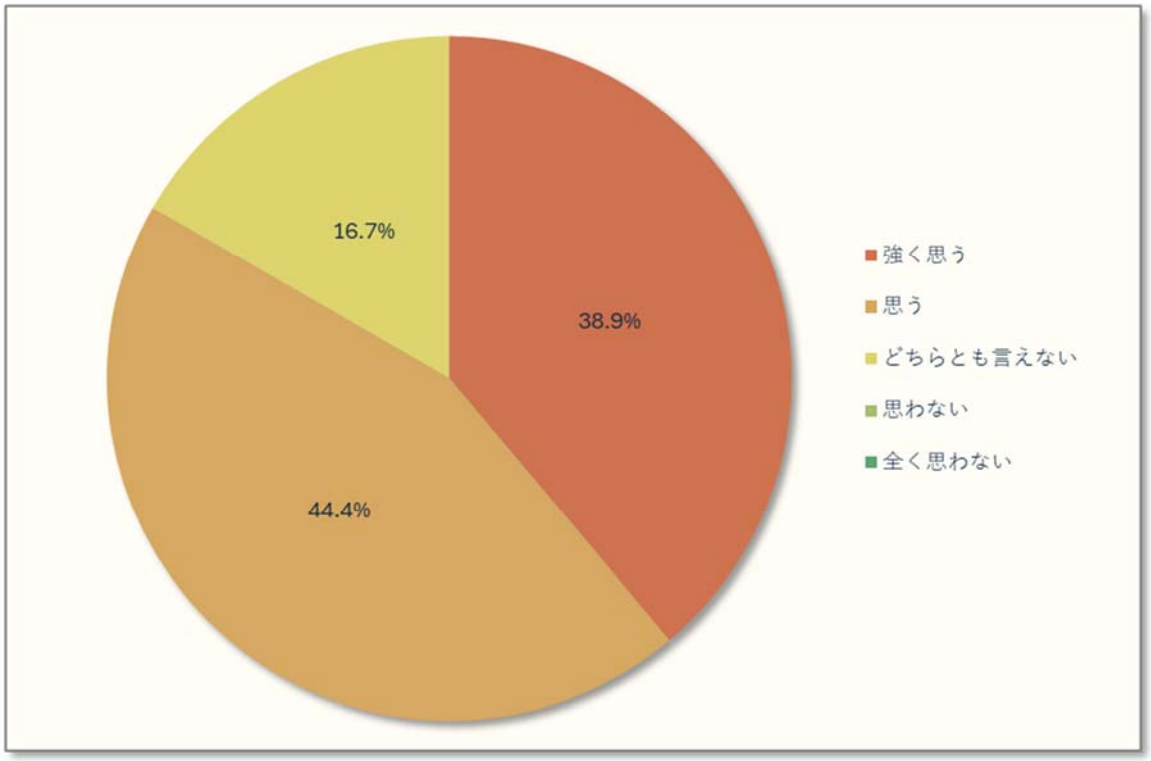


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

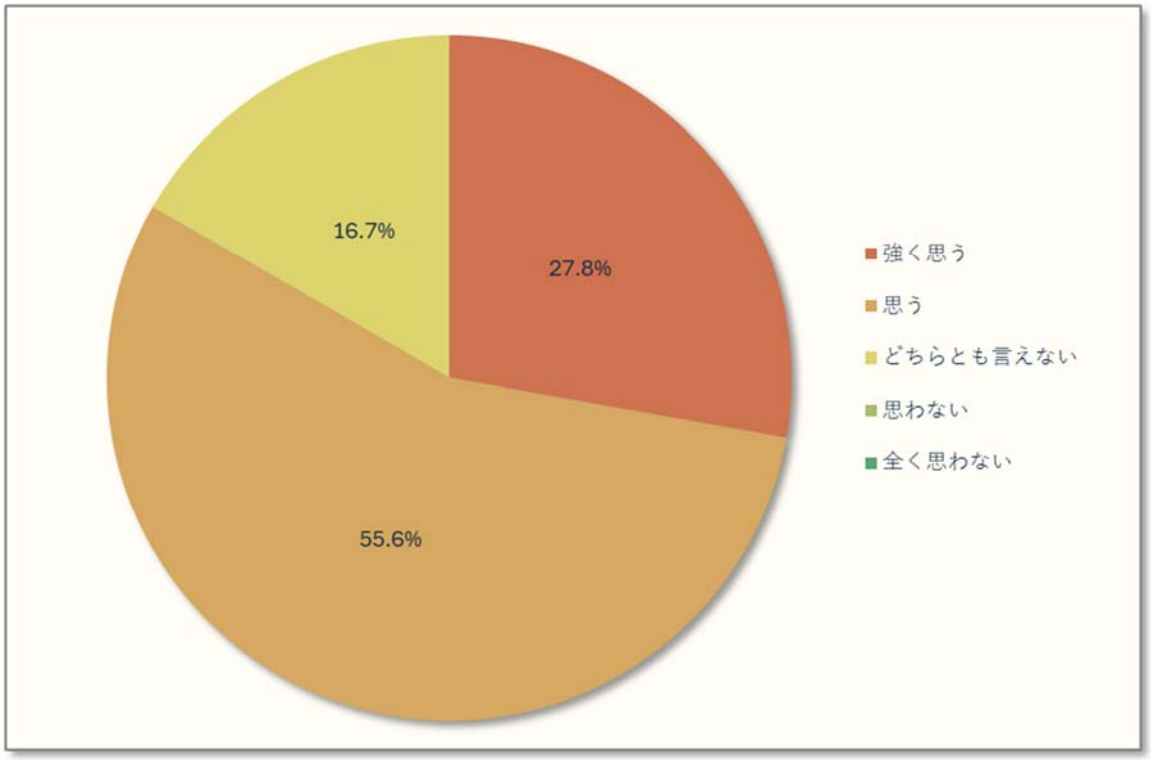
9. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



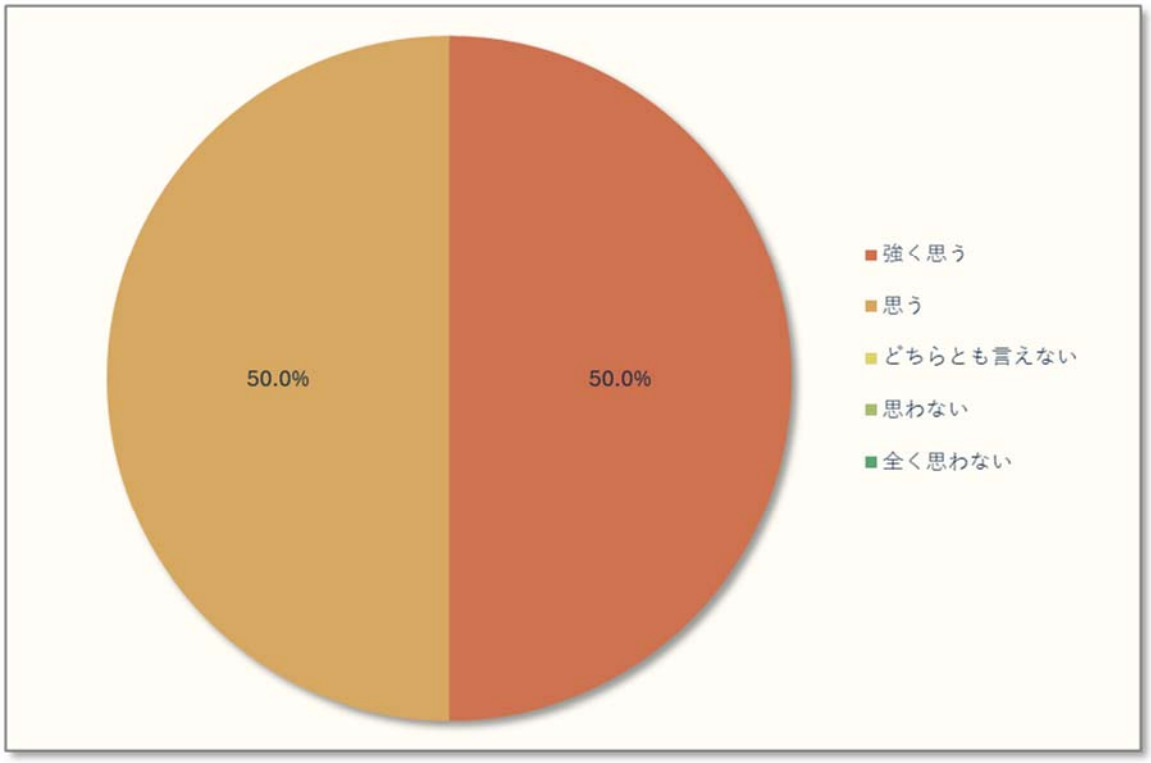
10. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



11. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

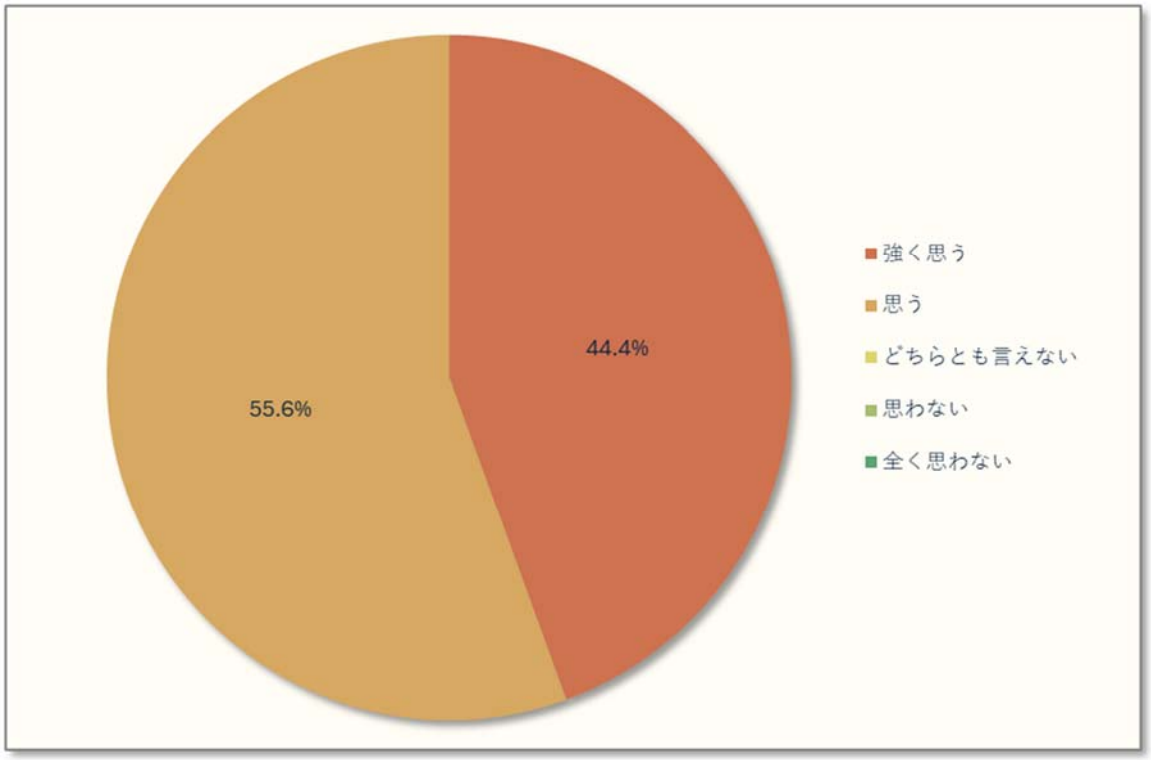


12. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

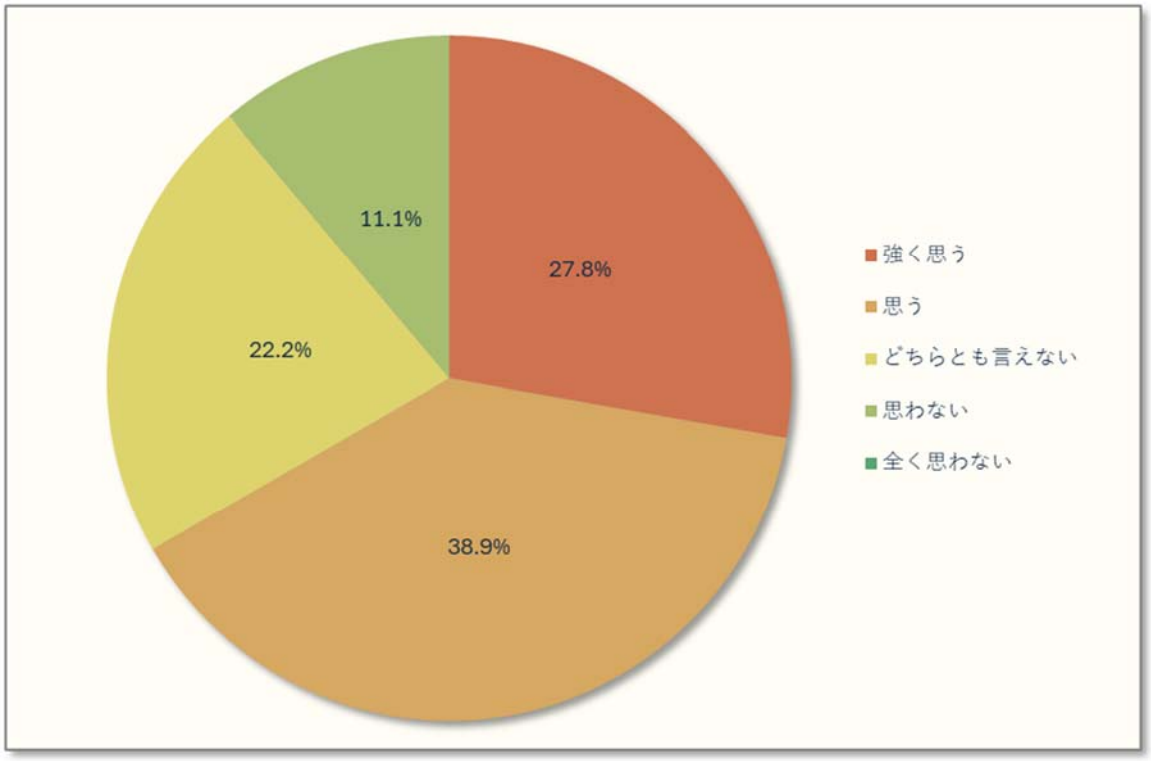


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

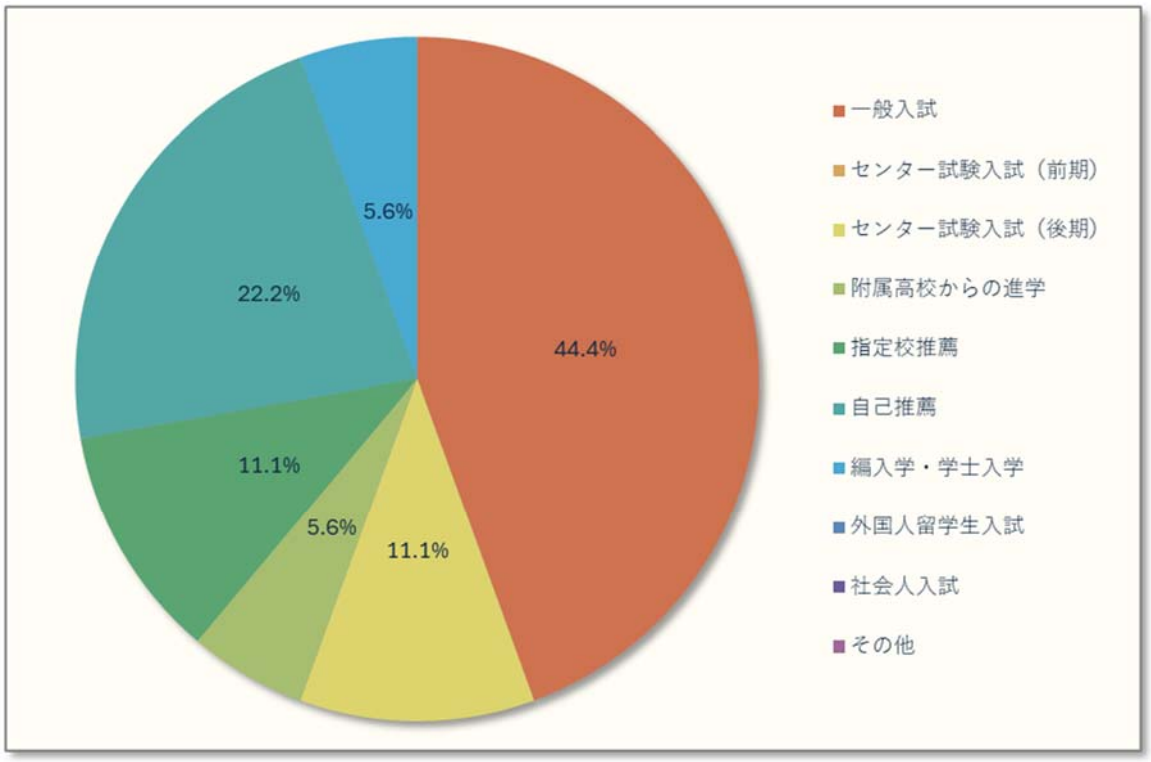
13. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



14. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



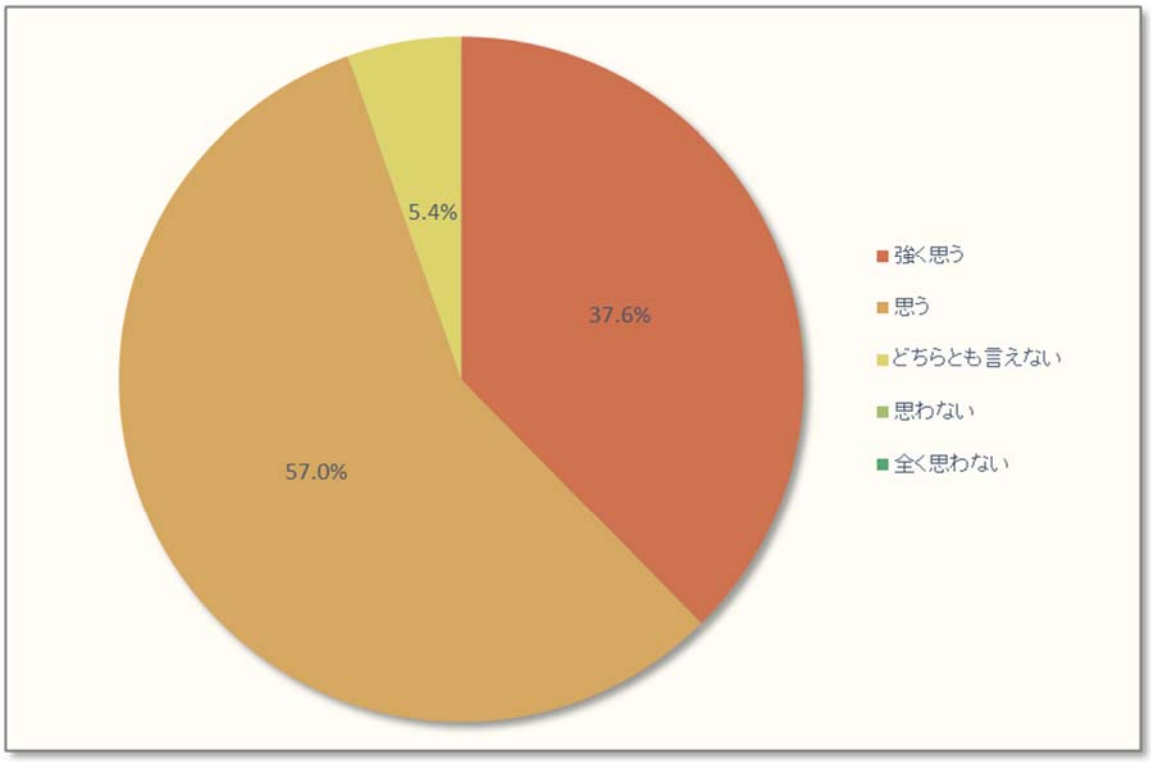
15. あなたが入学した試験形態を教えてください。



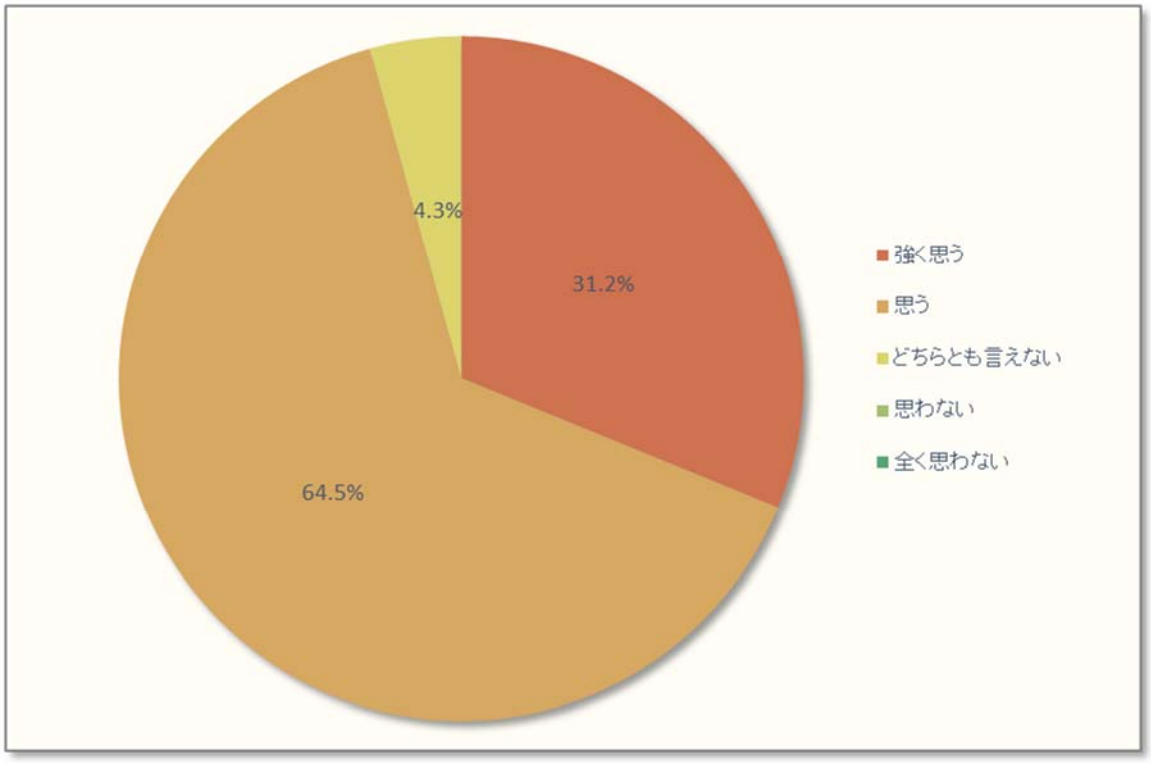
家政経済学科

家政経済学科の学生として以下のことが身についたと思いますか？[家政経済学科DP]

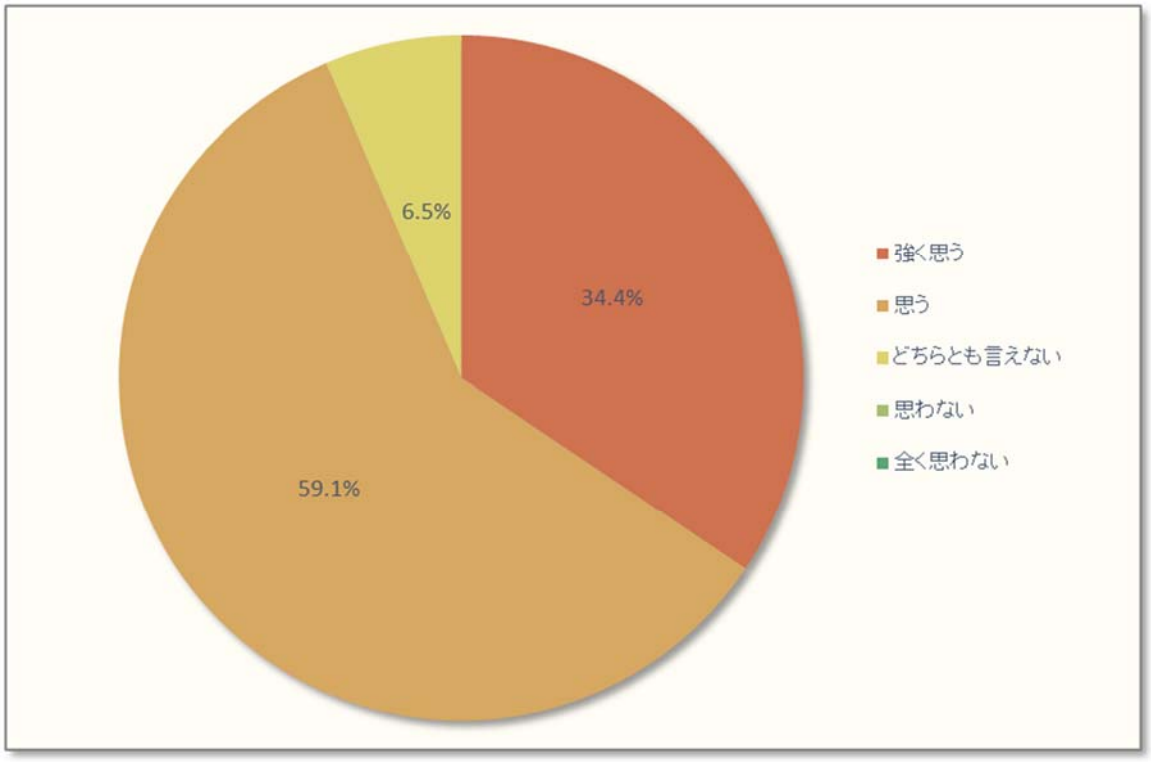
1. 経済学、家政学及びその他関連領域に関する基礎知識を身に付け、経済と生活の互いの関わりを広い視野で理解している。



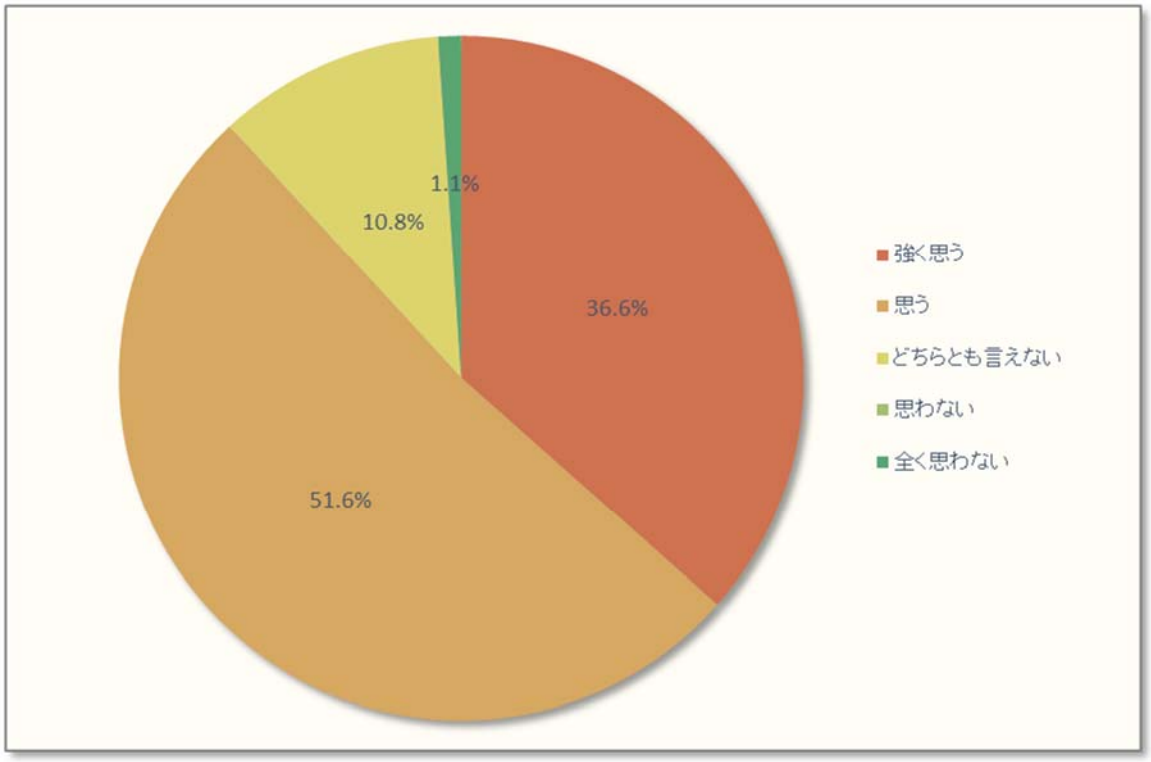
2. 選択した専門分野の知識を身に付け、経済問題や生活問題の分析に活用できる。



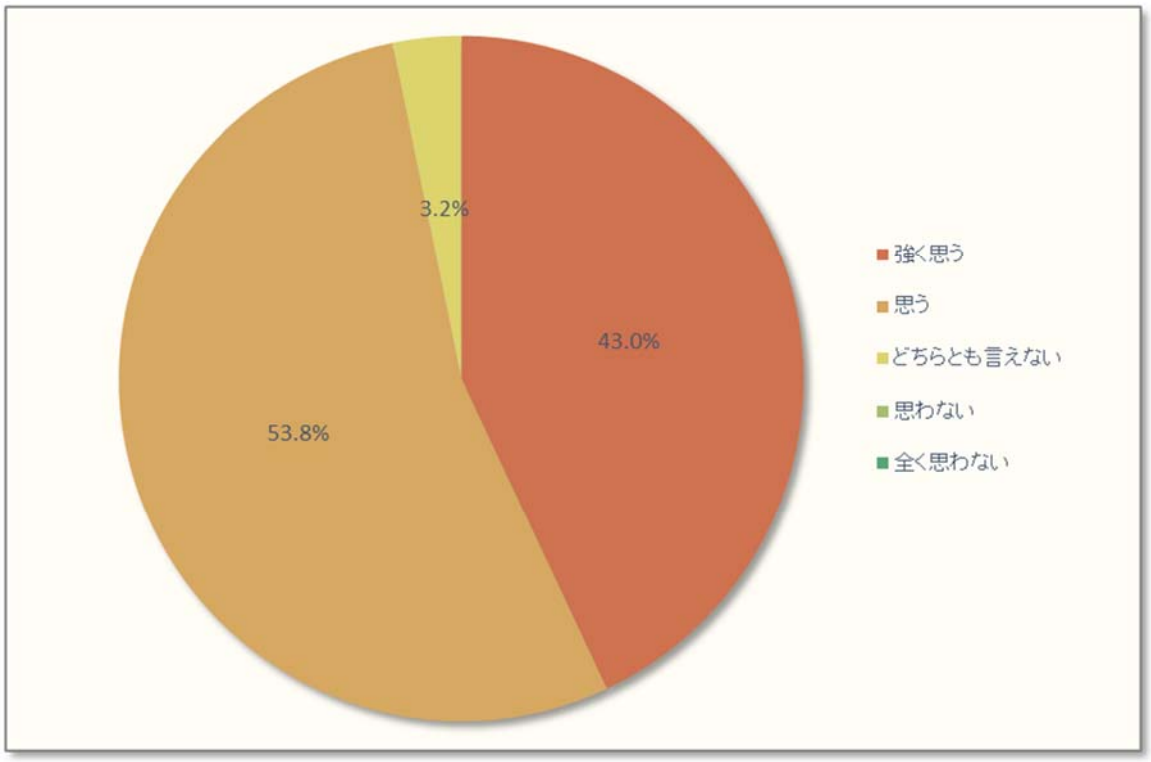
3. 経済問題や生活問題に関わる課題について幅広い視野を持って論理的に考察し、その解決の道筋を自らの意見としてまとめることができる。



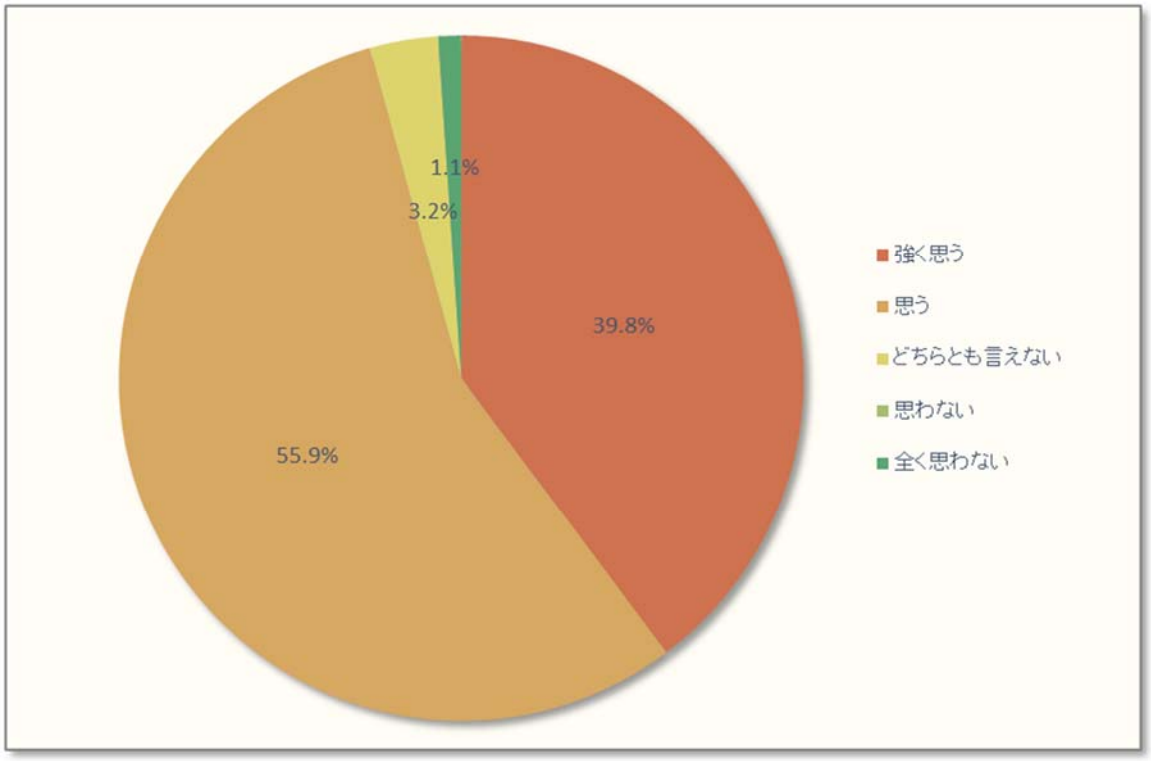
4. 身近な生活問題からグローバルな問題まで、経済と生活の関わりに関心を持って考えることができる。



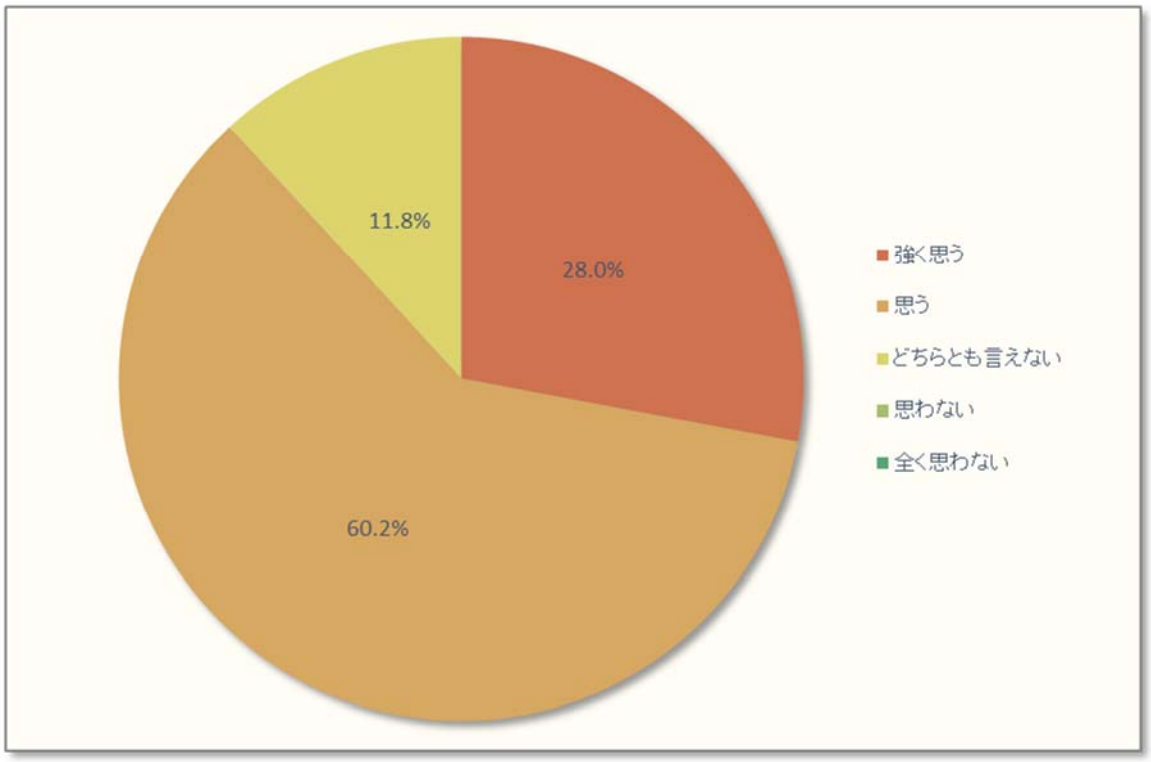
5. 自分の利益のみでなく社会や自然への影響を考えながら行動することができる。



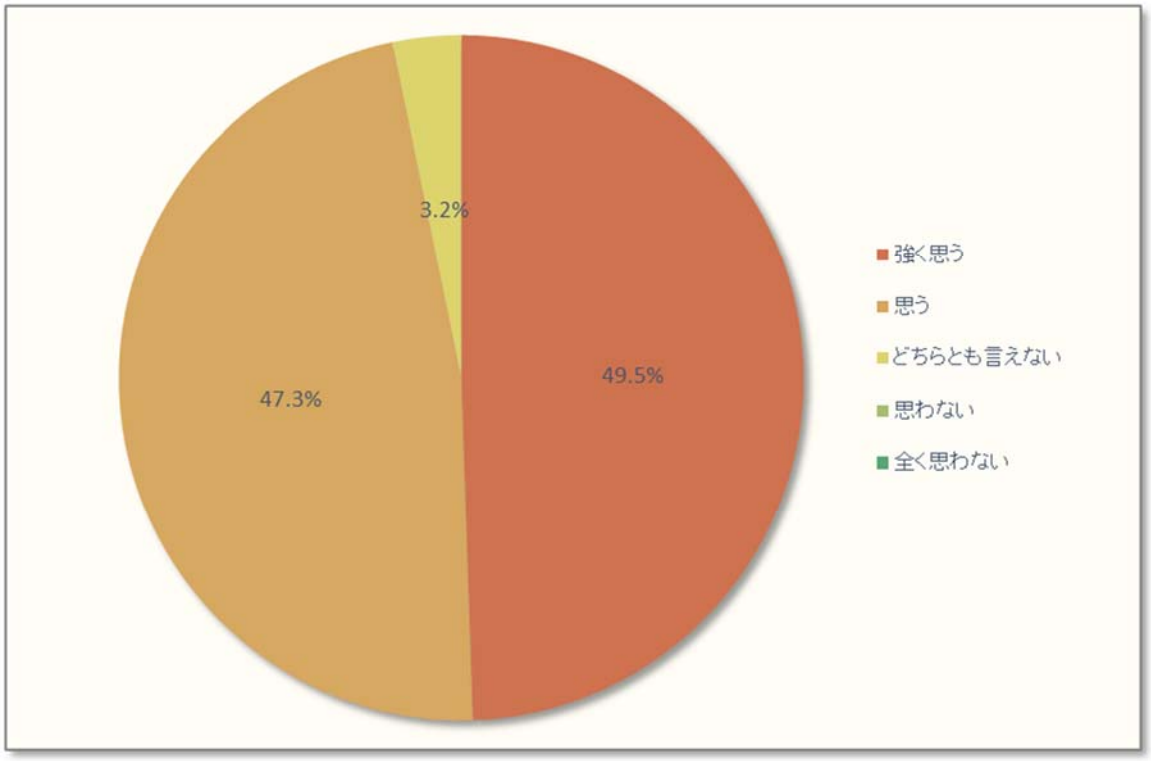
6. 課題解決に必要な文献・資料等を多様な手段を組み合わせて収集し、知識を整理することができる。



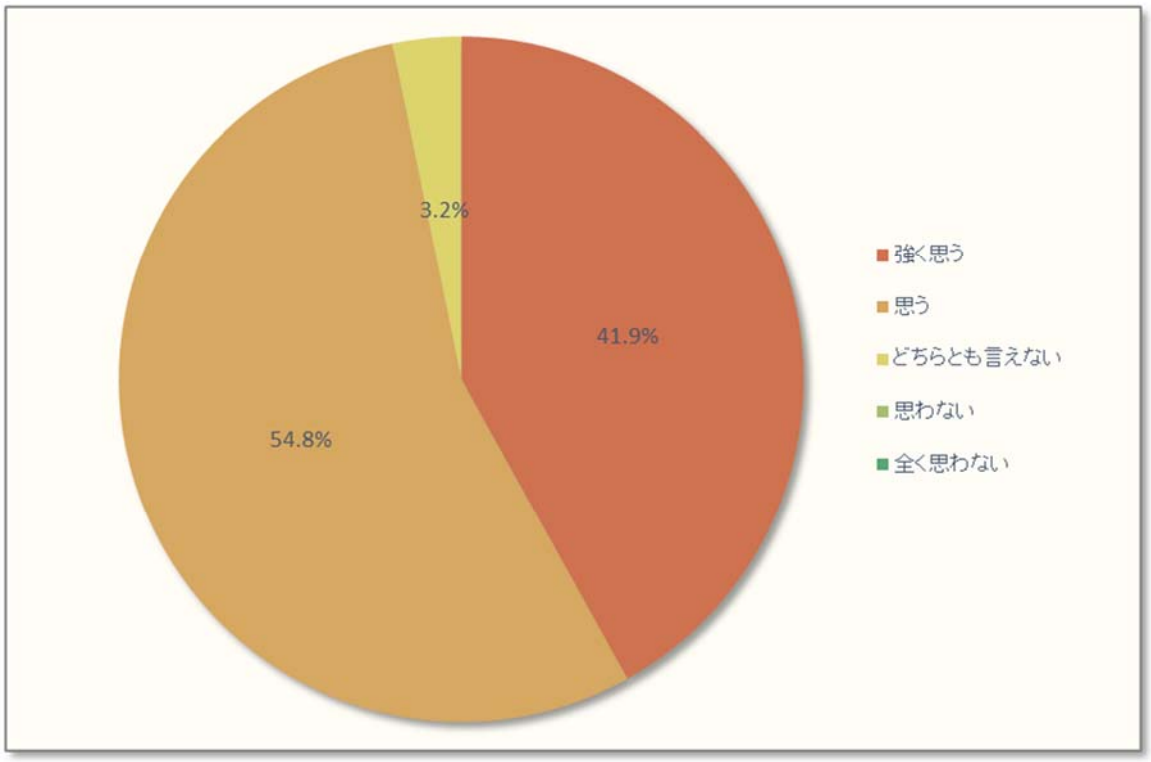
7. 様々な調査・分析手法を用いて、研究テーマについて分析することができる。



8. 自らの意見を述べ、討論し、仲間との議論の中で自分の考えを深めることができる。

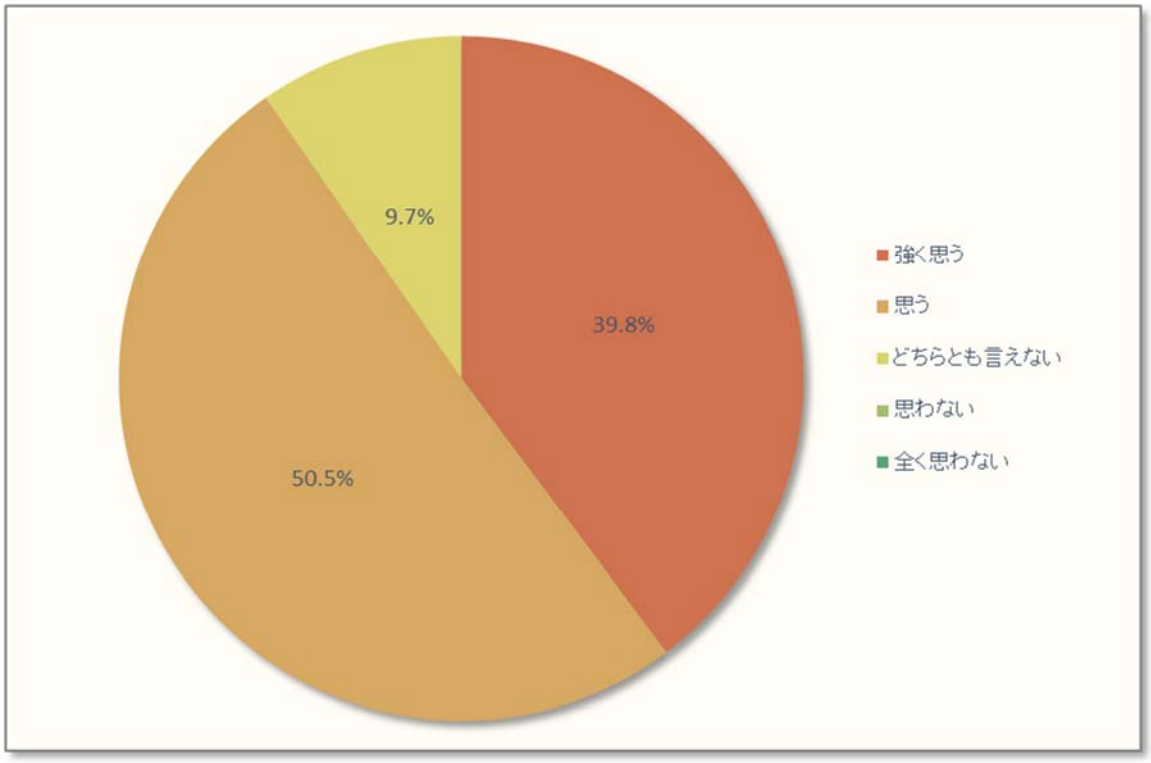


9. 分析した内容を踏まえ、自らの考えを論文・レポートとして表現することができる。

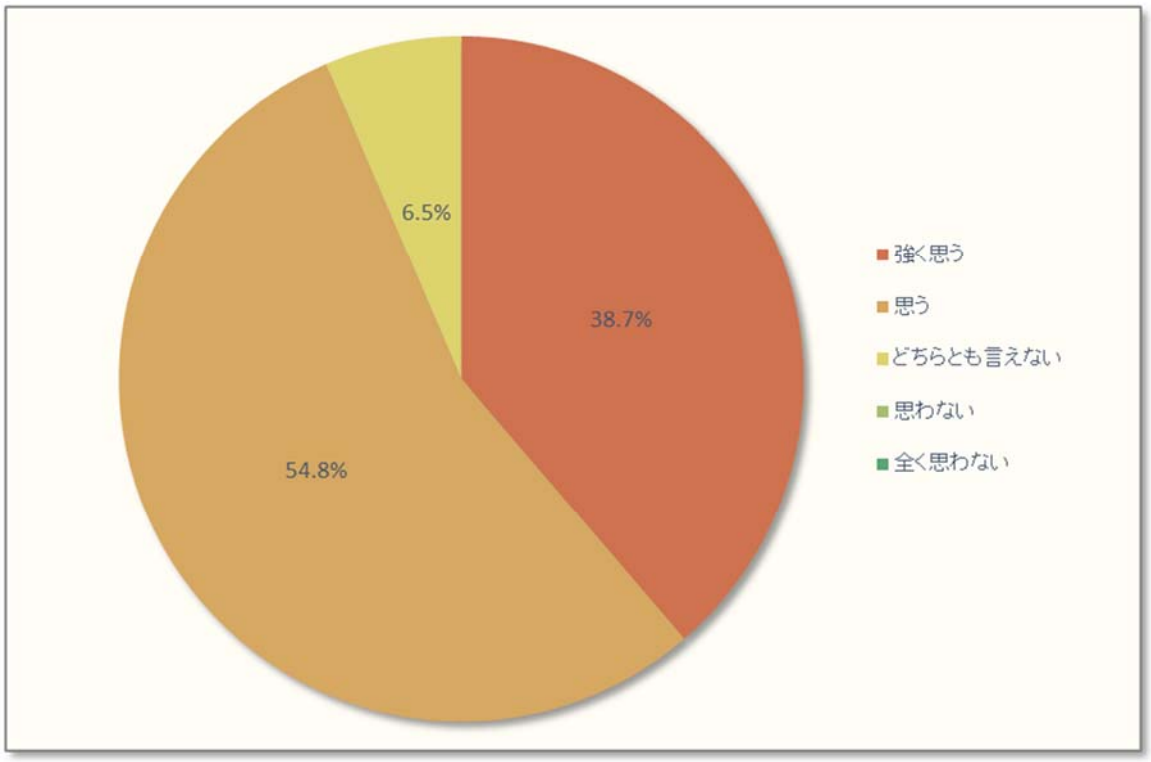


家政学部の学生として以下のことが身についたと思いますか？ ［家政学部DP］

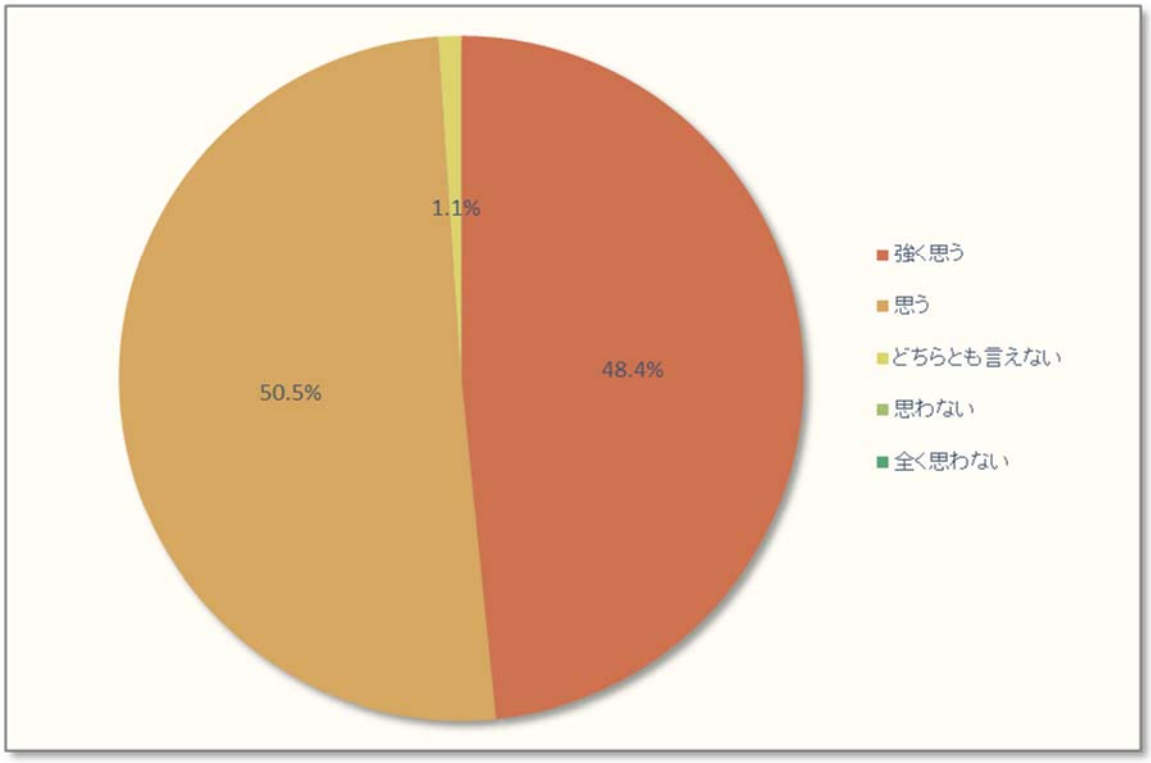
10. 人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。



11. 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。

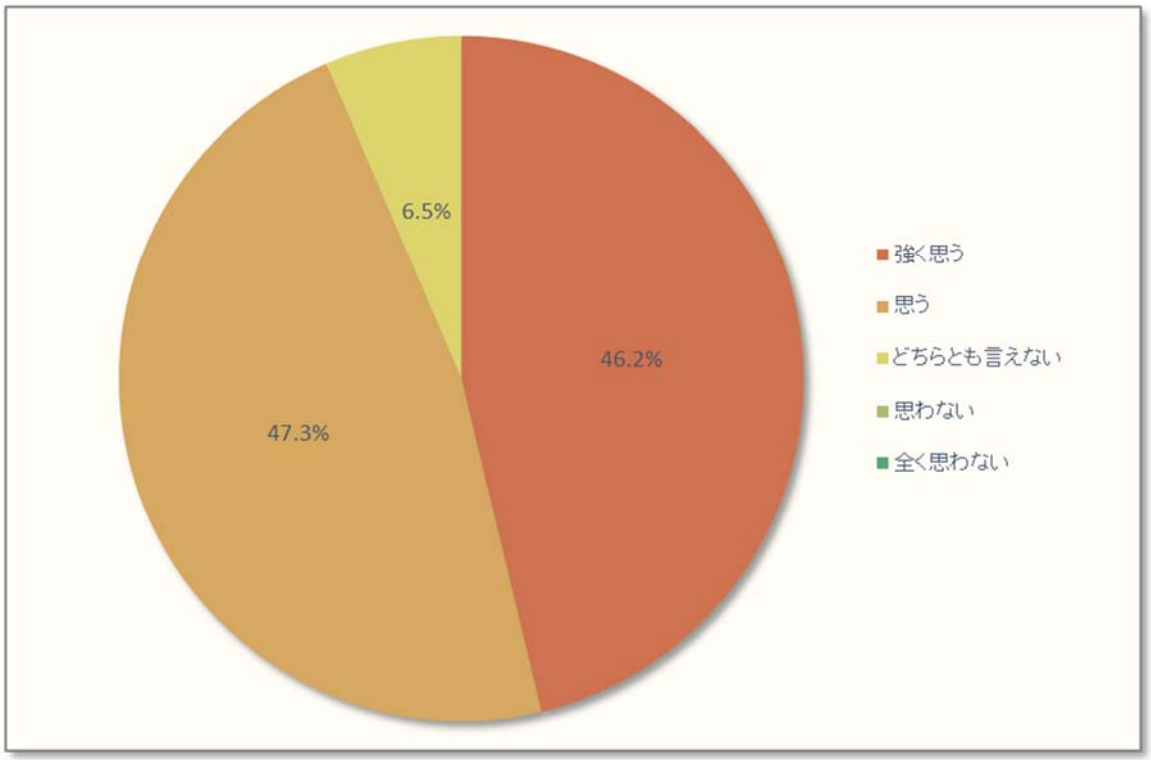


12. 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

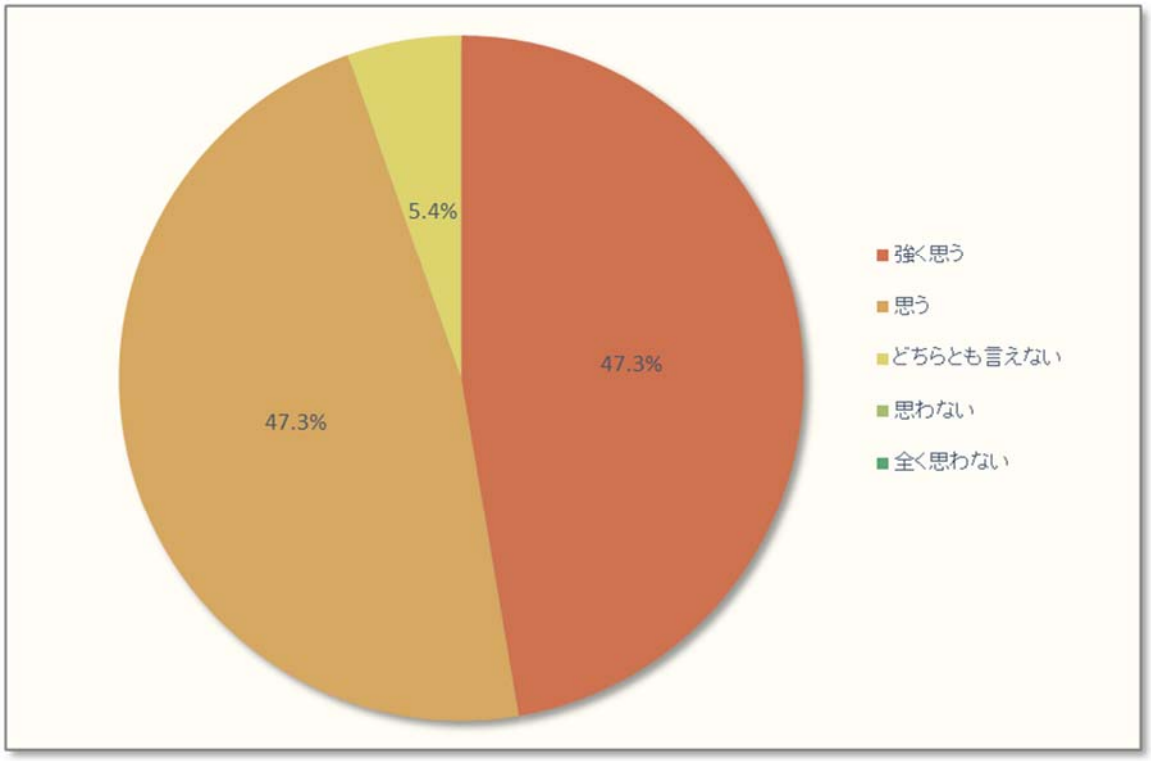


日本女子大学の学生として以下のことが身についたと思いますか？[大学DP]

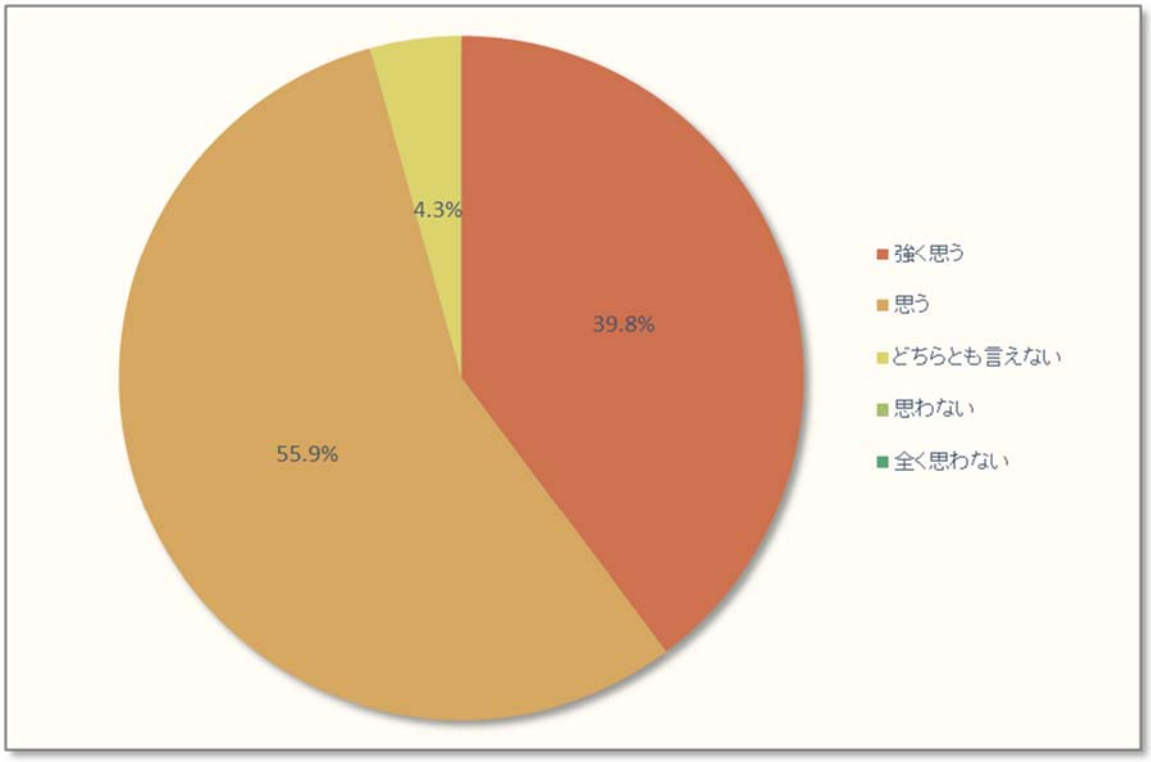
13. 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。



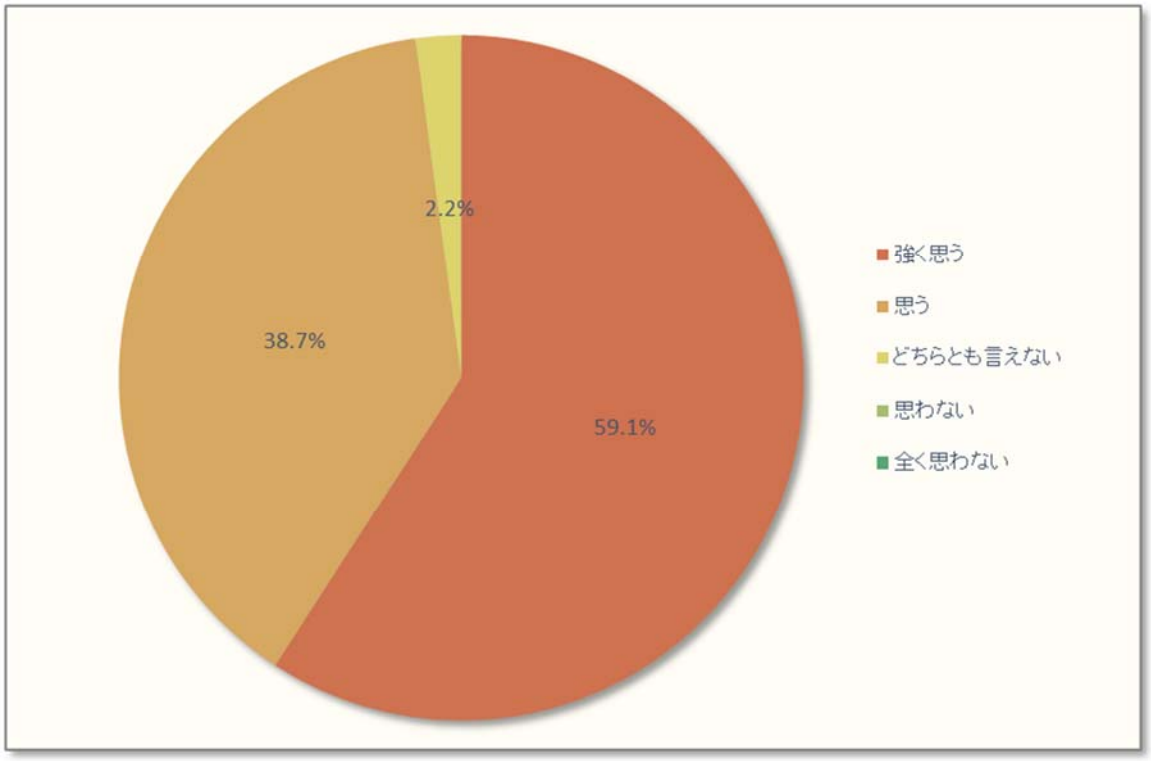
14. 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。



15. 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。

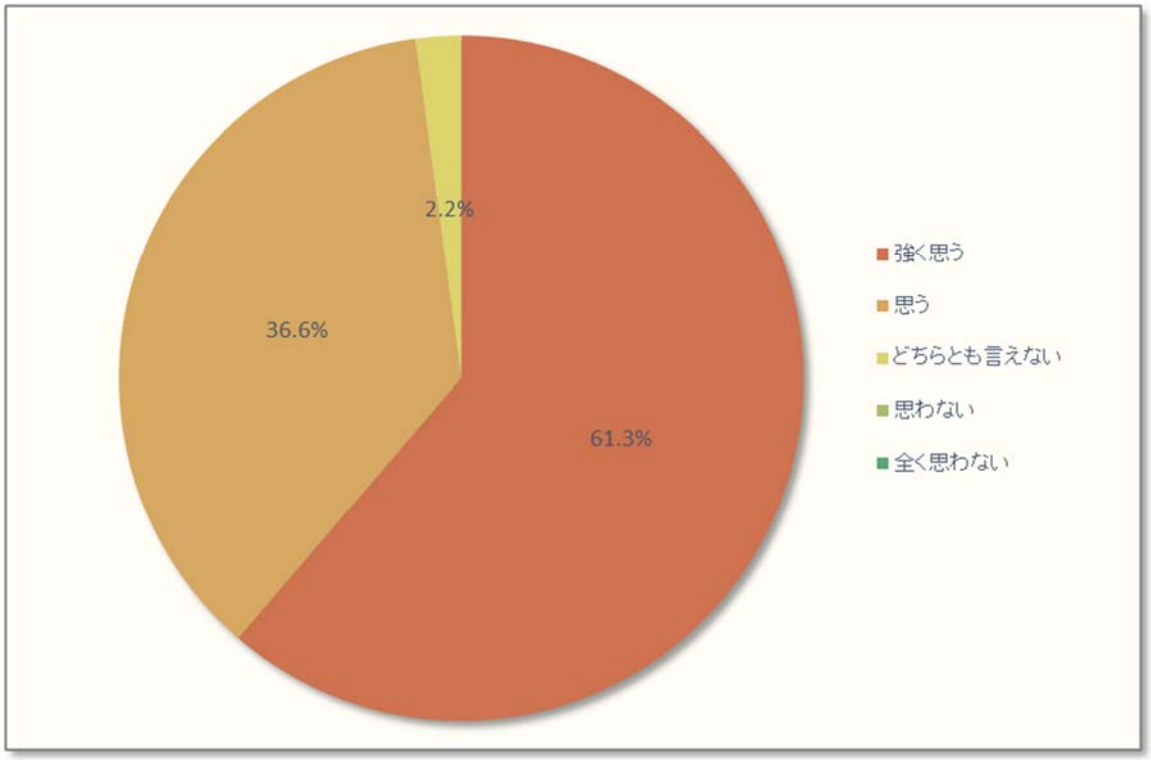


16. 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

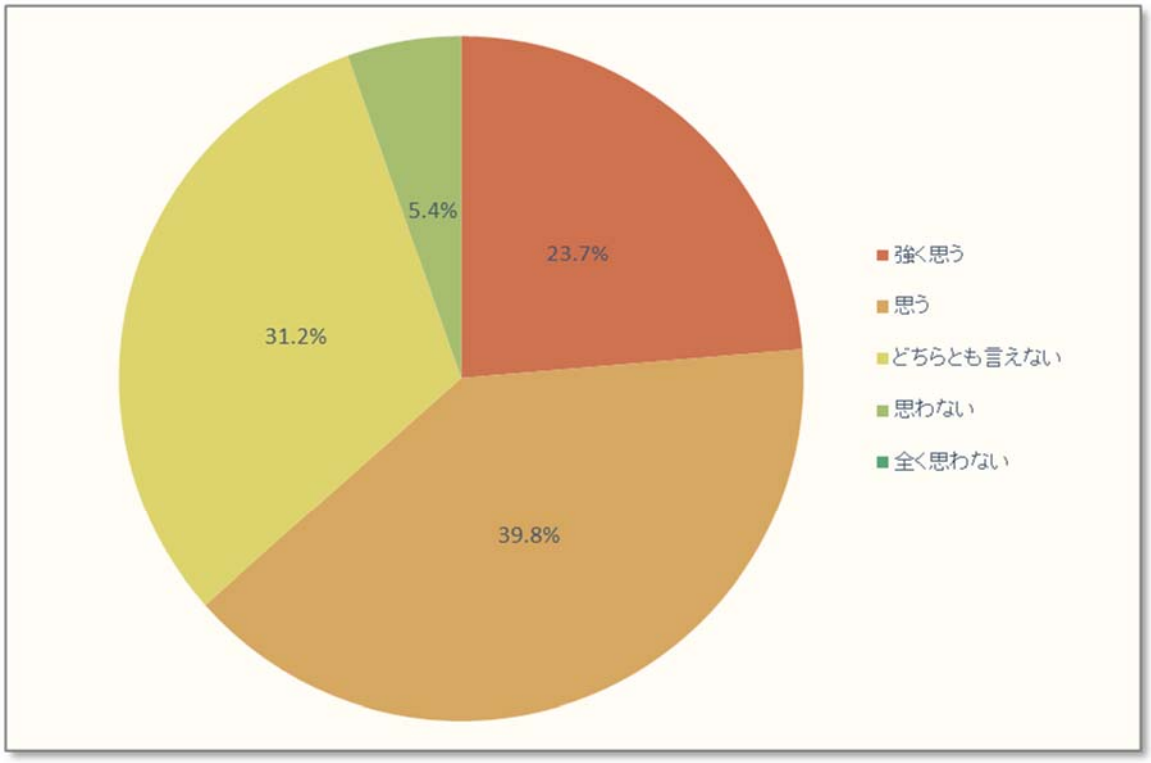
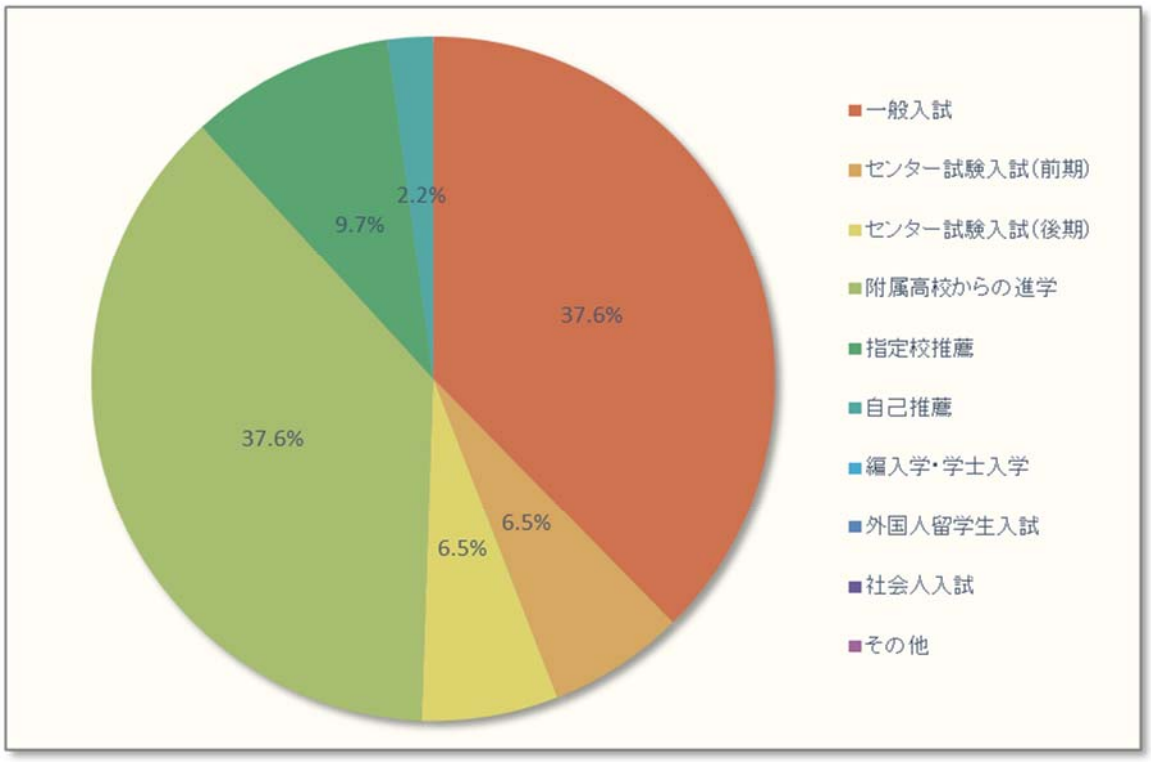


本学卒業にあたっての満足度について伺います。

17. 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



18. 学生生活に関する大学の支援体制（修学支援・キャリア支援・生活支援（心身の健康相談等）・課外活動支援など）は、あなたにとって適切だったと思いますか？



19. あなたが入学した試験形態を教えてください。